

Antenna House PDF Server V3.5 ユーザーズマニュアル

著作権について

本書とソフトウェア、及びそれらに記載されている内容は、著作権法によって保護されています。本書の内容の一部、または全部をアンテナハウス株式会社の書面による許可なく、複製、送信、情報検索のために保存すること、日本語以外の言語に翻訳することを禁じます。

Adobe、Acrobat、および Distillerは、Adobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。

Microsoft、Windows、Excel、PowerPoint、Word、および Visioは米国 Microsoft Corporationの米国およびその他に国における登録商標または商標です。

その他の会社名、製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

製品の保証について

ユーザーが、本ソフトウェア、及びマニュアルを使用することによって生じた、または使用できないことによって生じたすべての損害について、アンテナハウス株式会社、またはその代理人が有形または無形の責任を負うことは一切ありません。

一般的な注意事項

本書で使用している図版は、それぞれ典型的な例であり、実際にソフトウェアを利用している最中の画面、または実物と必ずしも一致しない場合があります。

あらかじめご了承ください。

本書、及びソフトウェアに記載されている事項は、将来改良の為、予告なく変更される事があります。

目次

マニュアルの使い方	1
マニュアルの構成	1
はじめに	3
PDF Server のエディション構成について	3
パッケージ内容の確認	3
ユーザーサポートについて	3
PDF Server を利用するために必要なシステム	4
PDF Server について	5
PDF Server の概要	5

PDF Server の設定	7
標準モード	7
IN/OUT モード【プロフェッショナル版のみ】	8
PDF Server コントロールセンターを起動する【プロフェッショナル版/スタンダード版のみ】	9
PDF Server の変換設定の登録／編集	11
PDF Server V3 変換設定ツールの起動	11
変換設定の作成／編集	12
変換設定	13
入力設定	14
オフィス設定	15
Word 設定	16
Excel 設定	18
PowerPoint 設定	20
アプリケーション変換設定	22
PDF Driver 設定	23
テキスト設定	24
マスク設定	26
領域指定ツールを利用した領域指定	28
マスク領域の指定	29
マスク領域の修正	30
マスク領域の削除	31
OCR 設定	32
OCR 処理設定	33
QR コードのデータ書式について	35
OCR エンジン設定	36
OCR 領域設定	37
領域指定ツールを利用した OCR 領域指定	39
OCR 領域の指定	40
OCR 領域の修正	41
OCR 領域の削除	42
出力設定	43
PDF 設定	44
基本設定	45
高圧縮設定	46
開き方設定	48
文書情報設定	51
セキュリティ設定	52
閲覧制限設定	56
ヘッダ設定	57
フッタ設定	59
テキストウォーターマーク設定	61
イメージウォーターマーク設定	63
QR コード貼付設定	65
TIFF 設定	67
JPEG 設定	68
テキスト設定	69

タスクの設定 - 標準モード編 -	71
フォルダの作成	71
作成するフォルダ	71
PDF Server が出力することができるファイル形式	72
タスク設定の作成／編集	73
タスク基本情報の設定	74
監視時間設定	76
入力ファイル設定	77
出力ファイル設定	81
ファイル出力先の追加	84
無効／除外ファイル設定	85
ファイル結合／分割設定	87
トリガーファイル設定	89
タスクの設定 - IN/OUT モード編 -	91
標準モードとの設定の違い	91
フォルダの作成	91
タスク情報の設定	92
IN/OUT モードオプション	94
入力ファイルの移動先の設定	96
成功時の入力ファイル処理方法	97
失敗時の入力ファイル処理方法	98
出力ファイルの設定	99
ファイル出力先の追加	100
トリガーファイル設定	101
IN/OUT モードでの複数の PDFServer による運用	102
リストファイルの作成	103
コマンドライン実行機能【プロフェッショナル/ コマンドライン版のみ】 ...	105
コマンドライン実行機能とは	105
PDF Server をコマンドで利用するには	105
コマンドライン実行機能のマルチプロセス対応について	106
Microsoft Office 文書の PDF ファイルへのマルチプロセス変換についての注意 ...	106
コマンドの起動スイッチ／オプション	107
コマンド終了時の状態の取得	111
PDF Server V3.5 コマンド GUI【プロフェッショナル/ コマンドライン版のみ】 ...	113
PDF Server V3.5 コマンド GUI	113
PDF Server V3.5 コマンド GUI を起動する	113
Antenna House PDF Server V3.5 コマンド ウィンドウについて	114

PDF Server の共通設定	119
PDF Server の共通設定	119
PDF Server のログ	123
PDF Server のログ	123
PDF コンバーター	125
PDF コンバーターについて	125
PDF コンバーターの起動方法の変更	125
オフィス / アプリケーション文書の PDF 変換を行わない場合	125
リモートデスクトップを利用して操作する場合	126
PDF コンバーターをタスクスケジューラに登録するには	127
ダイアログ自動応答	132
HTML ファイルを PDF ファイルに変換するには	133
ダイアログ自動応答への登録方法	133
PDF スプリッタ【プロフェッショナル / スタンダード版のみ】....	137
PDF スプリッタの概要	137
QR コードを認識して PDF ファイルを分割するには	138
1. 「PDF スプリッタ」の起動	138
2. PDF スプリッタの設定	139
ライセンス情報表示ツール【コマンドライン版のみ】.....	141
トラブルシューティング	143
付録	149
ヘッダ / フッタに設定できる特殊文字	149
日付のフォーマットオプションについて	150
時刻のフォーマットオプションについて	151
PDF Server の対応画像形式について	152
PDF 生成仮想プリンタドライバ「Antenna House PDF Driver 7.5」の印刷設定....	153
Antenna House PDF Driver 7.5 の印刷設定について	154
一般	155
PDF バージョン	158
色	161
圧縮	163
フォント	165
セキュリティ設定	166
出力する PDF のバージョンが PDF1.3 の場合の許可オプション	167
出力する PDF のバージョンが PDF1.4 以降の場合の許可オプション	168
透かし	170
開き方	172
情報	175

マニュアルの使い方

本マニュアルは、「Antenna House PDF Server V3.5(以後、PDF Serverと呼称する)」の使用方法について解説しています。

本マニュアルは、本製品をお使いになるユーザーが、ご利用のWindowsオペレーティングシステムに関する最低限の操作方法(マウスの操作方法等)や用語(クリック、ドラッグ、フォルダ等)を既に修得/理解されていることを前提に作成されています。そのため、Windowsオペレーティングシステムの使用方法についての説明は、すべて省略されています。

Windowsオペレーティングシステムの使用方法について詳しくは、それぞれのマニュアル、関連書籍等を参照してください。

マニュアルの構成

本マニュアルは、以下の様に構成されております。

はじめに

ユーザー登録やユーザーサポートなど、本製品を利用される前に理解していただきたいことについて説明します。

PDF Serverについて

PDF Serverの製品概要について説明します。

PDF Serverの設定

PDF Serverの機能と基本的な設定について説明します。

トラブルシューティング

PDF Serverの設定時や作動時に、設定ミスにより発生しうるトラブルとその解決法をまとめました。設定や動作がうまくいかない場合は、まずこちらをご覧ください。

はじめに

「PDF Server」は、可能な限りどなたでも簡単に操作できるようにデザインされていますが、効果的にご利用いただくためにも、使用する前に本マニュアルを良くお読みください。

PDF Serverのエディション構成について

PDF Server には、以下に示す 3つのエディションがあります。エディションによって利用可能な機能が異なります。

- **スタンダード**
フォルダ監視による変換機能のみを利用できるエディションです。また、同時に起動できる監視タスクの数が、最大 5 個までに制限されています。
- **プロフェッショナル**
PDF Server のすべての機能を利用できるエディションです。スタンダード版の機能に加え、IN/OUT モード、コマンドライン実行機能をご利用いただくことができます。
- **コマンドライン**
文書管理システムなどに組み込みやすくするためにプロフェッショナル版からコマンドライン実行機能と設定アプリケーションを抜き出したものです。

パッケージ内容の確認

「PDF Server」のパッケージには、以下に示すアイテムが含まれています。欠けているものがある場合には、ご購入先の担当営業にご連絡ください。

- PDF Server インストレーション CD-ROM
- ライセンス証書
- 保守契約に関する書類

注意：本製品のマニュアルは、PDF ファイルとして CD-ROM 上に保存されており、製本されたマニュアルは、パッケージに含まれておりません。必要に応じてプリンタで印刷するなどしてご利用ください。

ユーザーサポートについて

お客さまが、製品のユーザーサポートを受けるためには、弊社との間で「保守契約」を締結していただく必要があります。製品に添付されている保守契約に関する書類をご確認ください。(製品購入から 1 年間は、無償で保守サービスを提供しております。)

ご不明な点については、ご購入先代理店の担当者にお問い合わせください。

PDF Serverを利用するために必要なシステム

PDF Server を利用するためには、以下に示すコンピュータシステムが必要です。ソフトウェアをインストールする前にお使いのコンピュータシステムが以下に示す条件を満たしていることを確認してください。

オペレーティングシステム(OS)

Microsoft Windows Server 2016
Microsoft Windows Server 2019 (すべて日本語版)

Microsoft Office (Microsoft Excel/PowerPoint/Word)

Microsoft Office 2013 (32-bit/64-bit版)
Microsoft Office 2016(32-bit/64-bit版)
Microsoft Office 2019(32-bit/64-bit版) (すべて日本語版)

- 注意：・PDF Server を用いて Microsoft Office 文書を PDF ファイルに変換する場合には、上記の Microsoft Office 製品のいずれかを一つだけインストールする必要があります。
- ・Microsoft Visio Visio 2013 以降は、サポート対象外となりました(動作未確認)。
 - ・プラットフォーム動作保証に関する仕様変更により、PDF Serverが対応するOSは、マイクロソフト社のメインストリームサポート期間内のものに限ります。(メインストリームサポートが終了したOSはサポート対象外となります。)

https://www.antenna.co.jp/news/2021/platform_20210426.html

CPU

Intel Pentium4 / 1.2 GHz以上、またはこれと100%の互換性を持つプロセッサ
(Intel Core i7 など 2.0 GHz以上のマルチコアプロセッサを推奨)

メモリ

上記OSが必要とする最低メモリに加えて「PDF Server」用に512MB以上のメモリ
(2GB以上を推奨)

ハードディスク

システムドライブに500MB以上の空き容量が必要(2GB以上の空き容量を推奨)

注意： 上記ディスク容量には、PDF Serverが作成するPDFファイルなどの容量は含みません。

CD-ROMドライブ/アダプタ

上記コンピュータでの完全に動作が保証されているCD-ROMドライブ

PDF Server について

PDF Serverの概要

「PDF Server」は、ローカルディスクまたはネットワーク上のフォルダを定期的に監視し、

- ・ 取得した画像ファイル／PDF ファイルを対象に OCR（Optical Character Reader：光学文字読み取り）処理を施し、得られたテキストを埋め込んだ PDF ファイルを生成／テキストファイルを出力
- ・ 取得した Microsoft Office 文書（Excel/PowerPoint/Word）、TEXT ファイルを PDF ファイルに変換
- ・ 取得した一太郎文書を PDF ファイルに変換
- ・ 取得／生成した PDF ファイルの編集／加工

を行う、ファイル変換サーバアプリケーションです。

「PDF Server」を利用すると：

画像ファイル

(JPEG/JPEG2000/PNG/Multi-TIFF/TIFF/Windows BMP)

PDFファイル

を対象に画像ファイルの場合には、PDF ファイルに変換した後、PDF ファイルの場合には、ページから画像を抽出、または、ページを一旦画像に変換した後、画像について OCR 処理を行い、その結果抽出したテキストを

1. PDFファイルのテキストのイメージに合わせて埋め込む
2. テキストファイルとして出力する

ことなどができます。

また、Microsoft Word、Excel、PowerPoint の文書ファイル（拡張子 ".doc"、".docx"、".xls"、".xlsx"、".ppt"、".pptx"）および一太郎文書ファイル（拡張子 ".jtd"）、TEXT ファイル（拡張子 ".txt"）、XML ファイルについても PDF ファイルに変換することができます。

上記の処理を監視タスクという一つの処理設定として、複数の監視タスクを実行することが可能です。

MEMO：

監視フォルダに登録された、読み取り専用属性／隠しファイル属性が設定されているファイルは、属性を解除した後、移動されます。

重要：

PDF Server を用いて、Office 文書を PDF ファイルに変換するには、PDF Server が動作するコンピュータに必ずログインしなければなりません。

これは、この機能が Office 文書ファイルを製品付属の PDF 生成仮想プリンタ「Antenna House PDF Driver 7.5」を用いて Microsoft Office 2013/2016/2019 で印刷することによって実現していることによります。

処理対象となる入力ファイル名に半角の「,（カンマ）」、「;（セミコロン）」が含まれると正常に変換できない可能性があります。無用なトラブルを避けるためにもファイル名、またファイルのフルパスにこのような文字が含まれないようにすることを強くお勧めします。

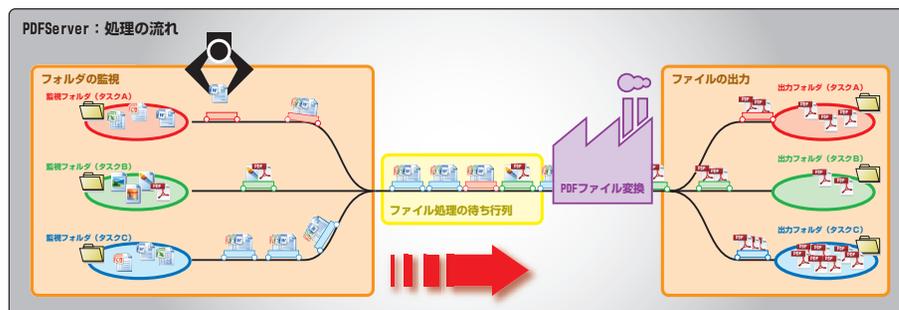
PDFServer が扱える PDF ファイルのバージョンは PDF 1.x（～ 1.7）となっており、PDF 2.0 には対応しておりません。

PDF Server の設定

「PDF Server」を運用するには、「タスク」と呼ばれる監視／出力フォルダに関する設定と「変換設定」と呼ばれる「タスク」が使用する変換処理設定を登録します。

監視フォルダ(入力フォルダ)とは、PDF Serverによって処理する対象となるファイル(画像ファイル、Microsoft Officeファイル等)を保存するディレクトリです。

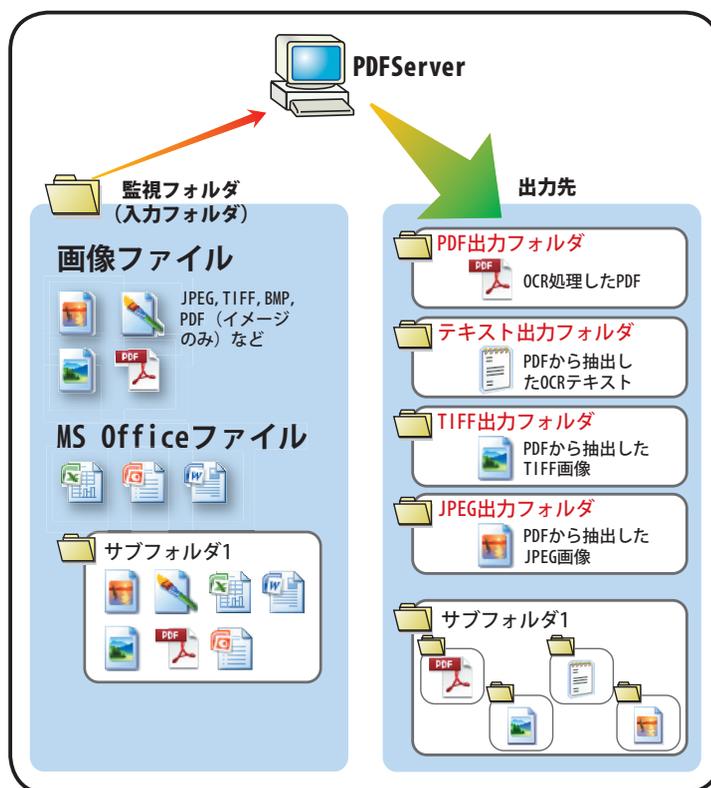
このディレクトリは「タスク」に設定されたスケジュールに基づき定期的にPDF Serverによって監視されます。登録された「タスク」を実行すると監視フォルダへアップロードされたファイルは、「タスク」に割り当てられた「変換設定」に従った処理が施され、出力フォルダに目的のファイルが出力されます。



「PDF Server」は、その利用形態により「標準モード」と「IN/OUTモード」の2つの設定モードのいずれかを選択することができます。この「モード」は、「タスク」毎に指定することができます。

標準モード

標準モードとは、一つの監視フォルダ(入力フォルダ)とこれに対応する一つの出力先フォルダを指定するモードです。出力先フォルダは、出力するファイルの種類毎に指定することができます。また、監視フォルダ内に作られたサブフォルダも処理対象にすることができ、出力先フォルダに同一のサブフォルダを生成して出力することもできます。

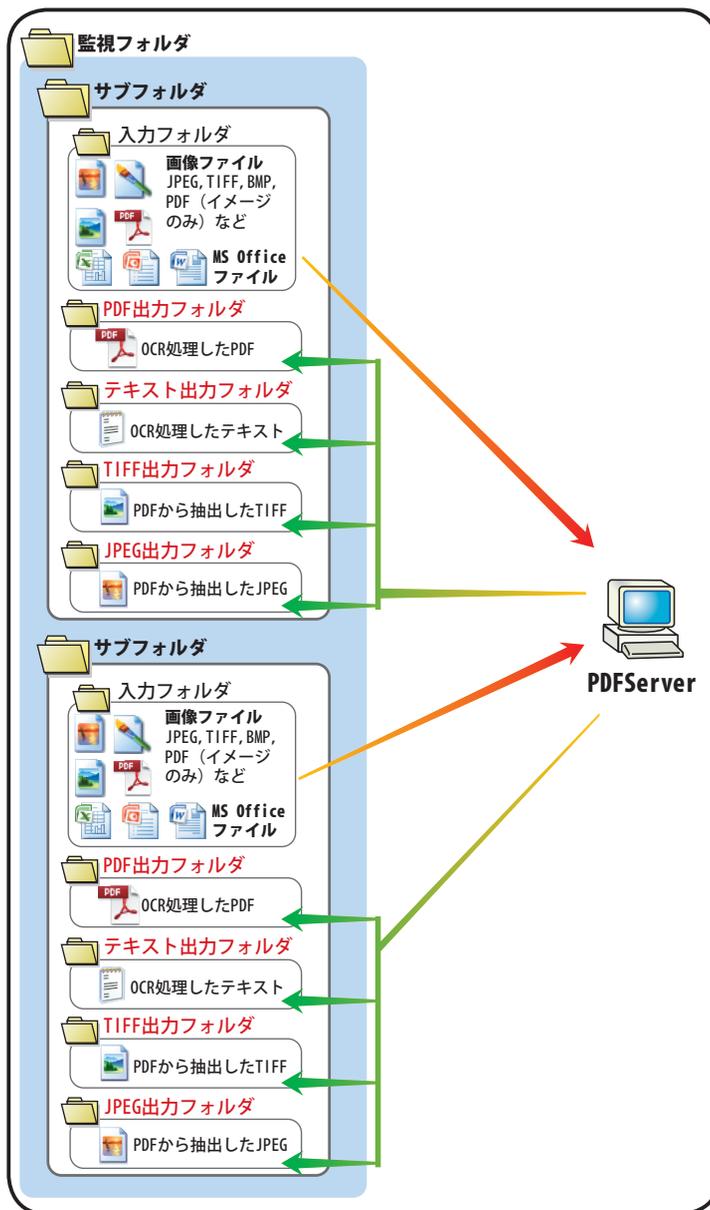


IN/OUTモード【プロフェッショナル版のみ】

「IN/OUT」モードとは、PDF Serverプロフェッショナル版だけで利用できる機能で、監視対象となる複数のフォルダを内包する監視フォルダ(IN/OUTモードの指定フォルダ)を指定し、その直下の階層にあるすべてのフォルダ(サブフォルダ)内にある特定の名称がついたフォルダ(入力フォルダ)を処理対象とすることができるモードです。

注意: それぞれのサブフォルダ内の入力/出力フォルダの名称は、すべて同じでなければなりません。

「IN/OUT」モードについての詳細は、「[タスクの設定 -IN/OUTモード編 -](#)」を参照してください。



PDF Server コントロールセンターを起動する【プロフェッショナル版/スタンダード版のみ】

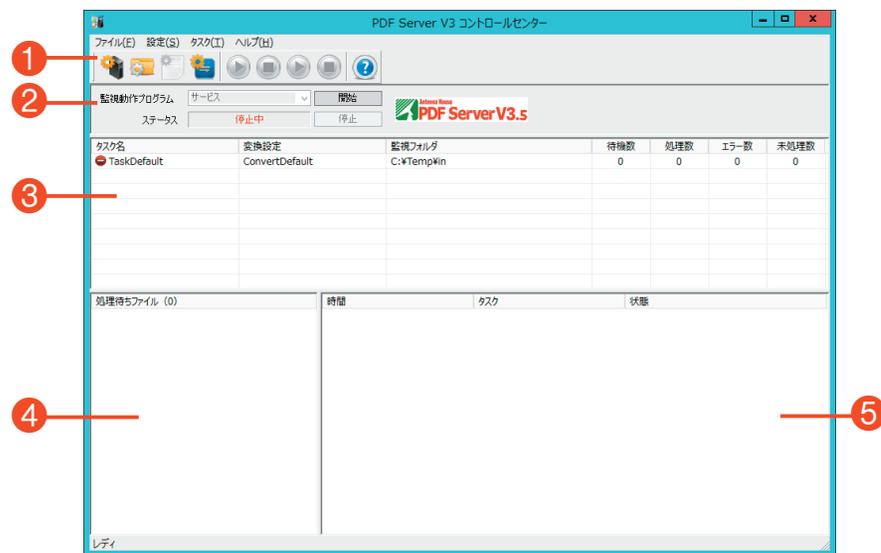
タスク／変換設定を行うには、PDF Server コントロールセンターを用います。デスクトップに作成されているショートカット「PDF Server V3.5 コントロールセンター」をダブルクリックして、「PDF Server V3 コントロールセンター」を起動します。



PDF Server V3.5 コントロールセンターのショートカットアイコン

MEMO :

「PDF Server コントロールセンター」は、フォルダ監視に関わる設定や制御、ログ表示などを行なうアプリケーションです。そのため、コントロールセンターをコマンドライン版で利用することはできません。



PDF Server V3.5 コントロールセンターウィンドウ

① ツールボタン

このエリアのボタンを使って PDF Serverのタスク設定／変換設定、並びにタスクの開始／終了します。

	「PDF Server 設定」ダイアログを表示し、タイムアウトやシステム監視などに関する設定を行います。
	「タスク設定」ダイアログを表示し、新規にタスク設定を行います。
	選択しているタスクについての「タスク設定」ダイアログを表示します。
	「PDF Server V3 変換設定ツール」を起動し、タスクに割り当てる変換設定の作成／編集を行います。
	登録されているすべてのタスクを「開始」します。
	登録されているすべてのタスクを「停止」します。
	選択しているタスクを「開始」します。
	選択しているタスクを「停止」します。
	PDF Server のバージョン／エディション情報など、プログラムについての情報を表示します。

② サービス
コントロール部



このエリアを使ってサービス「AH PDFServer V3 Service」の制御、及びその動作状況を表示します。

監視動作プログラム

このコンボボックスを用いて、監視対象となるプログラムを選択し、コンボボックス右の開始/停止ボタンを用いて、プログラムを制御します。

ステータス

コンボボックス「監視動作プログラム」で選択されているプログラムの現在の動作状況を示します。表示されるステータスは、以下の通りです。

停止中	プログラムが停止していることを示します。
起動動作中...	プログラムの起動シーケンスが進行中であることを示します。起動が完了すると表示が“起動中”に変わります。
起動中	プログラムが動作中であることを示します。
停止動作中...	プログラムの停止シーケンスが進行中であることを示します。プログラムが停止すると表示が“停止中”に変わります。

③ タスクリスト

このエリアに登録されているタスクについての情報がリスト表示されます。また、リスト中のアイテムをダブルクリックすると「タスク設定」ダイアログを表示してタスクの編集を行うことができます。

タスク名	監視タスク名を表示します。タスクの状態は、アイコンによって表されます。  タスクが停止中であることを示します。  タスクが動作中であることを示します。
変換設定	タスクに割り当てられている変換設定名を表示します。
監視フォルダ	監視対象となるフォルダのフルパスを表示します。
待機数	タスク処理の対象となる待ち行列に登録されているファイル数を表示します。
処理数	既に処理が正常に完了したファイル数を表示します。
エラー数	今までに処理したものの内、エラー処理されたファイル数を表示します。
未処理数	監視フォルダ内に保存されているファイル数（ファイルの種類にはよみません）を表示します。

④ 処理待ちファイル
リスト

このエリアにキューイングされた処理待機中のファイルリストが表示されます。キューイングされたファイルは、リストの上から順に処理されます。

⑤ ログ表示領域

このエリアに PDF Serverの最新の動作ログが表示されます。

PDF Serverの変換設定の登録／編集

ここでは、タスクに割り当てる変換設定の設定／編集方法について説明します。

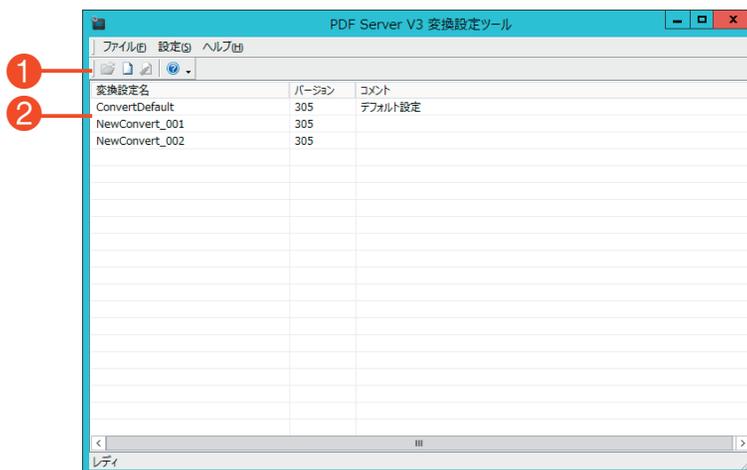
PDF Server V3 変換設定ツールの起動

以下のいずれかの方法を用いて PDF Server V3 変換設定作成ツールを起動し、変換設定作成ツールウィンドウを表示します。



「変換設定」ボタン

1. PDF Server V3 コントロールセンターのツールバー上の「変換設定」ボタンをクリックする。
2. PDF Server V3 コントロールセンターの「設定」メニューから「変換設定」を選択する。
3. 「スタート」メニューから、「Antenna House PDF Server V3.5」→「変換設定ツール」を選択する。



「PDF Server V3 変換設定作成ツール」ウィンドウ

- ① ツールボタン このエリアのボタンを使って変換設定の操作等を行います。

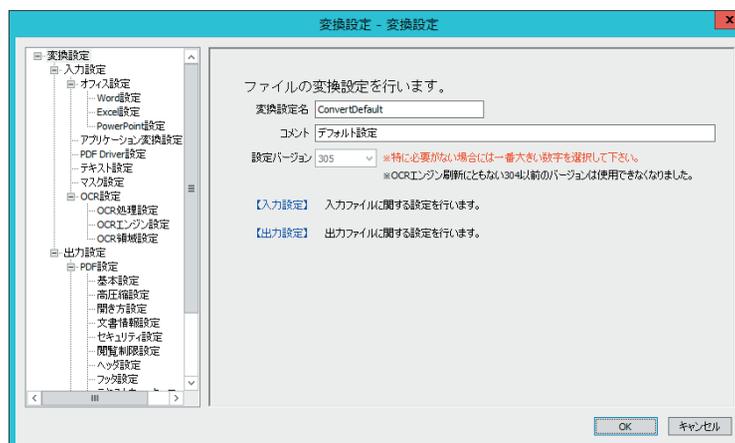
	変換設定ファイル（拡張子：INI）が格納されているフォルダを指定するための「フォルダの参照」ダイアログを開きます。 なお、コントロールセンターからこのツールを起動した場合、このボタンは機能しません。
	変換設定を新規に作成するために変換設定ダイアログを表示します。
	選択されている変換設定を開きます。
	バージョン情報など、変換設定作成ツールについての情報を表示します。

- ② 変換設定リスト このエリアに登録済の変換設定名と変換設定に付加されているコメントがリスト表示されます。
※ 登録されている変換設定を右クリックして表示されるコンテキストメニューを用いて変換設定を編集／削除することができます。

変換設定の作成／編集

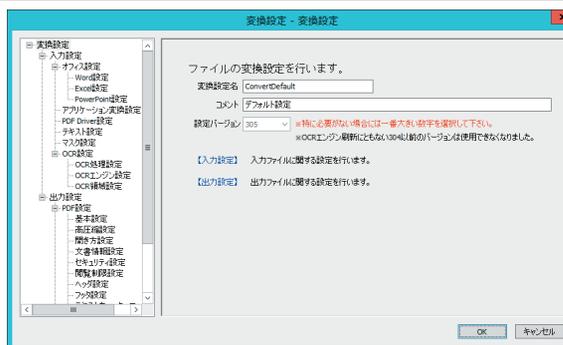
次のいずれかの方法で「変換設定」ダイアログを表示し、変換設定を作成／編集します。

1. ツールバー上の「変換設定の新規作成」ボタンをクリックする。
2. 「設定」メニューから「新規 ...」を選択する。
3. リストに登録されているアイテムをダブルクリックするか、アイテムを右クリックして表示されるコンテキストメニューから「変換設定を編集する ...」を選択する。



「変換設定」ダイアログ

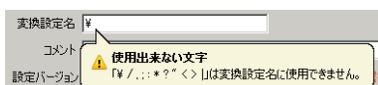
変換設定



「変換設定」ダイアログ

この画面を用いて、変換設定ツールのリストに表示される変換設定名、設定内容についての簡単なコメント、過去に出荷された版との互換性をとるための変換設定のバージョンを設定します。

注意： 変換設定は、「変換設定名」フィールドに入力した文字列をファイル名として保存されるため以下の半角文字を利用することが出来ません。(これらの文字を入力した場合、左図の様にメッセージが表示されます。)



¥ / ; : * ? " < > |

もし、変換設定名にこれらの文字を用いたまま保存した場合、該当するすべての文字が自動的に「@」に置換されます。

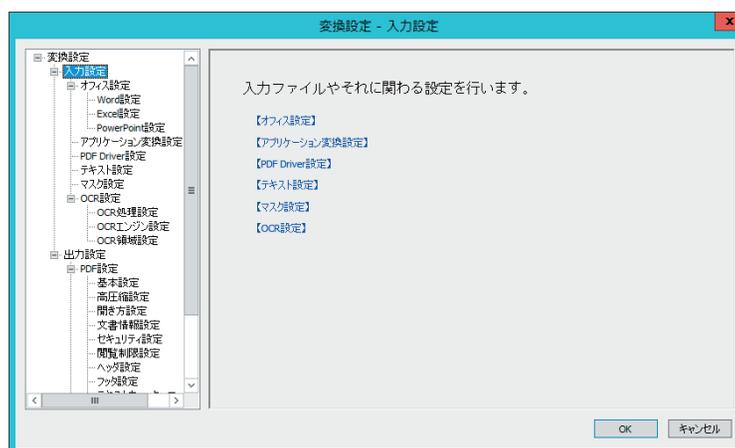
また、ページ上のリンクをクリックするとリンクに対応する設定画面を表示します。

※ OCRエンジンなどの更新に伴い、「304」以前の設定バージョンを選択できなくなりました。

設定のバージョン	対応する PDFServer		変更箇所
	プロフェッショナル/スタンダード版	コマンド版	
～ 304	V3.0MR10 ～ / V3.1MR 2 ～	V3.0 MR 9 ～ / V3.1MR 2 ～	選択できなくなりました。
305	V3.5 初版	V3.5初版	<p>【以前からの変更点】</p> <p>OCR 設定→ OCR エンジン設定 OCR テキストの色指定がなくなり、透明色に固定されました。</p> <p>PDF 設定→基本設定 PDF バージョン指定がなくなりました。</p> <p>PDF 設定→イメージウォーターマーク設定 透明化が指定できない場合があります。</p>

入力設定

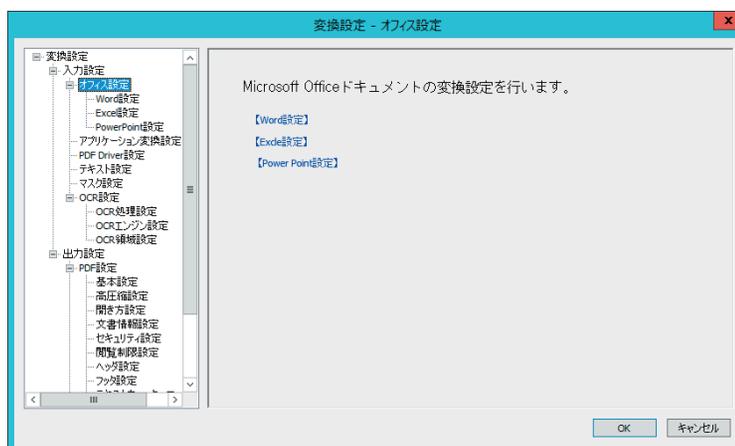
この画面のリンクをクリックするとリンクに対応する入力設定画面を表示します。



「入力設定」画面

オフィス設定

Microsoft Excel / Word / PowerPointファイルを PDFファイルに変換する際のオプション設定を行います。ページ上のリンクをクリックするとリンクに対応する Office アプリケーションについての設定画面を表示します。



「オフィス設定」画面

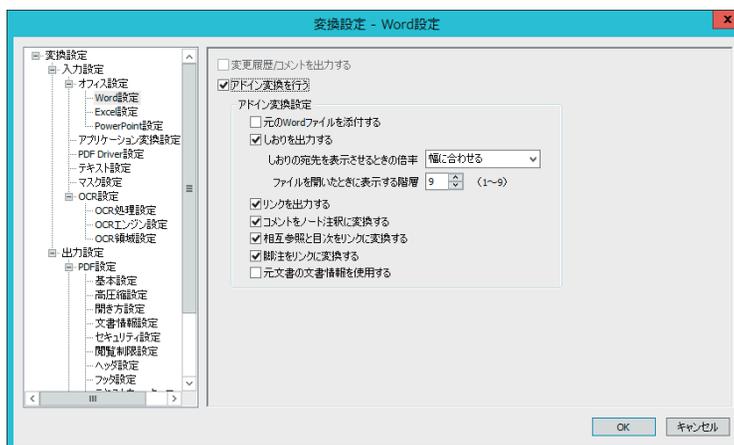
重要: この機能は、対象となる Office文書ファイルを製品付属の PDF生成仮想プリンタ「Antenna House PDF Driver 7.5」を用いてコンピュータにインストールされている Microsoft Office 2013/2016/2019で印刷することによって実現しています。そのため、この機能を利用するには、必ずコンピュータにログインしなければなりません。

Word設定

Microsoft WordファイルのPDF変換時に対象となるWordファイルに設定されている変更履歴／コメントの出力についての設定を行います。

MEMO：

「アプリケーション変換設定」画面で拡張子「DOC」、「DOCX」を登録してアプリケーション変換を有効に設定した場合、この画面での設定は無視されます。



「Word設定」画面

変更履歴／コメントを出力する Word文書の内容だけではなく、文書に設定されている変更履歴／コメントも同時にPDFファイルに出力します。なお、このオプションは「アドイン変換を行う」と同時に選択できません。

アドイン変換を行う PDF DriverのOffice用アドインを用いてPDFファイルに変換します。なお、このオプションは「変更履歴／コメントを出力する」と同時に選択することができません。

元のWordファイルを添付する 出力するPDFファイルに変換対象となるWordファイルを添付ファイルとして埋め込みます。

しおりを出力する Word文書中に設定されている標準スタイル(「見出し1」など)を「しおり」として設定します。

しおりの宛先を表示させる時の倍率
しおりの宛先を開いた時のPDFのページの表示倍率を設定します。

ファイルを開いたときに表示する階層
PDFファイルを開いた直後に表示するしおりの階層を設定します。

リンクを出力する Word文書中に設定されているハイパーリンク(外部ファイルへのリンク、Webページへのリンク、ドキュメント内のリンク、電子メールアドレス)を出力するPDFファイルに設定します。

コメントをノート注釈に変換する
Word文書中のコメントがPDFのノート注釈として出力されます。

相互参照と目次をリンクに変換する
Word文書中の相互参照と目次が、リンクとしてPDFファイルに出力されます。

脚注をリンクに変換する Word文書中に設定されている脚注への参照が、リンクとしてPDFファイルに出力されます。

元文書の文書情報を使用する Word文書の「プロパティ」に設定されている内容を出力するPDFファイルの文書情報に設定します。

注意: 「Microsoft Word」ファイルを PDFファイルに変換するには、Microsoft Office Word 2013/2016/2019が PDF Serverをインストールしたコンピュータにインストールされている必要があります。

ドライバ付属のアドインがインストールされていなかったり、Microsoft Officeにアドインが登録されていない場合には、オプション「アドイン変換を行う」が選択されていても、通常の変換処理によって PDFファイルが出力されます。(アドイン変換設定での指定は全て無視されます。)

アドイン変換のオプション「元文書の文書情報を使用する」を利用する場合、「PDF Driver設定」のオプション「出力 PDFファイルに出力設定を適用しない」を「有効」にする必要があります。このオプションが無効の場合、Wordファイルの文書情報は、出力される PDFファイルに反映されません。

Word文書作成時に「変更履歴の記録」を行っていると、編集集中に削除した部分も残っているため、これから出力した PDFファイルでしおり／リンクがずれ、意図した部分に設定されないことがあります。

出力方法

Excelファイルに含まれる複数のシートを出力する際のオプション設定を行います。

シート別に出力する Excelファイル中の出力対象となるシートごとに異なる PDFファイルとして出力します。

シートを1つのブックにまとめる

Excelファイル中の出力対象となるすべてのシートを1つのPDFファイルにまとめて出力します。

PowerPoint設定

Microsoft PowerPointファイルの PDF変換時に、対象となる PowerPointファイルの印刷オプションの設定を行います。

MEMO：

「アプリケーション変換設定」画面で拡張子「PPT」、「PPTX」を登録してアプリケーション変換を有効に設定した場合、この画面での設定は無視されます。



「PowerPoint設定」画面

印刷設定

PowerPointファイルの PDF変換時にこのエリアで設定した条件で PDFファイルを作成します。設定項目とその内容は以下の通りです。

色 PDFファイルを出力する場合のカラーモードを、コンボボックスから“カラー”、“白黒”、“グレースケール”より指定できます。

印刷対象 PDFファイルを出力する場合のスライドの形態を、コンボボックスから PowerPointの“スライド”、“配布資料”、“ノート”、“アウトライン表示”より指定できます。この項目で“配布資料”を指定した場合、「配布資料」エリアで出力形態の詳細を指定します。

スライドに枠をつける

このチェックボックスにチェックを入れると、PDFファイルに出力する場合、スライドに枠をつけて出力します。

非表示スライドを印刷する

このチェックボックスにチェックを入れると、PowerPointで非表示に設定されているスライドも出力されます。

用紙サイズに合わせる

このチェックボックスにチェックを入れるとスライドを用紙サイズに合わせて出力します。

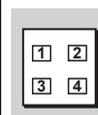
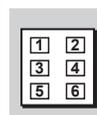
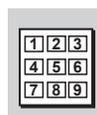
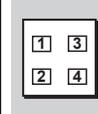
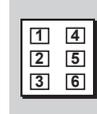
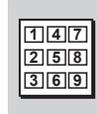
配布資料「印刷対象」コンボボックスで“配布資料”を指定した場合の出力オプションを指定します。

1ページあたりのスライド数

PDFファイルの1ページにレイアウトするスライドの数をコンボボックスから2、3、4、6、9より指定します。

並べ方

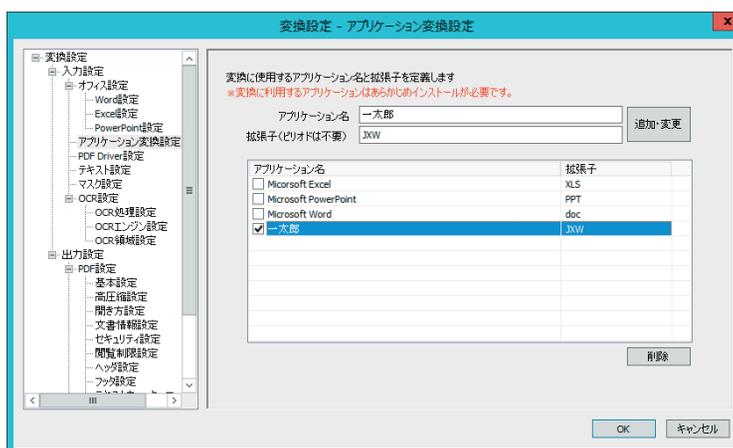
PDFファイルの1ページにレイアウトするスライド数が4、6、9のいずれかの場合、スライドのレイアウト方向を横位置(横方向)または縦位置(縦方向)のいずれかから指定できます。

スライドの数	4	6	9
横位置の レイアウト			
縦位置の レイアウト			

注意: 「Microsoft PowerPoint」ファイルをPDFファイルに変換するには、Microsoft Office PowerPoint 2013/2016/2019がPDF Serverをインストールしたコンピュータにインストールされている必要があります。

アプリケーション変換設定

指定した拡張子の文書ファイルを PDFファイルに変換します。



「アプリケーション変換設定」画面

- 重要:**
- この機能は、登録した拡張子に関連付けられているアプリケーションの印刷機能を用いて、製品付属の PDF生成仮想プリンタ「Antenna House PDF Driver 7.5」で印刷することで実現しています。関連付けられているアプリケーションによっては、印刷処理を行う際にダイアログが表示されるなどして、この方法を用いることができない場合があります。その場合には、この機能を使用せず、他の方法を用いて PDFファイルを作成してください。
 - この機能を利用するには、この画面で登録した拡張子の文書ファイルを印刷できるアプリケーションを PDF Serverを動作させるコンピュータにインストールし、その拡張子とインストールするアプリケーションを関連付ける必要があります。
 - この機能を利用する場合には、必ずコンピュータにログオンする必要があります。
 - 拡張子「DOC」、「PPT」、「VSD」、「XLS」を登録するとこれらの拡張子と関連付けられている Microsoft Office/VISIOを用いて、Office文書の PDFファイルへの変換を試みます。これにより、Office 2010より古い Office XP/2003/2007などへの対応が可能となります。しかし、この方法は緊急回避的なものであり、アプリケーション変換機能が優先されるため、オフィス文書設定(Excel/PowerPoint)画面での設定はすべて無視されます。また、この処理により出力される結果が意図しない物となったり、処理の途中でエラーが生じるなどして出力できない場合があることをあらかじめご了承ください。
 - 画像ファイルの拡張子(「BMP」、「JPG」、「JPEG」、「J2K」、「J2P」、「PNG」、「TIF」、「TIFF」)、「PDF」は、システム拡張子として登録されているため、これらを登録することはできません。

アプリケーション名・拡張子の登録/変更

「アプリケーション名」、「拡張子」それぞれのフィールドに変換対象となるアプリケーション名と拡張子を入力した後、「追加・変更」ボタンをクリックして登録/変更を行います。

アプリケーション名・拡張子の登録削除

リスト中の削除対象となる項目をクリックして選択した後、「削除」ボタンをクリックして登録を削除します。

アプリケーション変換の有効/無効の切り替え

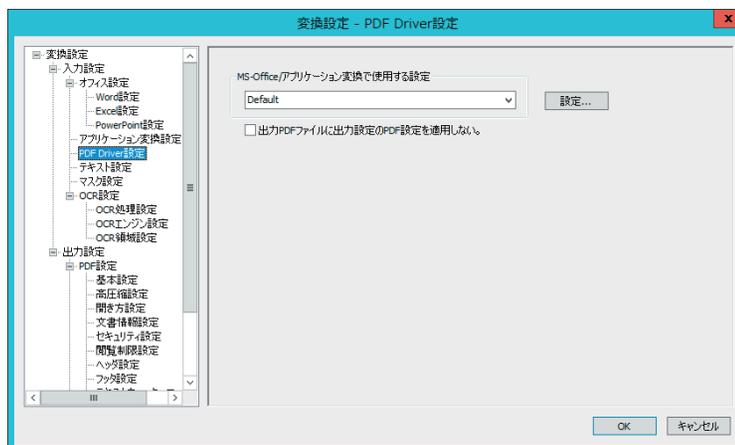
チェックマークが付いている拡張子のファイルについてアプリケーション変換を実行します。

MEMO :

画像ファイルは、直接 PDF ファイルに変換されるため、出力される PDF ファイルには「プリンタドライバ設定」画面で設定されているオプションは適用されません。

PDF Driver設定

Microsoft Officeファイル、「アプリケーション変換設定」画面で登録されている拡張子を持つ文書ファイルから PDFファイルを作成するために使用するプリンタドライバ「Antenna House PDF Driver 7.5」が PDFファイルを出力する際に用いる印刷設定を指定します。



「PDF Driver設定」画面

「MS-Office/アプリケーション変換で使用する設定」コンボボックス

このコンボボックスを用いて、文書ファイルから PDFファイルを作成する際に用いる「Antenna House PDF Driver 7.5」の印刷設定を選択します。

「設定...」ボタン

文書ファイルから PDFファイルを作成する際に用いる「Antenna House PDF Driver 7.5」の印刷設定を作成／編集するための「Antenna House PDF Driver 7.5のプロパティ」ダイアログボックスを表示します。



「Antenna House PDF Driver 7.5のプロパティ」ダイアログボックス

「Antenna House PDF Driver 7.5」の印刷設定についての詳細は、[付録：PDF生成仮想プリンタドライバ「Antenna House PDF Driver 7.5」](#)の項を参照してください。

MEMO :

Word文書をアドイン変換する際のオプション「元文書の文書情報を使用する」は、PDF Driver設定のオプション「出力 PDF ファイルに…」を有効にしないと機能しません。

出力 PDFファイルに出力設定の PDF設定を適用しない

出力される PDF ファイルの設定（圧縮／フォントの埋め込み／透かし／セキュリティ設定など）を PDF Server の変換設定によってではなく、PDF Driver の印刷設定によって行う場合、チェックマークをつけます。このオプションを選択すると出力設定の PDF ファイルに関する設定（開き方／文書情報／セキュリティなど、変換設定ダイアログの「PDF 設定」以下の設定項目）、タスク設定のファイル結合／分割設定が無視されます（機能しません）。

テキスト設定

テキストファイルをPDFファイルに変換する際のオプション設定を行います。



「テキスト設定」画面

変換時に使用するフォント名

ページ上のテキストに使用するフォントとそのサイズを指定します。

フォント名 ...「フォント名」コンボボックスから、使用するフォント名を選択します。初期状態では、「MSゴシック」に設定されています。

サイズ「サイズ」フィールドに使用するフォントサイズをポイント単位で指定します。設定可能な値の範囲は、8～72で、初期状態では9ポイントに設定されています。

用紙

出力するPDFファイルのページの用紙サイズとその向きを指定します。

出力用紙サイズ

.....用紙のサイズを「出力用紙サイズ」コンボボックスで指定します。あらかじめ設定されている用紙サイズは以下の通りです。(初期状態では、A4サイズに設定されています。)

	幅	高さ
A3	297	420
A4	210	297
B4	257	364
B5	182	257

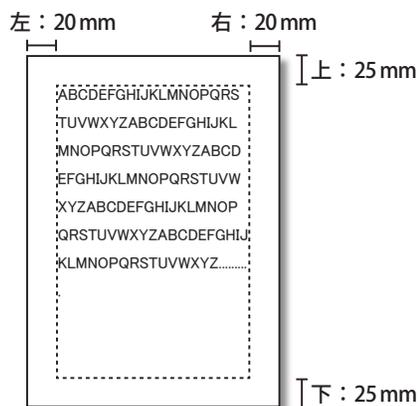
(単位: mm)

このコンボボックスで「任意」を選択すると出力用紙サイズの幅/高さをmm単位で設定することができます。なお、用紙の幅/高さとして設定でできる値の範囲は、1～9,999mmです。

向きラジオボタンを使って出力するPDFの用紙の向きを「縦(ポートレート)」、「横(ランドスケープ)」いずれかから選択します。初期状態では「縦」に設定されています。「横」を指定した場合、上のリストにある用紙サイズの「幅」、「高さ」の数値が入れ替わることになります。

余白(mm)

テキストを出力する PDFファイルのページの上下、左右端部の余白を mm単位で指定します。余白は、0～50の範囲の数値を「上」、「下」、「左」、「右」の各フィールドに入力することによって行います。初期状態では、それぞれ 25、25、20、20(mm) に設定されています。



行番号

出力するテキスト各行の先頭に行番号を付加する場合、チェックボックス「行番号を付加する」にチェックマークを付けます。

行番号のゼロ詰め桁数

..... 行番号を表示する桁数を、1から 10までの整数値で指定します。設定される連番が指定した桁数に満たない場合、連番の前に "0"を付けて桁数を合わせます。

行番号と本文の間隔(mm)

..... 行番号と本文の間隔をmm単位で設定します。設定可能な値の範囲は、1～999 mmです。

ページ番号を付加する

出力する PDFファイルにページ番号を付加する場合、チェックボックス「ページ番号を付加する」にチェックマークを付けます。

注意：

マスク処理は入力ファイルが画像ファイルとPDFファイルの場合のみ行うことができます。Microsoft Office および TEXT ファイルなど画像とPDF以外のファイルを対象にマスク処理を行うことはできません。

マスク設定

対象となる画像または PDFファイルについて、マスク領域として指定した矩形範囲を白く塗りつぶして出力します。マスク処理を OCR処理と同時に行った場合、マスク領域が白く塗りつぶされているため、OCR処理によってこの領域から有意なテキストを得ることができません、また PDFファイルからは、元文書にあったテキストや画像が消えてしまいます。これは、その結果出力されるファイルにもマスクに該当する箇所のデータは出力されないことを意味します。

同時に処理によって出力される TIFF/JPEGファイルも、マスク箇所が白く塗りつぶされた状態で出力されます。

※ マスク設定をせずに元の画像ファイルから出力する以外、出力されたファイルを使ってマスク箇所を復元することはできません。



「マスク設定」画面

入力画像をマスクする

マスク設定を行う、またはマスク設定を有効にする場合にこのチェックボックスにチェックマークをつけます。

マスク座標

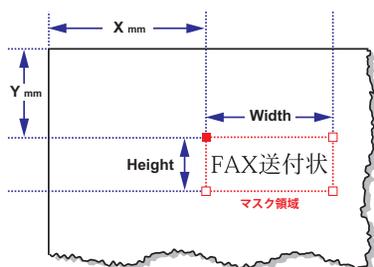
マスク領域の指定／編集には、座標を数値入力により指定する方法と専用のツールにより対象となる画像を視覚的に確認しながら、マスク対象となる領域をマウスでドラッグして指定する方法の2種類が用意されています。また、マスクは、最大で10箇所指定することができます。

追加 新たにマスク領域を追加するには

1. 「追加」ボタンをクリックして「領域設定 - マスク設定」ダイアログを開きます。

「領域設定 - マスク設定」ダイアログ

2. これらのフィールドを使って、マスクする箇所の矩形領域を指定します。座標は、ページ左上を基準に矩形の左上角の座標(X, Y)とマスク領域の幅(Width)、高さ(Height)を0.00～1189.00までの数値(単位: mm)で指定します(左図参照)。
3. 設定に間違いがないことを確認した後、「OK」ボタンをクリックしてマスク座標を決定します。ここで登録したマスク座標が、「マスク座標」リストに追加されます。



マスク座標
各座標入力値: 0.00～1189.00 mm

<input checked="" type="checkbox"/> 入力画像/PDFをマスクする				
X	Y	Width	Height	
58.73	93.65	179.36	71.43	追加...
65.06	613.76	146.58	194.71	編集...
438.09	276.72	169.85	87.30	削除
423.28	602.65	166.67	80.95	

編集

設定されているマスク領域を編集するには、

1. 「マスク座標」リスト中の対象となるマスク座標をクリックして選択した後、「編集」ボタンをクリックするか、リスト中のマスク座標をダブルクリックして「領域設定 - マスク設定」ダイアログを開きます。
2. マスクを追加した時と同様、各入力フィールドに数値を入力してマスク領域の設定を変更します。
3. 「OK」ボタンをクリックして変更したマスク領域設定を保存します。

削除

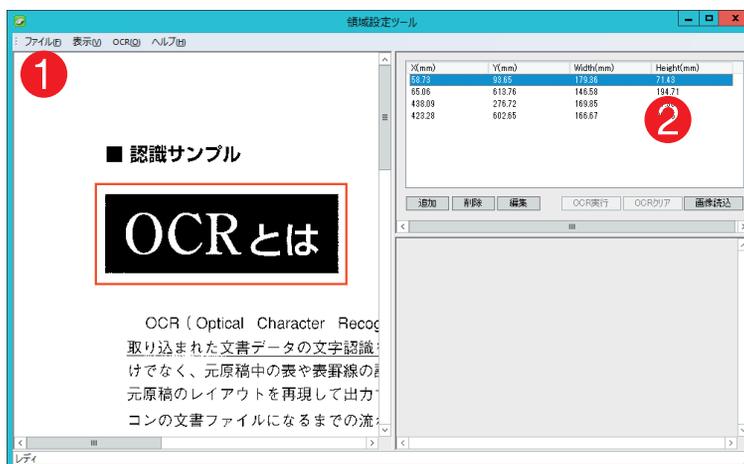
設定されているマスク領域を削除するには、

1. 「マスク座標」リスト中の削除対象となるマスク座標をクリックして選択します。
2. 「削除」ボタンをクリックして削除します。

領域指定ツールを利用した領域指定

領域指定ツールを利用してマスク座標の領域を指定するには、「領域設定」ボタンをクリックして「領域指定ツール」ウィンドウを開きます。

領域指定ツールは、マスク領域を指定する場合のほか、OCR領域を設定する場合にも利用します。



領域指定ツールウィンドウ

- ① ワークエリア 領域指定する画像を表示し、マウスカーソルで操作して領域指定を行うエリアです。
- ② 座標表示ペイン 現在設定されているマスク座標がここに表示されます。

注意：

「領域設定ツール」のワークエリアに読み込めるのは、画像ファイルだけです。PDF ファイルを読み込んで領域指定することはできません。



リスト初期化確認ダイアログ

マスク領域の指定

1. 「領域設定」ボタンをクリックすると、ワークエリアが空白の「領域指定ツール」ウィンドウが開きます。座標表示ペインに設定されているマスク座標がリスト表示されます。
2. 「画像読込」ボタンをクリックして表示される「イメージファイルの選択」ダイアログを使って、領域を指定する際に使用する画像ファイルを開きます。既に座標表示ペインにマスク座標がリスト表示されている場合には、リストを初期化するか否かを確認するダイアログが表示されます。

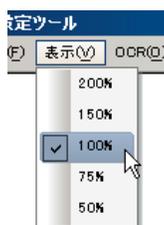


注意：画像ファイルを開くまで、「領域設定ツール」ウィンドウのワークエリアを用いて、マスク領域の追加を行うことはできません。

3. 画像がワークエリアに表示されます。既にマスク座標が設定されている場合には、ワークエリア内にそれぞれのマスク領域が矩形で表示されます。

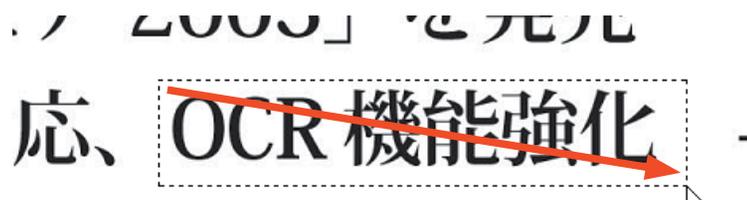


ワークエリアの表示倍率によっては、マスク領域が判別できない場合がありますので、その場合には、「表示」メニューを使ってワークエリアの表示倍率を変更してください。初期状態では、100%(実寸)表示されています。



「表示」メニュー

4. ワークエリア内で、マスクに指定する領域をドラッグして設定します。



5. ドラッグした座標が「座標表示ペイン」に追加されます。マスク領域は、最大 10 箇所まで設定することができます。
6. マスク領域の設定が終了したら、「ファイル」メニューから「終了」を選択するか、ウィンドウのクローズボックスをクリックして領域情報を変換設定に反映します。

マスク領域の修正

既に設定されているマスク領域を修正します。

1. 座標表示ペインにリストアップされている修正対象となるマスクをクリックして選択します。対象となるマスクは、ワークエリア内で“赤色”の実線で表示されます。
2. 「編集」ボタンをクリックするか、リスト上の対象項目をダブルクリックして「領域設定 - マスク設定」ダイアログを表示し、マスク領域を修正します。

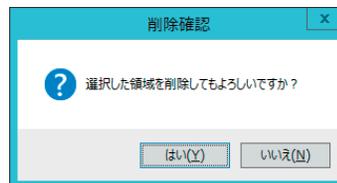


「領域設定 - マスク設定」ダイアログ

マスク領域の削除

既に設定されているマスク領域を削除します。

1. 座標表示ペインにある削除対象となるマスクをクリックして選択します。
ワークエリア内で選択されているマスクは、“赤色”の実線で表示されます。
2. 「削除」ボタンをクリックします。マスク領域の削除を確認するダイアログが表示されますので、削除する場合には「OK」ボタンをクリックして削除します。



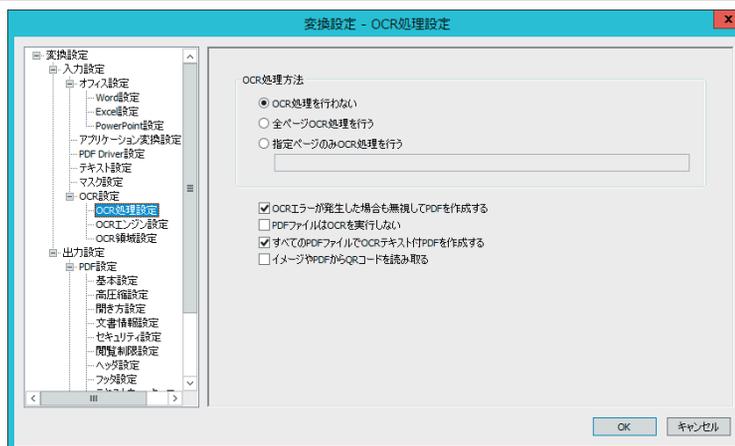
OCR設定

OCR処理に関する設定を行います。ページ上のリンクをクリックするとリンクに対応する設定項目についての設定画面を表示します。



「OCR設定」画面

OCR処理設定



「OCR処理設定」画面

OCR処理方法 OCR処理対象となるページを指定します。

OCR処理を行わない OCR処理を行いません。このオプションは、画像ファイルを PDFファイルに変換する場合や TIFFファイルの出力、ウォーターマークの設定等、OCR以外の処理だけを行う場合などに利用します。

全ページ OCR処理を行う 画像 / PDFファイルの全てのページを対象に OCR処理を行います。

指定ページのみ OCR処理を行う ... 画像 / PDFファイル中の指定したページだけを対象に OCR処理を行います。処理対象となるページは、以下に示す書式で指定します。

範囲指定の方法 nページからmページまで n-m
nページのみ n

設定例: 1, 5-10, 20-25

上の設定例では、1ページ、5～10ページ、20～25ページを対象に OCR処理を施します。

MEMO :

通常、複数ページを有する文書について処理していて途中で OCR処理にエラーが生じた場合、途中のページまで正常に処理されていたとしてもエラーとして扱われ、ファイルは一切出力されません。

OCRエラーが発生した場合も無視してPDFを作成する

通常、OCR処理に失敗した場合、そのファイルについてのタスク処理が失敗したものとされ何もファイルを出力しませんが、このオプションを有効にすることで OCRエラーを無視して OCR処理に成功したページを含む PDFファイルなどの出力を行い、処理を継続します。初期状態では、このオプションは選択されていません。

PDFファイルはOCRを実行しない

処理対象となるファイルが PDFファイルの場合に OCR処理を行わず(タスク設定の OCR設定に関するすべての設定を無視して)、タスク処理を進めます。

すべてのPDFファイルでOCRテキスト付きPDFを作成する

処理対象が PDFファイルの場合、そのページを一旦画像に変換し、それに対して OCR処理を施して OCRテキスト付き PDFファイルを作成します。このオプションを有効にした場合、処理対象に含まれていたすべてのテキストが OCR処理によって認識されたテキストと入れ替わるため、テキストの精度やレイアウトがオリジナルの PDFファイルより悪くなる可能性があります。また、複合機などから出力された高圧縮 PDFは、この処理によって標準的な PDFファイルに変換されるため、元のファイルよりファイルサイズが大きくなります。

イメージやPDFからQRコードを読み取る

画像、PDFファイルの**先頭ページ**に存在する QRコードの内容に従って、PDF Serverを動作させる場合にこのチェックボックスにチェックマークを付けます。

注意：QRコードの読み取り機能を有効にしたタスクは、以下のように処理されます。

1. ファイル分割／結合機能についての設定が無効となります。
2. 複数の QRコードが認識された場合、有効となるのは最初に認識されたものとなります。
3. マルチページ TIFFや、PDFファイルの場合、先頭ページの QRコードだけを対象として処理します。

QRコードのデータ書式について

PDF Serverが処理できる、QRコードのデータ形式は、ヘッダ「PSV」で始まり、「;(セミコロン)」でデータを区切った文字列の形をとります。

ヘッダ	;	データ 1	;	データ 2	;	データ 3	;	...
-----	---	-------	---	-------	---	-------	---	-----

1. 先頭にヘッダ「PSV」を記述します。これが認識できない場合には、通常のタスク処理が行われます。
2. データは、以下に示す「識別子=値」の形式で、必要なものを記述します。

識別子	設定内容
FNAME	出力ファイル名(拡張子を除く)を設定する。
OUTDIR	出力(保存)フォルダを設定する。
TITLE	PDFファイルの文書情報のタイトルの値を設定する。
SUBTITLE	PDFファイルの文書情報のサブタイトルの値を設定する。
AUTHOR	PDFファイルの文書情報の作成者の値を設定する。
KEYWORD	PDFファイルの文書情報のキーワードの値を設定する。
PRODUCER	PDFファイルの文書情報の作成の値を設定する。

3. ヘッダ、データに含まれる識別子の大文字/小文字は区別されません。
4. QRコードの内容に従って出力ファイル名/出力フォルダを指定して出力する際にエラーが生じた場合には、タスク設定に従った出力ファイル名/出力フォルダに保存されます。

OCRエンジン設定



「OCRエンジン設定」画面

- 処理言語 OCR処理の際、文字認識の対象となる言語を日本語、英語のいずれかから選択します。初期状態では、日本語が選択されています。
- 傾き補正 OCR処理対象となる画像の傾きを補正する機能です。

 - 傾き補正を行わない OCR処理する際、対象となる画像の傾きを補正しません。
 - 自動で傾き補正を行う OCR処理する際に対象となる画像の傾きを自動補正します。初期状態では、このオプションが選択されています。
 - 角度を設定して補正を行う OCR処理する際に指定した角度で対象となる画像の傾きを補正します。
- 回転補正 OCR処理を行う際にページの向き(回転)を補正する機能です。

 - 回転補正を行わない OCR処理を行う際に回転補正を行いません。初期状態では、このオプションが選択されています。
 - 180度 / 右 90度 / 左 90度 OCR処理を行う際に対象となるページの向き(回転)を指定した角度で補正します。
 - 自動で回転補正を行う OCR処理を行う際に対象となるページの向き(回転)を自動補正します。例えば、A 4 横の原稿を A 4 縦の画像として読み込んだ場合のようにページの向きを 90度回転したい場合に用います。
- フォント OCR処理によって埋め込むテキストに使用する日本語 / 英語フォントのそれぞれを設定します。
- 画像圧縮レベル 出力する PDFファイル中に埋め込まれる画像のJPEG圧縮レベルを指定します。
- 解像度 PDFファイルのページを OCR処理する際、一旦ビットマップ画像に変換し、これを対象として処理しますが、ここでその画像変換を行う時の解像度を設定します。設定できる値の範囲は、50～1,200dpiで、初期値は 300dpiです。

OCR領域設定

OCR処理を行う際、処理対象となるページ上の領域を指定します。

注意：

OCR処理が可能な領域は、最大でA3サイズ（解像度：300dpi時）までとなります。

注意：

OCR処理領域を指定する場合、その領域の一部、または全てが実際に処理を行う用紙サイズよりも外に位置する場合、そのファイルはエラーとして処理され、ファイルは出力されません。



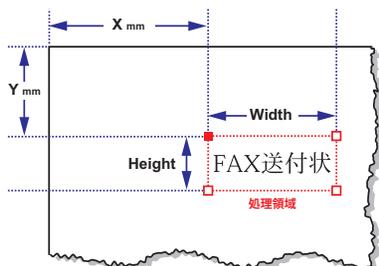
「OCR領域設定」画面

ページ全体.....ページ全体を対象にOCR処理を行います。

左上原点からの複数領域.....最大10箇所のOCR処理対象となる矩形領域を設定します。OCR領域の指定/編集には、座標を数値入力により指定する方法と専用のツールにより対象となる画像を視覚的に確認しながら、OCR対象となる領域をマウスでドラッグして指定する方法の2種類が用意されています。

追加....新たにOCR領域を追加するには

1. 「追加」ボタンをクリックして「領域設定 - OCR領域設定」ダイアログを開きます。
2. このダイアログを使って、OCR処理を行う矩形領域と認識する文字の方向を指定します。矩形領域の座標は、ページ左上を基準に矩形の左上角の座標(X, Y)とOCR領域の幅(Width)、高さ(Height)を0.00～1189.00までの数値(単位: mm)で指定します。(左図参照)。
3. 矩形領域の文字の方向が『横書き』の場合には、ポップアップリスト「文字方向」を**水平**に、『縦書き』の場合には、**垂直**に指定します。
4. 設定に間違いがないことを確認した後、「OK」ボタンをクリックしてOCR領域の座標と文字の方向を決定します。ここで登録したOCR領域の座標と文字方向が、「OCR領域」リストに追加されます。



左上を原点に領域を指定
座標入力値：X=0.00～1189.00、Y=0.00～1189.00

編集... 設定されている OCR領域を編集するには、

1. 「OCR領域」リスト中の対象となる OCR領域をクリックして選択した後、「編集」ボタンをクリックするか、リスト中の OCR領域をダブルクリックして「領域設定 - OCR領域設定」ダイアログを開きます。
2. OCR領域を追加した時と同様、各入力フィールドに数値を入力して OCR領域の設定を、ポップアップリスト「文字方向」を使って、認識する文字の方向を変更します。
3. 「OK」ボタンをクリックして変更したマスク領域設定を保存します。

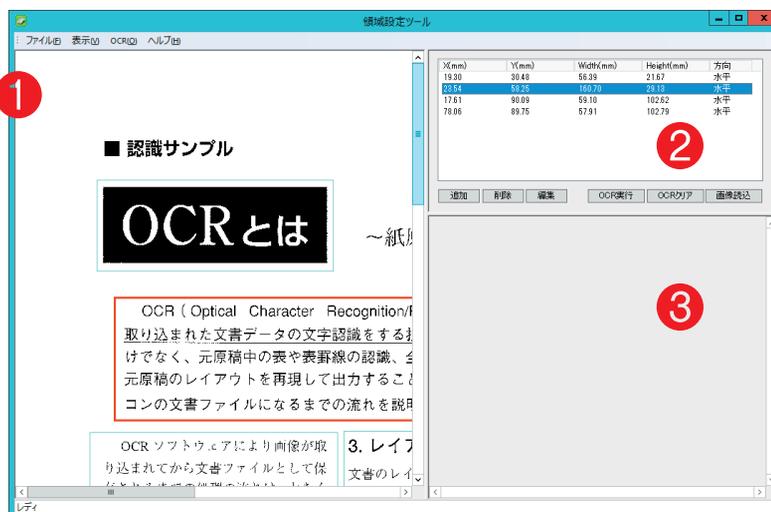
削除... 設定されているマスク領域を削除するには、

1. 「OCR領域」リスト中の削除対象となる OCR領域をクリックして選択します。
2. 「削除」ボタンをクリックして削除します。

領域指定ツールを利用したOCR領域指定

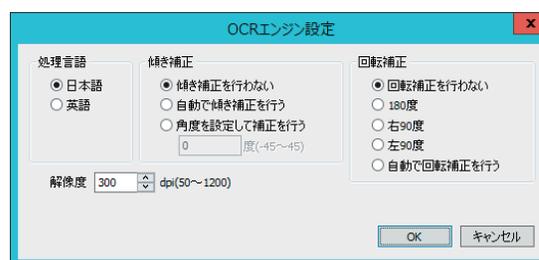
領域指定ツールを利用して OCR処理領域を指定するには、「領域設定」ボタンをクリックして「領域指定ツール」ウィンドウを開きます。

領域指定ツールは、OCR領域を指定する場合のほか、マスク領域を設定する場合にも利用します。



領域指定ツールウィンドウ

- ① ワークエリア 領域指定する画像を表示し、マウスカーソルで操作して領域指定を行うエリアです。
- ② 座標表示ペイン 現在設定されている OCR領域がここに表示されます。
- ③ OCR処理結果表示エリア 「OCR実行」ボタンをクリックして座標表示ペインで選択されている OCR領域を対象に行った OCR処理結果が表示されます。なお、OCR処理の際のオプションについては、「OCR」メニューの「設定」を選択して表示される「OCRエンジン設定」ダイアログを用いて行うことができます。

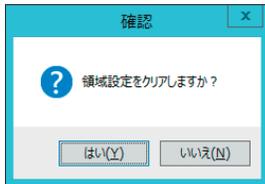


「OCRエンジン設定」ダイアログ

「OCRエンジン設定」ダイアログで設定できる項目の詳細については、[OCR エンジン設定](#)の項を参照して下さい。

注意：

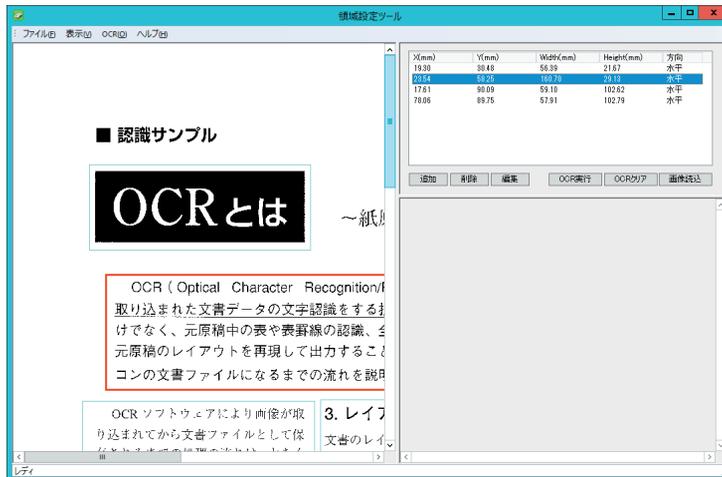
「領域設定ツール」のワークエリアに読み込めるのは、**画像ファイル**だけです。PDF ファイルを読み込んで領域指定することはできません。



リスト初期化確認ダイアログ

OCR領域の指定

1. 「領域設定」ボタンをクリックすると、ワークエリアが空白の「領域指定ツール」ウィンドウが開きます。また、既に OCR領域が設定されている場合には、座標表示ペインに設定されている OCR領域がリスト表示されます。
2. 「画像読込」ボタンをクリックして表示される「イメージファイルの選択」ダイアログを使って、領域を指定する際に使用する画像ファイルを開きます。既に座標表示ペインにマスク座標がリスト表示されている場合には、リストを初期化するか否かを確認するダイアログが表示されます。

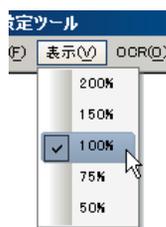


注意：画像ファイルを開くまで、「領域設定ツール」ウィンドウのワークエリアを用いて、OCR領域の追加を行うことはできません。

3. 画像がワークエリアに表示されます。既に OCR領域が設定されている場合には、ワークエリア内にそれぞれの OCR領域が矩形で表示されます。

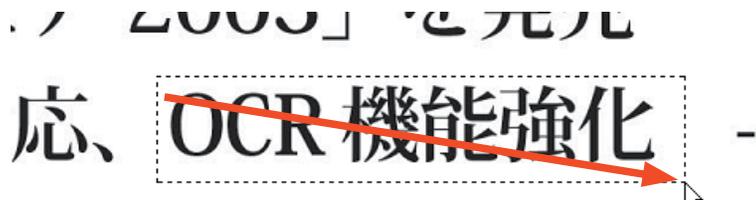


ワークエリアの表示倍率によっては、OCR領域が判別できない場合がありますので、その場合には、「表示」メニューを使ってワークエリアの表示倍率を変更してください。初期状態では、100%(実寸)表示されています。



「表示」メニュー

4. ワークエリア内で、OCR処理対象となる領域をドラッグして設定します。



5. ドラッグした座標が「座標表示ペイン」に追加されます。OCR領域は、最大10箇所まで設定することができます。なお、追加した領域の文字方向の初期値は**水平方向(横書き)**です。必要に応じて設定を変更して下さい。
6. OCR領域の設定が終了したら、「ファイル」メニューから「終了」を選択するか、ウィンドウのクローズボックスをクリックして領域情報を変換設定に反映します。

OCR領域の修正

既に設定されている OCR領域を修正します。

1. 座標表示ペインにリストアップされている修正対象となる OCR領域をクリックして選択します。対象となる OCR領域は、ワークエリア内で“赤色”の実線で表示されます。
2. 「編集」ボタンをクリックするか、リスト上の対象項目をダブルクリックして「領域設定 - OCR領域設定」ダイアログを表示し、OCR領域と文字方向を修正します。

Field	Value	Unit
X	5.29	mm
Y	4.59	mm
Width	53.97	mm
Height	20.11	mm

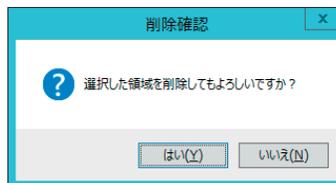
文字方向: 水平

「領域設定 - OCR領域設定」ダイアログ

OCR領域の削除

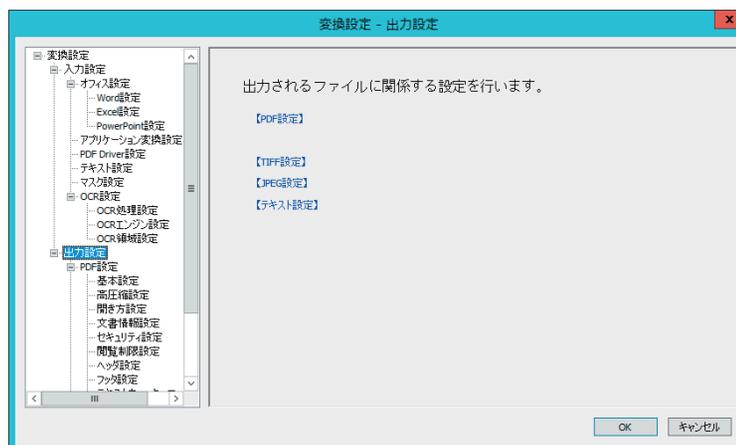
既に設定されている OCR領域を削除します。

1. 座標表示ペインにある削除対象となる OCR領域をクリックして選択します。
ワークエリア内で選択されているマスクは、“赤色”の実線で表示されます。
2. 「削除」ボタンをクリックします。OCR領域の削除を確認するダイアログが表示されますので、削除する場合には「OK」ボタンをクリックして削除します。



出力設定

この画面のリンクをクリックするとリンクに対応する出力ファイルに関する設定画面を表示します。



「出力設定」画面

PDF設定

この画面のリンクをクリックするとリンクに対応する PDF Serverによって出力される PDFファイルに関する設定画面を表示します。



「PDF設定」画面

基本設定



「基本設定」画面

MEMO :

Office 文書など、オフィス／アプリケーション変換によって出力される PDF ファイルを Web 最適化する場合には、プリンタドライバの印刷設定にて行います。

Web表示用に最適化する

PDF Serverが画像(ラスターイメージ) ファイルから作成する PDFファイルについて、出力する PDFファイルを Web表示用に最適化(リニアライズ) する場合、このチェックボックスにチェックマークをつけます。

しおり

OCR 処理によって得られたテキストの先頭から指定した文字数の文字列を PDF のしおりとして設定する場合、このチェックボックスにチェックマークをつけます。また、その際しおりとして設定する文字列を得られた OCR テキストの先頭からの文字数で指定します。指定可能な値の範囲は、1～256です。初期値として256が設定されています。

サイズ変更

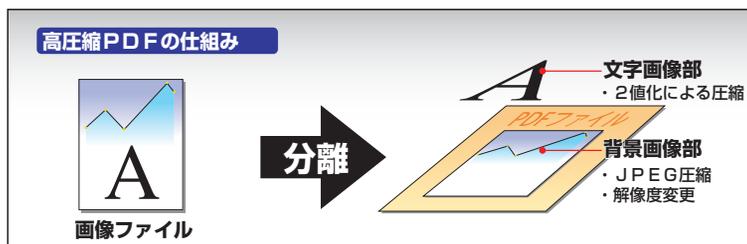
このコンボボックスを用いて、出力する PDFファイルの全てのページサイズを指定したサイズに変更することが出来ます。指定可能なサイズは以下の通りです。

A3 (297 x 429 mm)
A4 (210 x 297 mm)
B4 (257 x 364 mm)
B5 (182 x 257 mm)
任意

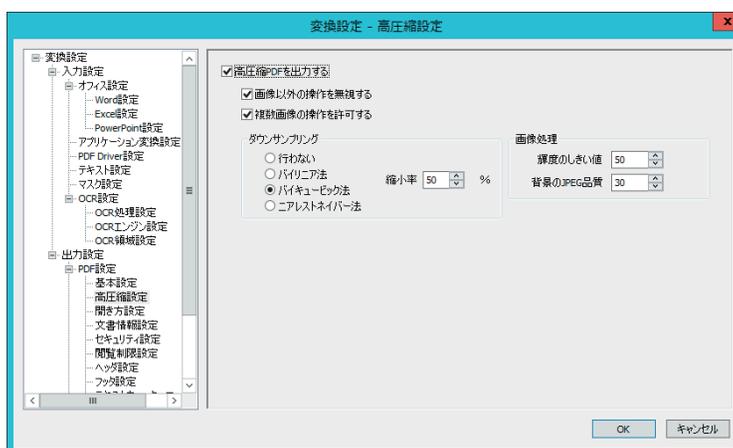
このコンボボックスで「任意」を選択した場合、「幅」/「高さ」それぞれのフィールドに1～9,999の数値を1mm単位で指定することが出来ます。

高圧縮設定

PDF Serverではインターネットを介して気軽にファイルをやり取りするためにファイルサイズをより小さくしたPDFファイル(高圧縮PDF)を作成することができます。



高圧縮PDFは、画像データの中から写真などの背景画像と文字画像とを分離し、文字画像に関しては2値化し、残った背景画像に関しては個別にJPEG圧縮率や解像度変換の指定を行うことにより、重要な文字画像部分については十分に判読可能な解像度を確保するとともにデータサイズを小さくし、背景画像は必要最小限のデータに圧縮することで、生成されるPDFファイルの容量をより小さくする技術です。



「高圧縮設定」画面

高圧縮PDFを出力する

カラー画像及び、グレースケール画像、またはページ上に1枚の画像だけが存在するPDFファイルを高圧縮PDFで出力する場合、このチェックボックスにチェックマークを付けます。

※ この機能は、ページ上に1枚の画像だけが存在するPDFファイルを対象としたものです。したがって、ページ上にパスやテキストなど、画像以外のオブジェクトを持つPDFファイルや、ページ上に複数の画像が存在するPDFファイル进行处理するとエラーが発生し、これらを高圧縮PDFファイルに変換することができません。

そのようなPDFファイルを高圧縮PDFファイルに変換する場合には、以下のチェックボックスにチェックマークを付けます。

画像以外の操作を無視する(初期状態で有効)

パスやテキストなど画像以外のオブジェクトを持つページを含むPDFファイルについて、これらのオブジェクトを無視(削除)して高圧縮PDF変換処理を行います。このオプションが有効な場合、Office文書などから作成された画像以外が含まれるPDFファイルも処理対象となるので、注意が必要です。

複数画像の操作を許可する

ページ上に複数の画像を持つページを含むPDFファイルについて、高圧縮PDF変換処理を許可します。

ダウンサンプリング

対象となる画像の解像度(dpiの値)が、以下の表にある値を超えたときに
行うダウンサンプリングの方法と元の画像に対する縮小率(50～100%)を指定
します。

しきい値	
カラー	150dpi
グレースケール	200dpi
白黒	250dpi

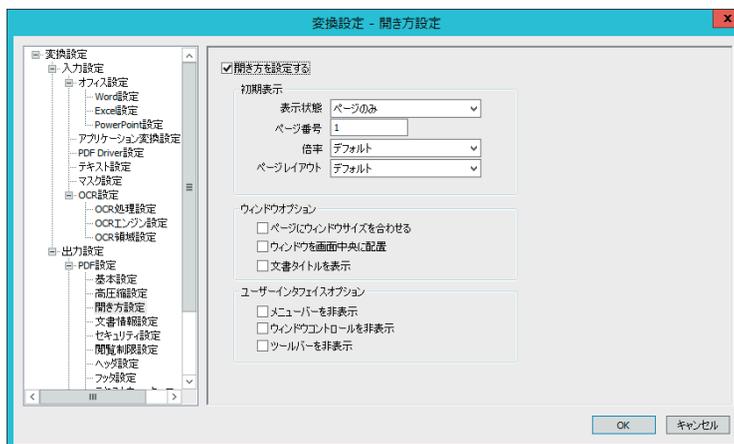
ダウンサンプリングを行う解像度のしきい値

ダウンサンプリングの方法	説明
行わない	ダウンサンプリングを行いません。
バイリニア法	サンプル領域のピクセルを平均化し、領域全体を指定解像度の平均ピクセルカラーに置き換えます。
バイキュービック法	加重平均を用いてピクセルカラーを決定します。複雑な計算を行うため、時間を要しますが、情報の損失が少なく自然な画像が得られます。
ニアレストネイバー法	サンプル領域の中心のピクセルを選択し、領域全体を選択したカラーに置き換えます。ダウンサンプルよりも短時間で処理できますが、生成される画像はより粗いものになります。

- 画像処理..... 対象となる画像の前景(文字の部分)と背景部分を分離する処理を行います。
- 輝度のしきい値..... 画像処理の際、画像の前景と背景を分離する輝度のしきい値を指定します。この値が大きいほど、前景(文字の部分)と判断される領域が増えます。
- 背景の JPEG 品質..... 画像処理によって分離された背景画像の品質を設定します。

開き方設定

PDF Serverによって出力されるPDFファイルについて、Acrobatの文書プロパティ「開き方の設定」で設定可能な、初期表示の内容、ウィンドウオプション、ユーザーインターフェイスオプションを設定します。



「開き方設定」画面

注意： Acrobat/Adobe Reader以外のPDF閲覧ソフトで表示する場合には、ここで設定した開き方のオプションが機能しない場合があります。

開き方を設定する

PDFファイルの開き方を設定する場合には、このチェックボックスにチェックマークを付けます。

初期表示

PDFファイルを開いたときにどのように Acrobatのワークエリアで開かれるかを設定します。

表示状態..... Acrobat画面の表示状態を設定します。

ページのみ..... 文書ウィンドウだけが表示される様に設定します。

しおりとページ..... しおりパレットと文書ウィンドウが表示される様に設定します。

サムネールとページ... サムネールパレットと文書ウィンドウが表示される様に設定します。

全画面表示で開く..... このオプションを選択すると文書ウィンドウが最大化され、ディスプレイモニタ全体に表示されます。この時、メニューバー、ツールバー及びウィンドウコントロールは表示されません。

ページ番号..... 開きたいページのページ番号を入力します。

- 倍率.....ページの表示倍率を設定します。
- デフォルト.....処理対象が PDFファイルの場合には、入力された PDFファイルに設定されている倍率を維持し、そのままの状態で出力します。
- 処理対象が画像ファイルの場合には、倍率は設定されず、『未設定』の状態となります。この PDFファイルを表示する場合、閲覧に用いるソフトウェアの環境設定でデフォルトに設定されている倍率でページが表示されることとなります。
- Office文書等、製品付属の PDFドライバを用いて作成される PDFファイルの場合、PDFドライバの設定『開き方』で、「デフォルト」以外の倍率が指定されていると指定されている設定が有効になります。
- 25～ 1600%.....コンボボックスで指定されている倍率(%) でページを表示します。
- 全体表示.....ページ全体が文書ウィンドウに表示されるように表示します。
- 幅に合わせる.....ページが文書ウィンドウの幅に合わせて表示されるようにします。
- 描画領域の幅に合わせる
- テキストとグラフィック領域が文書ウィンドウの幅に合わせて表示されるようにします。
- ページレイアウト.....文書ウィンドウに表示されるページのレイアウトを設定します。
- デフォルト.....処理対象が PDFファイルの場合には、入力された PDFファイルに設定されているページレイアウトを維持し、そのままの状態で出力します。
- 処理対象が画像ファイルの場合には、ページレイアウトは設定されず、『未設定』の状態となります。この PDFファイルを表示する場合、閲覧に用いるソフトウェアの環境設定でデフォルトに設定されているページレイアウトで表示されることとなります。
- Office文書等、製品付属の PDFドライバを用いて作成される PDFファイルの場合、PDFドライバの設定『開き方』で、「デフォルト」以外のレイアウトが指定されていると指定されているレイアウト設定が有効になります。
- 単一ページ.....一度に文書の 1ページ分だけを表示します。
- 連続.....ページを縦一列に連続して表示します。
- 見開きページ..... 2 ページを横に並べて見開き表示します。

ウィンドウオプション

PDFファイルを開いた時に、ウィンドウの表示がどのように調整されるかを設定します。オプション全てが選択されていない状態の場合には、閲覧に利用するソフトウェアのデフォルト設定にしたがって表示されます。

ページにウィンドウサイズを合わせる

このオプションを選択すると、開いた PDFファイルのページの大きさに合わせて、文書ウィンドウのサイズが調整されます。

ウィンドウを画面中央に配置

このオプションを選択すると、文書ウィンドウをディスプレイモニタの中央に配置します。

文書タイトルを表示..... ウィンドウのタイトルバーに表示する PDFファイル名の代わりに文書情報フィールド「タイトル」の内容を表示します。

ユーザインターフェイスオプション

画面に表示されるユーザインターフェイスオプションの表示/非表示を設定します。初期状態では、このオプションは全て選択されていません。

メニューバーを非表示 ... このオプションを選択すると閲覧ソフトのメニューバーを非表示にします。

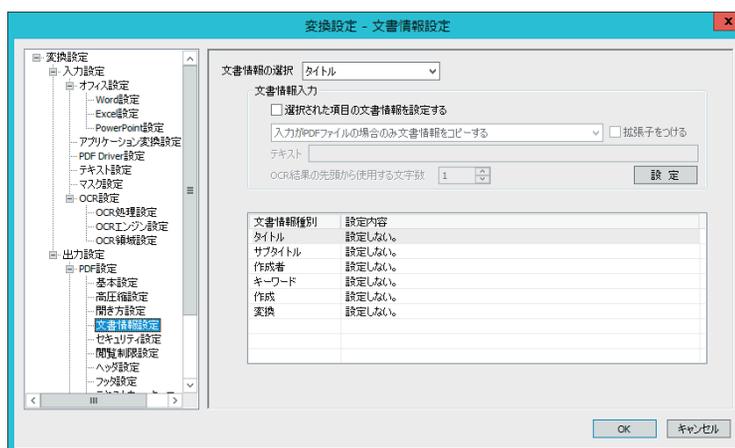
ウィンドウコントロールを非表示

このオプションを選択するとウィンドウコントロール(ナビゲーションパレットやスクロールバー、ステータスバー)を非表示にします。

ツールバーを非表示..... このオプションを選択するとツールバーを非表示にします。

文書情報設定

PDF Serverが出力する PDFファイルに設定する文書情報の内容を指定します。



「文書情報設定」画面

以下の手順に従って、出力する PDFファイルに文書情報を設定します。初期状態では、文書情報は設定されません。

1. コンボボックス「文書情報の選択」から、設定する項目を選択した後、チェックボックス「**選択された項目の文書情報を設定する**」にチェックマークを付けます。設定可能な PDFの文書情報の項目は、タイトル、サブタイトル、作成者、キーワード、作成、変換です。
2. チェックボックス「**選択された項目の文書情報を設定する**」下のコンボボックスを用いて、文書情報設定オプションを選択します。

入力ファイルがPDFの場合、文書情報をコピーする

処理対象となるファイルが PDFの場合、対象ファイルの文書情報をコピーします。対象ファイルが、PDF以外の場合、タイトル、サブタイトル、作成者、キーワードについては、空欄となり何も設定しません。また、ファイルを結合して出力する場合、結合対象となるファイルが、PDFでこれに文書情報が設定されている際にのみコピーされます。

ファイル名を設定

処理対象となるファイルの名前を文書情報に設定します。このとき、ファイル名として対象ファイルの拡張子を含める場合には、コンボボックス右のチェックボックス「**拡張子を付ける**」にチェックマークを付けます。

任意のテキストを設定する

テキストボックスに入力した文字列を文書情報に設定します。

OCR結果の文字列をセットする(タイトルのみ)

OCR処理によって得られたテキストの先頭から指定した文字数の文字列を文書情報の「タイトル」フィールドに設定します。

※ このオプションは、「タイトル」以外のフィールドでは利用できません。

注意：

文書情報を元ファイルからコピーする場合、結合されたファイルの最初のページにあたる元の PDFファイルに文書情報が設定されている必要があります。

結合時の最初のページの元ファイルが PDF 以外のファイルであったり、文書情報の設定がない PDFファイルの場合はコピーされず、その文書情報項目は空白となります。

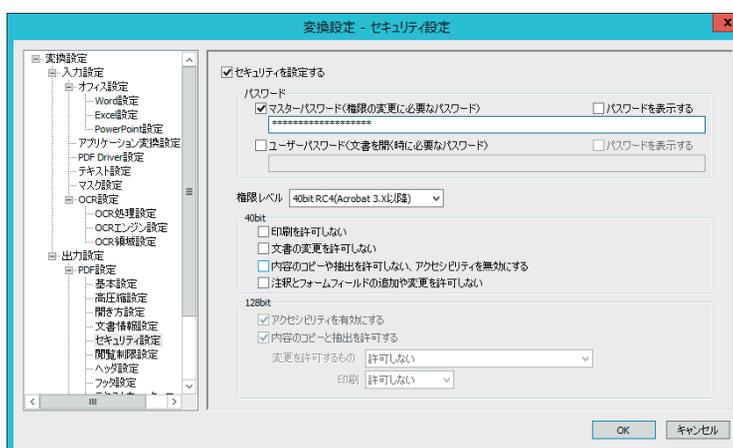
セキュリティ設定

パスワードについて：

PDF ファイルにユーザパスワード/マスタパスワードの両方が設定されている場合には、どちらのパスワードを使ってもファイルを開くことができます。ユーザパスワードを使ってファイルを開くと、セキュリティの制限は一時的に解除されます。

セキュリティを設定する場合には、マスタパスワードを必ず設定しなければなりません。マスタパスワードを指定しないとファイルを開いたユーザーが自由にセキュリティ設定を解除/変更できるためです。

PDF Serverが出力する PDFファイルのセキュリティを設定します。セキュリティを設定することにより、ファイルの印刷、編集などファイルへのアクセスを制限することができます。



「セキュリティ設定」画面

出力する PDFファイルにセキュリティを設定する場合には、「**セキュリティを設定する**」チェックボックスにチェックマークを付けます。なお、初期状態ではセキュリティは設定されません。

パスワード..... PDFファイルにアクセスするために必要なパスワードの設定を行います。

権限とパスワードの変更に必要なパスワード

PDFファイルのセキュリティ設定を変更するために必要なマスターパスワードを設定する場合にこのチェックボックスにチェックマークを付けます。マスターパスワードが設定されたPDFファイルは、パスワードを入力しないと権限の変更を行うことができなくなります。

マスターパスワード

PDFファイルのセキュリティ設定を変更するために必要なマスターパスワードを入力します。チェックボックス「権限とパスワードの変更に必要なパスワード」が選択されている時だけ入力することができます。また、マスターパスワードには、ユーザーパスワードと同じ文字列を設定することはできません。

文書を開く為に必要なパスワード

PDFファイルを開くために必要なユーザーパスワードを設定する場合にこのチェックボックスにチェックマークを付けます。ユーザーパスワードが設定されたPDFファイルは、パスワードを入力しないと開くことができなくなります。

ユーザーパスワード

PDFファイルを開くために必要なユーザーパスワードを入力します。チェックボックス「文書を開くために必要なパスワード」にチェックマークが付いている時だけ入力ができます。また、ユーザーパスワードには、マスターパスワードと同じ文字列を設定することはできません。

パスワードを表示する

チェックボックス「パスワードを表示する」が選択されていないと、ユーザー / マスタパスワードフィールドに入力する文字は全て「*」で表示されます。

権限レベルとPDFバージョン:

セキュリティ設定の権限レベルによって PDF Server によって出力される PDF バージョンが変化する場合があります:

権 限 レ ベ ル	出力される PDF のバージョン
40-bit RC4	1.4
128-bit RC4	1.5
128-bit AES	1.6

但し、入力される PDF ファイルの PDF バージョンが、設定する権限レベルの PDF バージョンより大きい場合には、入力される PDF ファイルの PDF バージョンが維持されます。

権限レベル..... PDF ファイルの暗号レベルを設定します。設定する暗号化レベルにより以下で設定できる権限の内容が変化します。

40-bit RC4(Acrobat 3.x,4.x)

128-bit RC4 / 128-bit AESに比べてセキュリティレベルは低くなりますが、Ver. 3および Ver. 4の Acrobat/Adobe Readerと互換性があります。

印刷を許可しない

ユーザーがPDFファイルを印刷できなくなります。

文書の変更を許可しない

ファイルに対するどのような変更もできなくなります。これには、署名やフォームフィールドへの入力も含まれます。

内容のコピーや抽出を許可しない、アクセシビリティを無効にする

テキストとグラフィックスのコピーができなくなり、アクセシビリティインタフェイスが無効になります。

注釈とフォームフィールドの追加や変更を許可しない

注釈とフォームフィールドの追加ができなくなります。ただし、フォームフィールドへの入力は可能です。

128-bit RC4(Acrobat 5.x)

セキュリティレベルは、40-bit RC4を用いる場合より高くなりますが、Ver.5以降の Acrobat/Adobe Reader としか互換性がありません。Ver. 4.x 以前の Acrobat/Adobe Reader でこの暗号化レベルが設定してあるファイルを開こうとするとエラーを発生し開く事ができなくなります。

アクセシビリティを有効にする

アクセシビリティ機能のサポートが必要な文書内容の使用が許可されます。

内容のコピーと抽出を許可

PDFファイルの内容をコピーしたり、ファイルとして保存することができます。

変更を許可

PDFファイルに対して行うことができる変更の種類を選択します。

許可しない	ファイルに対するどのような変更も行えません。
ページの挿入、削除、回転	ページの挿入、削除、回転のみが行えます。
フォームフィールドの入力および署名	署名とフォームへの入力のみが行えます。
注釈作成、フォームフィールドの入力および署名	上記オプションで許可された内容に加え、注釈の作成が行えます。
ページの抽出を除くすべての操作	PDFファイルの内容をコピーしたり、ファイルとして保存すること、および PDFファイルの印刷以外のすべての操作が行えます。

印刷

PDFファイルの印刷レベルを設定します。

許可しない	PDFファイルの印刷を禁止します。PDFファイルを印刷することができません。
低解像度	文書を印刷する時の解像度が 150dpiに制限されます。このオプションを選択した場合、全てのページがビットマップ画像として出力されるので、印刷速度が遅くなります。
高解像度	任意の解像度で印刷することができます。PostScriptや高品質の印刷機能をサポートするプリンタ/イメージセッタを使った出力を行うことができます。

128-bit AES(Acrobat 7.x)

セキュリティレベルは、128-bit RC4より更に高くなりますが、暗号の解読により複雑な計算が必要なため、ファイルを開くのにより多くの時間を要します。この暗号化レベルを設定したファイルは、Ver.7以降の Acrobat/Adobe Readerとしか互換性がありません。Ver.6.0以前の Acrobat/Adobe Readerでこの暗号化レベルが設定してあるファイルを開こうとするとエラーを発生し開く事ができません。

※ 以下のセキュリティオプションの内容は、128-bit RC4の場合と同じです

アクセシビリティを有効にする

アクセシビリティ機能のサポートが必要な文書内容の使用が許可されます。

内容のコピーと抽出を許可

PDFファイルの内容をコピーしたり、ファイルとして保存することができます。

変更を許可

PDFファイルに対して行うことができる変更の種類を選択します。

許可しない	ファイルに対するどのような変更も行えません。
ページの挿入、削除、回転	ページの挿入、削除、回転のみが行えます。
フォームフィールドの入力および署名	署名とフォームへの入力のみが行えます。
注釈作成、フォームフィールドの入力および署名	上記オプションで許可された内容に加え、注釈の作成が行えます。
ページの抽出を除くすべての操作	PDFファイルの内容をコピーしたり、ファイルとして保存すること、および PDFファイルの印刷以外のすべての操作が行えます。

印刷

PDFファイルの印刷レベルを設定します。

許可しない	PDFファイルの印刷を禁止します。PDFファイルを印刷することができません。
低解像度	文書を印刷する時の解像度が 150dpiに制限されます。このオプションを選択した場合、全てのページがビットマップ画像として出力されるので、印刷速度が遅くなります。
高解像度	任意の解像度で印刷することができます。PostScriptや高品質の印刷機能をサポートするプリンタ/イメージセッタを使った出力を行うことができます。

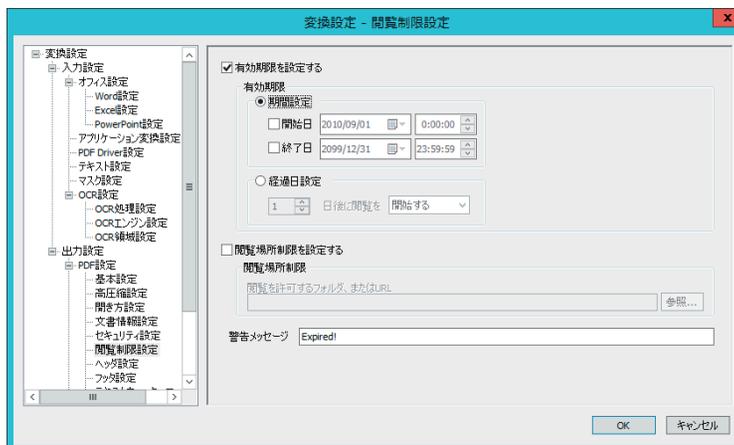
閲覧制限設定

注意：

「閲覧制限設定」機能は、セキュリティのためのものではありません。ファイルを設定された期間以外に開いたときなど、予め設定した条件が有効なものではないことを明確にするためのものです。

本機能は、Acrobat JavaScriptによって実現されています。その為、PDFファイルを開覧するソフトウェアによっては、正しく機能しない場合があります。

PDF Serverが出力する PDFファイルに有効期限(閲覧可能な期間) やファイルの保存場所などについての制限を設定します。この機能を利用することにより、指定した期間以外の日時に閲覧しようとファイルを開いたときや、指定した保存場所から移動されたファイルを開いた時に警告メッセージを表示するとともに、ページ内容を覆い隠すことができます。(見積書/展示会・セミナーなどの案内など) 内容に有効期限があるような書類を配布するときに便利な機能です。



「閲覧制限設定」画面

有効期限を設定する

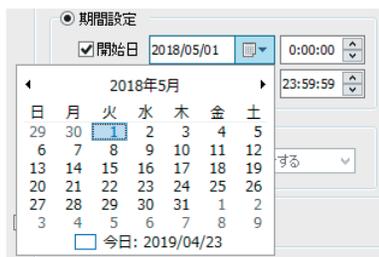
出力する PDFファイルに有効期限を設定場合、このチェックボックスにチェックマークを付けます。なお、初期状態では有効期限は設定されません。

有効期限 PDFファイルの閲覧可能期間の開始日、終了日のいずれかまたは両方を指定します。

開始日 PDFファイルの閲覧可能期間の開始日を設定します。このオプションは、作成した PDFファイルを指定した日付以前に開いたとき、その内容が無効であることを知らせたい場合に用います。日付設定のコンボボックスの▼をクリックすると日付設定用のカレンダーを表示して日付を設定することができます。

終了日 PDFファイルの閲覧可能期間の終了日を設定します。このオプションは、作成した PDFファイルを指定した日付以降に開いたとき、その内容が無効であることを知らせたい場合に用います。日付設定のコンボボックスの▼をクリックすると日付設定用のカレンダーを表示して日付を設定することができます。

経過日設定 PDFファイルの閲覧可能期間の開始、または終了日のいずれかをファイルを保存した日からの経過日で設定します。



日付設定カレンダー

重要：

「閲覧許可するフォルダ、または URL」でファイルパス・URL に日本語 (全角文字) が含まれていると正常に動作しません。必ず、半角英数字 (英数記法) で設定して下さい。

閲覧場所制限を設定する

出力する PDFファイルが閲覧可能な保存場所を設定する場合、このチェックボックスにチェックマークを付けます。

閲覧を許可するフォルダ、または URL

.....PDFファイルの保存場所となるフォルダ/ URLをフルパスで指定します。フォルダの場合には、フィールド右の「参照 ...」 ボタンをクリックして表示される「フォルダーの参照」ダイアログを用いて指定することもできます。

注意：

ヘッダは文書中に専用の領域を確保しません。そのため、ヘッダ埋め込み位置に文章やイメージが存在した場合、その上に表示されます。

ヘッダ設定

PDF Serverが出力する PDFファイルの指定したページにヘッダを付加することができます。



「ヘッダ設定」画面

出力する PDFファイルにヘッダを設定する場合には、「ヘッダを設定する」チェックボックスにチェックマークを付け、必要な設定を行います。なお、初期状態ではこのチェックボックスにチェックマークは付いていません。

MEMO：

特殊文字についての詳細は巻末にある「リファレンス」の「ヘッダ／フッタに設定できる特殊文字」の項を参照して下さい。

ヘッダ文字列.....ヘッダはページ上端の“左”、“中央”、“右”の3箇所に設定できます。ヘッダ位置のチェックボックスにチェックマークを付けた後、チェックボックス左のフィールドにヘッダとして設定する文字列を入力します。また、各フィールド右の「特殊文字 ...」ボタンをクリックして表示されるダイアログを用いて、コンピュータや出力ファイルから得た情報を自動的にヘッダに埋め込むことができる特殊文字を挿入することができます。

左.....用紙の左端に入力した文字列を埋め込みます。
文字列は左揃えで配置されます。

中央.....用紙の中央に入力した文字列を埋め込みます。
文字列は中央揃えで配置されます。

右.....用紙の右端に入力した文字列を埋め込みます。
文字列は右揃えで配置されます。

フォント.....ヘッダに使用するフォントとそのサイズを設定します。

フォント名.....ヘッダとして埋め込む文字のフォントを指定します。初期状態では「MS ゴシック」が選択されています。

サイズ.....ヘッダとして埋め込む文字のサイズをポイント単位で指定します。設定可能な値の範囲は、8～72で、初期状態では、12ポイントに設定されています。

- 位置オフセット ヘッダを埋め込む位置をページの端からのオフセット値 (mm) で指定します。
- 水平 用紙端から、ヘッダ文字列“左”、“右”のテキストブロックそれぞれの左、または右端までの距離を mm 単位で設定します。設定可能な値の範囲は、-5,080 ~ 5,080 で、初期状態では、0 mm に指定されています。
- 垂直 用紙上端からすべてのヘッダ文字列のテキストブロックの上端までの距離を mm 単位で設定します。設定可能な値の範囲は、-5,080 ~ 5,080 で、初期状態では、0 mm に設定されています。
- 付加ページ ヘッダを埋め込む際にその対象となるページを指定します。初期状態では、すべてのページに埋め込むように設定されています。
- 全てのページ... 上記の設定にしたがってすべてのページにヘッダを埋め込みます。
- 奇数ページのみ... 上記の設定にしたがって奇数ページのみにヘッダを埋め込みます。
- 偶数ページのみ... 上記の設定にしたがって偶数ページのみにヘッダを埋め込みます。

フッタ設定

PDF Serverが出力する PDFファイルの指定したページにフッタを付加することができます。

注意：

フッタは文書中に専用の領域を確保しません。そのため、フッタ埋め込み位置に文章やイメージが存在した場合、その上に表示されます。



「フッタ設定」画面

出力する PDFファイルにヘッダを設定する場合には、「フッタを設定する」チェックボックスにチェックマークを付け、必要な設定を行います。なお、初期状態ではこのチェックボックスにチェックマークは付いていません。

MEMO：

特殊文字についての詳細は巻末にある「リファレンス」の「ヘッダ／フッタに設定できる特殊文字」の項を参照して下さい。

フッタ文字列.....フッタはページ下端の“左”、“中央”、“右”の3箇所に設定できます。フッタ位置のチェックボックスにチェックマークを付けた後、チェックボックス左のフィールドにフッタとして設定する文字列を入力します。また、各フィールド右の「特殊文字...」ボタンをクリックして表示されるダイアログを用いて、コンピュータや出力ファイルから得た情報を自動的にフッタに埋め込むことができる特殊文字を挿入することができます。

左.....用紙の左端に入力した文字列を埋め込みます。文字列は左揃えで配置されます。

中央.....用紙の中央に入力した文字列を埋め込みます。文字列は中央揃えで配置されます。

右.....用紙の右端に入力した文字列を埋め込みます。文字列は右揃えで配置されます。

フォント.....フッタに使用するフォントとそのサイズを設定します。

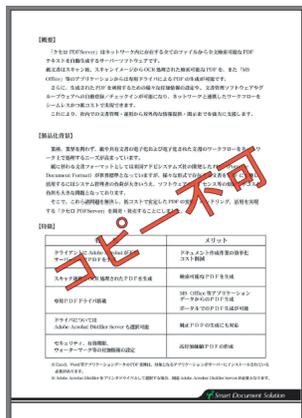
フォント名.....フッタとして埋め込む文字のフォントを指定します。初期状態では「MS ゴシック」が選択されています。

サイズ.....フッタとして埋め込む文字のサイズをポイント単位で指定します。設定可能な値の範囲は、8～72で、初期状態では、12ポイントに設定されています。

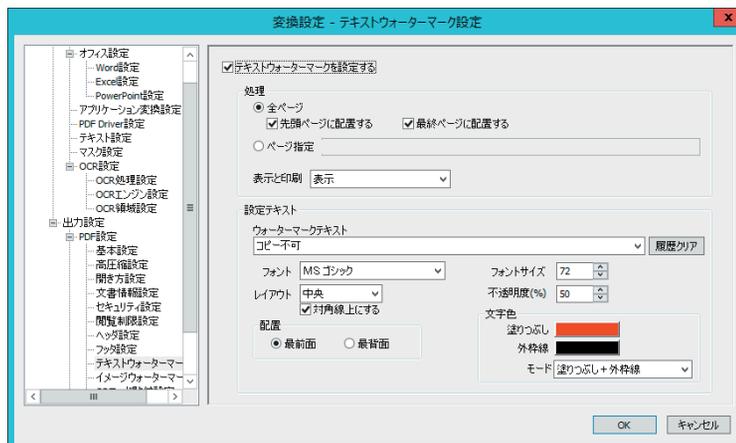
- 位置オフセット フッタを埋め込む位置をページの端からのオフセット値 (mm) で指定します。
- 水平 用紙端から、フッタ文字列“左”、“右”のテキストブロックそれぞれの左、または右端までの距離を mm 単位で設定します。設定可能な値の範囲は、-5,080 ~ 5,080 で、初期状態では、0 mm に指定されています。
- 垂直 用紙下端からすべてのフッタ文字列のテキストブロックの下端までの距離を mm 単位で設定します。設定可能な値の範囲は、-5,080 ~ 5,080 で、初期状態では、0 mm に設定されています。
- 付加ページ フッタを埋め込む際にその対象となるページを指定します。初期状態では、すべてのページに埋め込むように設定されています。
- 全てのページ ... 上記の設定にしたがってすべてのページにフッタを埋め込みます。
- 奇数ページのみ ... 上記の設定にしたがって奇数ページのみにフッタを埋め込みます。
- 偶数ページのみ ... 上記の設定にしたがって偶数ページのみにフッタを埋め込みます。

テキストウォーターマーク設定

出力する PDFファイルのページ上に任意の文字列をウォーターマーク(透かし) として埋め込むために必要な設定を行います。



テキストウォーターマークの例



「テキストウォーターマーク設定」画面

MEMO :

テキスト、イメージウォーターマーク双方を埋め込み、その位置が重なった場合、テキストウォーターマークはイメージウォーターマークの上に重ねて表示されます。

テキストウォーターマークを設定する場合には、チェックボックス「**テキストウォーターマークを設定する**」にチェックマークを付けます。なお、初期状態では、このチェックボックスにチェックマークは付いていません。

処理 テキストウォーターマークを設定する対象となるページの指定とウォーターマークの表示と印刷についてのオプション設定を行います。

全ページ 出力する PDFファイルのすべてのページにテキストウォーターマークを設定します。先頭/最終ページに配置したくない場合には、それぞれについてチェックボックス「先頭ページに配置する」/「最終ページに配置する」のチェックマークを外します。

ページ指定 出力する PDFファイルの指定したページにだけにテキストウォーターマークを設定します。設定対象となるページは、ラジオボタン右のフィールドに以下の規則にしたがって先頭ページを「0」とした半角数字と記号を用いて設定します。複数のページ範囲をカンマ(,) で区切って指定することもできます。

範囲指定の方法

3 ページから 5 ページまで 2-5

1 ページのみ 0

例: 1, 5-10, 20-25

上の例では、2ページ、6～11ページ、21～26ページを対象としてテキストウォーターマークを設定します。

表示と印刷 埋め込んだテキストウォーターマークの表示、印刷についてのオプションをこのコンボボックスを用いて設定します。

表示	ウォーターマークの表示/印刷を行います。
非表示	ウォーターマークの表示/印刷を行いません。
表示 / 印刷しない	ウォーターマークを表示しますが、印刷しません。
非表示 / 印刷する	ウォーターマークを表示しませんが、印刷します。

MEMO :

PDF Server がウォーターマークとして埋め込むことができるテキストの文字数は、半角で最大 52 文字まで、全角で最大 26 文字までです。

MEMO :

半透明なウォーターマークは、Acrobat5.0 以降でなければ表示できません。Acrobat 4.0 以前では、不透明度が、0%（完全に透明）以外に設定されているウォーターマークは、すべて不透明なウォーターマークとして表示されます。

設定テキスト ウォーターマークとして設定する文字列、また、これに用いるフォント/フォントサイズ/色などについての設定を行います。

ウォーターマークテキスト

このフィールドにウォーターマークとして設定する文字列を入力します。過去にフィールドに入力された履歴を消去する場合は、フィールド右の「履歴クリア」ボタンをクリックします。

フォント ウォーターマークとして設定する文字列のフォントを指定します。

フォントサイズ ... ウォーターマークとして設定する文字列のフォントサイズをポイント単位で指定します。設定可能な値の範囲は、8～ 999で、初期状態では 72ポイントに設定されています。

レイアウト ウォーターマークとして設定する文字列の位置を指定します。また文字列を対角線上に傾けて設定する場合には、チェックボックス「対角線上にする」をチェックします。

不透明度 ウォーターマークとして設定する文字列の不透明度(%) を指定します。不透明度が、0%、または 100%に設定されている場合、それぞれ完全に透明、不透明に設定されていることを示します。初期状態では 50%に設定されています。

配置 テキストウォーターマークの配置位置(Zオーダー) を選択します。初期状態では、最前面に配置するように設定されています。

最前面 テキストウォーターマークを最前面に配置します。

最背面 テキストウォーターマークを最背面に配置します。

文字色 テキストウォーターマークの描画モードを選択します。初期状態では、塗りつぶしモードに設定されています。以下にそれぞれのサンプルを示します。

塗りつぶし 文字を指定した色で塗りつぶして描画します。

外枠線 文字のアウトラインを指定した色で描画します。

塗りつぶし+外枠線

上記の2つをあわせて描画するモードです。

文字色(塗りつぶし)

このボタンをクリックして表示される「色の設定」ダイアログを使って設定するテキストウォーターマークを塗りつぶす色を設定します。なお、ボタンの色がテキストウォーターマークの色を表します。初期状態では、赤に設定されています。

文字色(外枠線) ... このボタンをクリックして表示される「色の設定」ダイアログを使って設定するテキストウォーターマークのアウトラインの色を設定します。なお、ボタンの色がテキストウォーターマークのアウトラインの色を表します。初期状態では、赤に設定されています。

文字

塗りつぶし

文字

外枠線

文字

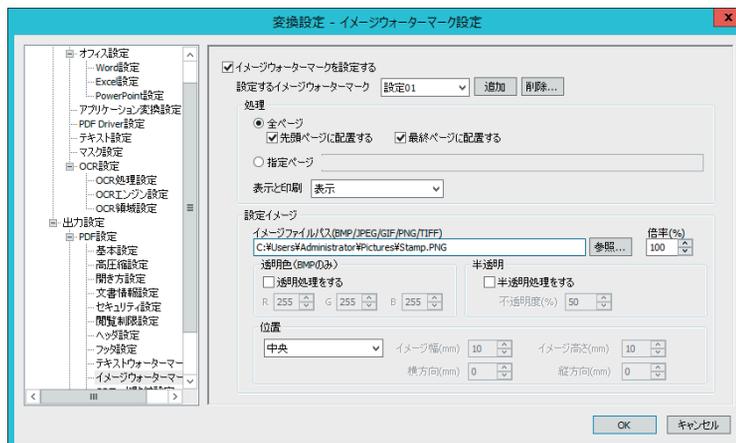
塗りつぶし+外枠線

イメージウォーターマーク設定

出力する PDFファイルのページ上に指定した Windows BMP/JPEG/GIF/PNG/TIFF ファイルをウォーターマーク(透かし)として埋め込むために必要な設定を行います。



イメージウォーターマークの例



「イメージウォーターマーク設定」画面

MEMO :

テキスト、イメージウォーターマーク双方を埋め込み、その位置が重なった場合、テキストウォーターマークはイメージウォーターマークの上に重ねて表示されます。

イメージウォーターマークを設定する場合には、チェックボックス「**イメージウォーターマークを設定する**」にチェックマークを付けます。なお、初期状態では、このチェックボックスにチェックマークは付いていません。

処理 イメージウォーターマークを設定する対象となるページの指定とウォーターマークの表示と印刷についてのオプション設定を行います。

全ページ 出力する PDFファイルのすべてのページにイメージウォーターマークを設定します。先頭/最終ページに配置したくない場合には、それぞれについてチェックボックス「先頭ページに配置する」/「最終ページに配置する」のチェックマークを外します。

指定ページ 出力する PDFファイルの指定したページにだけにイメージウォーターマークを設定します。設定対象となるページは、ラジオボタン右のフィールドに以下の規則にしたがって先頭ページを「0」とした半角数字と記号を用いて設定します。複数のページ範囲をカンマ(,)で区切って指定することもできます。

範囲指定の方法

3ページから6ページまで 2-5

1ページのみ 0

例: 1, 5-10, 20-25

上の例では、2ページ、6～11ページ、21～26ページを対象としてイメージウォーターマークを設定します。

表示と印刷 埋め込んだイメージウォーターマークの表示、印刷についてのオプションをこのコンボボックスを用いて設定します。

表示	ウォーターマークの表示/印刷を行います。
非表示	ウォーターマークの表示/印刷を行いません。
表示 / 印刷しない	ウォーターマークを表示しますが、印刷しません。
非表示 / 印刷する	ウォーターマークを表示しませんが、印刷します。

NOTE :

「透明色 (BMP のみ)」のチェックボックス、「透明処理をする」にチェックマークを付けると「表示と印刷」設定が、「表示 (表示/印刷)」に設定されます。

設定イメージ ウォーターマークとして用いる Windows BMPファイルの指定、ページ上の設定位置、またこれに関する透明色の設定などを行います。

イメージファイルパス

..... イメージウォーターマークとして使用する Windows BMP/JPEG/GIF/PNG/TIFFファイルのフルパスを直接このフィールドに入力するか、フィールド右にある「参照 ...」ボタンをクリックして開く「ビットマップファイルの選択」ダイアログを用いて設定します。

倍率 (%) ページ上でのウォーターマークのサイズを変更したい場合は、このフィールドに倍率(%) を指定します。

透明色 (BMPのみ) .. イメージウォーターマークとして使用する Windows BMPファイル中の指定した色(RGB) を透明色に設定します。透明色に設定された色を持つすべての画素が透明に設定されます。初期状態では、白(R:255, G:255, B:255) が透明色となるように設定されています。

透明処理をする

画像ファイルに透明処理を行ってウォーターマークとして埋め込みます。

半透明 設定するイメージウォーターマークの半透明合成処理についてのオプションを設定します。

半透明処理をする

画像ファイルを半透明なウォーターマークとして設定します。このオプションを選択した場合には、「不透明度」フィールドで不透明度(%) を設定します。不透明度 0%、100%は、それぞれ完全に透明な状態、完全に不透明な状態を示します。なお、初期状態では、100%(完全に不透明) に設定されています。

位置 イメージウォーターマークを配置するページ上の位置を設定します。初期状態では、ページ中央に配置するように設定されています。

位置を... ウォーターマークとして使用する画像ファイルを指定する 配置する位置と画像の大きさをコンボボックス右のフィールドで指定する。

並べて..... ウォーターマークとして使用する画像ファイルをタイル状に並べて合成します。

全体..... ウォーターマークとして使用する画像ファイルをページの大きさに拡大・縮小(元画像の縦横比は保たれません)して合成します。このオプションを選択した場合には、「サイズ」で指定した画像サイズは適用されません。

中央..... ウォーターマークとして使用する画像ファイルとページの中心を合わせて合成します。

左上..... ウォーターマークとして使用する画像ファイルとページの左上端を合わせて合成します。

右上..... ウォーターマークとして使用する画像ファイルとページの右上端を合わせて合成します。

左下..... ウォーターマークとして使用する画像ファイルとページの左下端を合わせて合成します。

右下..... ウォーターマークとして使用する BMPファイルとページの右下端を合わせて合成します。

NOTE :

「透明色 (BMPのみ)」のチェックボックス、「透明処理をする」にチェックマークを付けると

1. 「表示と印刷」設定が、「表示 (表示/印刷)」に設定されます。
2. 「位置」設定で、「並べて」を選択できません。

MEMO :

半透明なウォーターマークは、Acrobat5.0以降でなければ表示できません。Acrobat 4.0以前では、不透明度が、0% (完全に透明) 以外に設定されているウォーターマークは、すべて不透明なウォーターマークとして表示されます。

QRコード貼付設定

PDF Serverが出力する PDFファイルの先頭ページに QRコードを貼り付けて出力します。



「QRコード貼付設定」ダイアログ

出力する PDFファイルに QRコードを貼り付ける場合には、「QRコードを出力 PDFに貼り付ける」チェックボックスにチェックマークを付けます。なお、初期状態では QRコードを貼り付けません。

QRコード QRコードに変換するデータ、また QRコードのオプション設定を行います。

誤り訂正レベル ...QRコードは、コードが汚れていたり破損していても、データを復元する機能を持っていて、誤り訂正レベルによってその訂正能力を設定します。

誤り訂正レベル	誤り訂正能力
L	約 7%
M	約 15%
Q	約 25%
H	約 30%

誤り訂正レベルを上げれば、誤り訂正能力が向上しますが、同時にデータ量が増えるためコードのサイズが大きくなります。

型番 貼り付ける QRコードの型番(バージョン)を設定します。設定可能な値の範囲は、1～40です。また「自動」を選択した場合には、出力データに合わせて最適なバージョンを選択します。チェックボックス「自動拡張」にチェックマークを付けると指定した型番の QRコードにデータが収まりきれない場合、自動的に指定した型番より大きな QRコードを貼り付けます。

マス킹パターン

読み取り精度を保つため、QRコード全体に白と黒の部分が配置されるようにマス킹処理が行われます。ここでは、この処理に用いるパターンを 0～7の数値で指定します。「自動」を選択した場合には、最適なマス킹パターンを選択して QRコードを生成します。

モジュールサイズ

貼り付ける QRコードの大きさを 1～20の数値で設定します。初期状態では、「4」が選択されています。



「QRコード表示」ウィンドウ

【データ】.....QRコードとして貼り付けるテキストをこのフィールドに入力します。このデータとして、ヘッダ/フッタに使用できる特殊文字を利用することも可能です。

「テスト表示」ボタン

QRコードエリアの設定で【出力データ】フィールドの内容をQRコードに変換したサンプルを「QRコード表示」ウィンドウに表示します。

貼り付け位置..... QRコードを出力する PDFファイルに貼り付ける位置を設定します。

場所.....QRコードを貼り付ける場所を PDFファイルの先頭ページの左上/中央上/右上の3箇所から1つを選択します。

位置.....QRコードを貼り付ける位置を PDFファイルの先頭ページの上端/左端から、QRコード左上隅までの距離、QRコードの一変のサイズで設定します。

TIFF設定

PDF Serverによって TIFFファイルを出力する際のオプション設定を行います。



「TIFF設定」画面

縮小率..... 画像の縮小率を%単位で指定します。

解像度..... 出力するTIFFファイルの解像度(単位:dpi)を指定します。

イメージ変換にGDI+を利用する

画像変換にGDI+を利用する場合には、このチェックボックスにチェックマークを付けます。

出力カラー..... カラーの TIFFファイルを出力する際の変換オプションを設定します。初期状態では、「入力ファイルに従う」に設定されています。

入力ファイルに従う	入力ファイルと同じカラーモデルの画像として出力します。
モノクロ	モノクロ2画像として出力します。
256階調グレースケール	8bit(256階調)のグレースケール画像に変換して出力します。
256色	256色のインデックスカラー画像として出力します。

圧縮方法 出力する TIFFファイルの圧縮方法を設定します。初期状態では、「LZW(ZLIB)圧縮」に設定されています。なお、本製品がサポートしている圧縮方法は以下の通り。

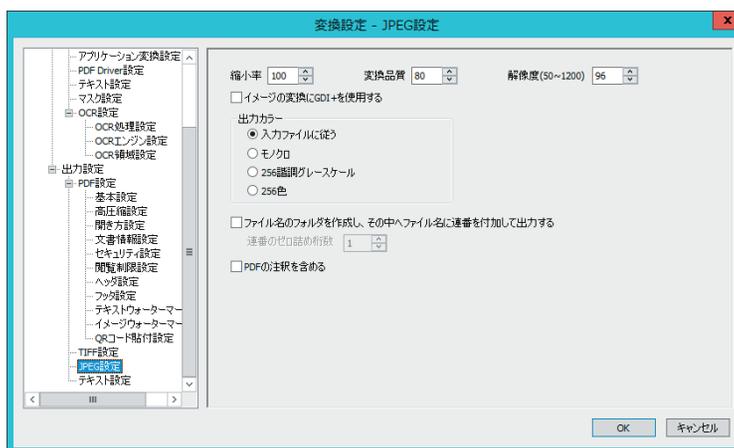
圧縮しない
LZW(ZLIB)圧縮
JPEG圧縮
DEFLATE圧縮
ランレングス圧縮
CCITT Group 4
CCITT Group 3

PDFの注釈を含める(設定ファイルのバージョンが304の場合のみ有効)

PDFファイルのページ上に設定されているテキスト/描画マークアップ注釈を含めて画像に出力します。

JPEG設定

PDF ServerによってJPEGファイルを出力する際のオプション設定を行います。



「JPEG設定」画面

縮小率..... 画像の縮小率を%単位で指定します。

変換品質..... 画像変換時のJPEGの品質を設定します。

解像度..... 出力するファイルの解像度(単位:dpi)を指定します。

イメージ変換にGDI+を利用する

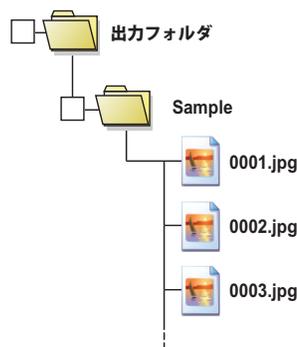
画像変換にGDI+を利用する場合には、このチェックボックスにチェックマークを付けます。

出力カラー..... カラーの JPEGファイルを出力する際の画像変換オプションを設定します。初期状態では、「入力ファイルに従う」に設定されています。

入力ファイルに従う	入力ファイルと同じ色数の画像として出力します。
モノクロ	画像の色数をモノクロ2値に変換します。
256階調グレースケール	画像の色数を8bit(256階調)のグレースケールに変換します。
256色	画像の色数を256色に変換します。

ファイル名のフォルダを作成し、その中にページ番号をファイル名にして保存する

出力フォルダ内に「出力ファイル設定」で設定したファイル名として設定される文字列を名前としたフォルダを作成し、そのフォルダ内にファイル名をページ番号としたJPEGファイルを出力します。(下図参照)



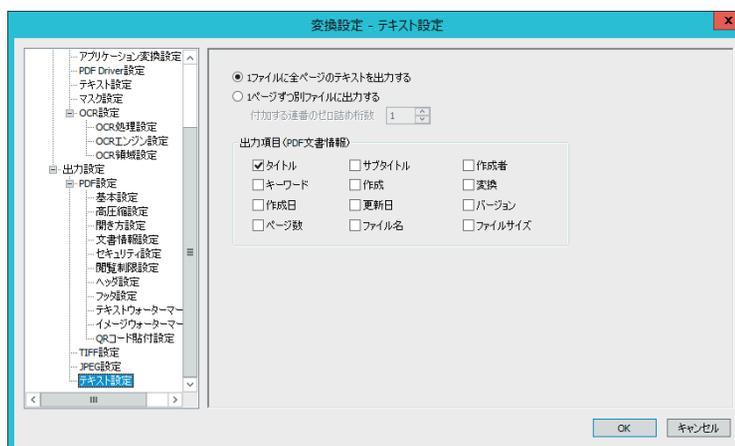
また、このとき、ページ番号を示す文字列のゼロ詰め桁数を指定することができます。

PDFの注釈を含める

PDFファイルのページ上に設定されているテキスト／描画マークアップ注釈を含めて画像に出力します。

テキスト設定

PDFファイルに OCR処理によって得られたテキストが含まれる場合、PDFファイルに含まれるテキストをテキストファイルとして出力する際のオプション設定を行います。



「テキスト設定」画面

1 ファイルに全ページのテキストを出力する

PDFファイルから抽出された全ページのデータを 1つのテキストファイルに出力します。

1 ページずつ別ファイルに出力する

PDFファイルから抽出された複数ページのデータを、1ページ毎に出力します。出力されるファイル名は

「ファイル名」+「_(アンダーバー)」+「ページ番号」+「.txt」となります。

付加する連番のゼロ詰め桁数

これは、1ページずつ別ファイルに出力する際にファイル名の「ページ番号」について、ゼロ詰め設定する場合に用いるオプションです。ファイル名のゼロ詰めを行う桁数を 1～10の範囲の数値で設定します。

出力項目 (PDF文書情報)

テキストの抽出処理対象となる PDFファイルの文書情報を出力するテキストファイルに追加する場合に用います。

テキストファイルに出力したい PDFファイルの文書情報の項目を、チェックボックスを使って選択します。出力できる PDFファイルの文書情報は以下の通りです。

タイトル	サブタイトル	作成者
キーワード	作成	変換
作成日	更新日	バージョン
ページ数	ファイル名	ファイルサイズ

タスクの設定

- 標準モード編 -

ここでは、PDF Serverのタスクを標準モードで指定する場合の設定方法について説明します。

フォルダの作成

タスクの設定にあたり監視対象とするフォルダなどをあらかじめ作成しておきます。監視フォルダ(入力フォルダ)、および各ファイルの出力先フォルダは Windows共有が可能なフォルダであれば、PDF Serverがインストールされているコンピュータ上にある必要はありません。必要に応じて以下のフォルダを作成して下さい。(名称は任意)

作成するフォルダ

監視フォルダ.....一つのタスクにつき監視フォルダ(入力フォルダ) を一つ指定します。(必須)

出力先フォルダ.....PDF Serverの処理によって出力されるファイルの保存先フォルダです。出力されるファイルは設定により異なります。各ファイル形式ごとに出力先を指定できますので、必要に応じて作成して下さい。なお、PDF Serverが出力することができるファイル形式については、事項を参照してください。

移動先フォルダ.....処理に成功した場合の元ファイルの移動先と、失敗した場合の移動先を指定できます。(設定により処理済ファイルを移動せず、削除することもできます。その場合、移動先フォルダは必要ありません)

PDF Serverが出力することができるファイル形式

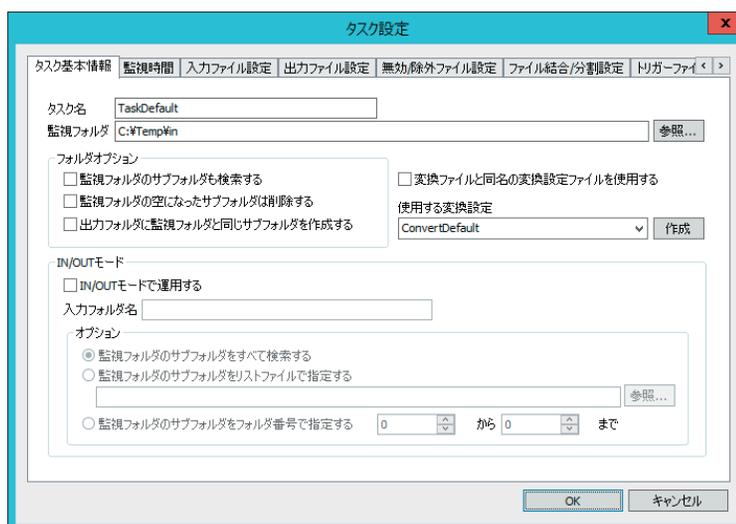
PDF Serverが出力することができるファイルは次の通りです。

PDF ファイル	画像ファイル、Microsoft Officeファイル、「アプリケーション変換設定」画面で登録されている拡張子を持つ文書ファイルから生成された PDF ファイル、またはオリジナルが PDFであったファイルです。 OCR処理を行った場合、OCR処理によって得られたテキストが埋め込まれます。
TIFF ファイル	入力ファイルをマルチページの TIFFファイルに変換して出力します。入力ファイルが画像ファイル以外の場合、一旦 PDFファイルに変換した後、PDFファイルのそれぞれのページを TIFFファイルに変換して出力します。この処理は非常に大量のメモリを要求する負荷が大きいため、完了するまでに長時間を要したり、対象となる PDFファイルのページの内容の複雑さによっては、メモリ不足が発生し、処理を正常に完了できないこともあります。このことを理解した上でご利用ください。
JPEG ファイル	入力ファイルから作成された PDFファイルのそれぞれのページを JPEGファイルに変換して出力します。この処理は非常に大量のメモリを要求する負荷が大きいため、完了するまでに長時間を要したり、対象となる PDFファイルのページの内容の複雑さによっては、メモリ不足が発生し、処理を正常に完了できないこともあります。このことを理解した上でご利用ください。
テキストファイル	画像ファイルを OCR処理した際に得られたテキストと PDFファイルに設定されている文書情報をテキストファイルとして出力します。

タスク設定の作成／編集

次のいずれかの方法で「タスク設定」ダイアログを表示し、タスク設定を作成／編集します。

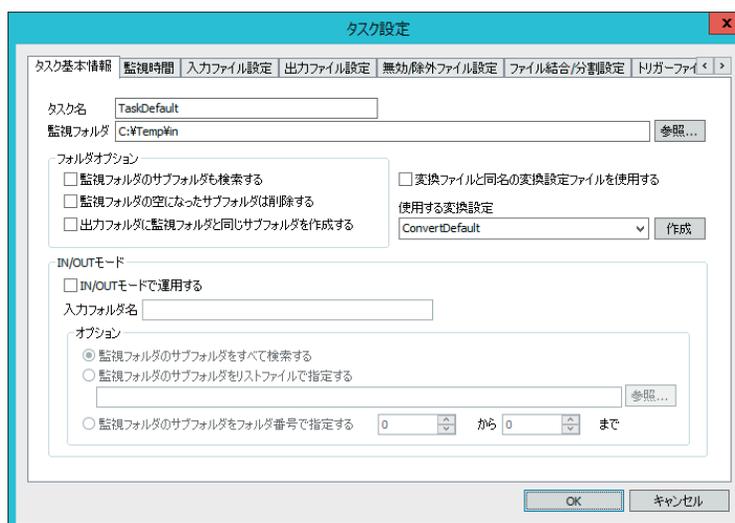
1. ツールバー上の「新規タスク設定」ボタンをクリックする。
2. 「設定」メニューの「タスク設定」から「新規...」を選択する。
3. リストに登録されているタスクを編集する場合には、以下のいずれかの方法をとります。
 - ・ リスト中のタスクをダブルクリックする
 - ・ リスト中のタスクを選択した後、「設定」メニューの「タスク設定」から「編集...」を選択する。
 - ・ リスト中のタスクを右クリックして表示されるコンテキストメニューから「編集...」を選択する。



「タスク設定」ダイアログ

タスク基本情報の設定

監視対象となるフォルダ(監視フォルダ) についての設定を行います。



「タスク基本情報」設定画面

1. 「タスク名」入力フィールドにこのタスクの名前を入力します。ここで設定した名前がコントロールセンターのタスクリストに表示されます。

注意: タスク設定は、「タスク設定名」フィールドに入力した文字列をファイル名として保存されるため以下の半角文字を利用することが出来ません。(これらの文字を入力した場合、左図の様にメッセージが表示されます。)

¥ / , ; : * ? " < > |

もし、タスク設定名にこれらの文字を用いたまま保存した場合、該当するすべての文字が自動的に「@」に置換されます。

2. 「監視フォルダ」入力フィールドに監視フォルダをフルパスで入力するか、フィールド右にある「参照 ...」ボタンをクリックして表示される「フォルダーの参照」ダイアログを用いて設定します。

注意: 他のタスクの監視フォルダとして設定されているフォルダ、またそのサブフォルダを監視フォルダに設定することはできません。

3. 「フォルダオプション」エリアを用いて、監視フォルダのサブフォルダの扱いについてのオプション設定を行います。

監視フォルダのサブフォルダも検索する

監視フォルダ内にサブフォルダがあった場合、そのフォルダも監視対象にして、ファイルが存在した場合に処理を行います。

監視フォルダの空になったサブフォルダは削除する

上記「監視フォルダのサブフォルダも検索する」オプションを有効にしていた場合、処理済の空フォルダを監視フォルダ内から削除します。

出力フォルダに監視フォルダと同じサブフォルダを作成する

上記「監視フォルダのサブフォルダを検索する」オプションが有効な場合、タスク実行時にその監視フォルダ内に存在する同一名のサブフォルダを各出力先フォルダに作成し、その中にファイルを出力します。

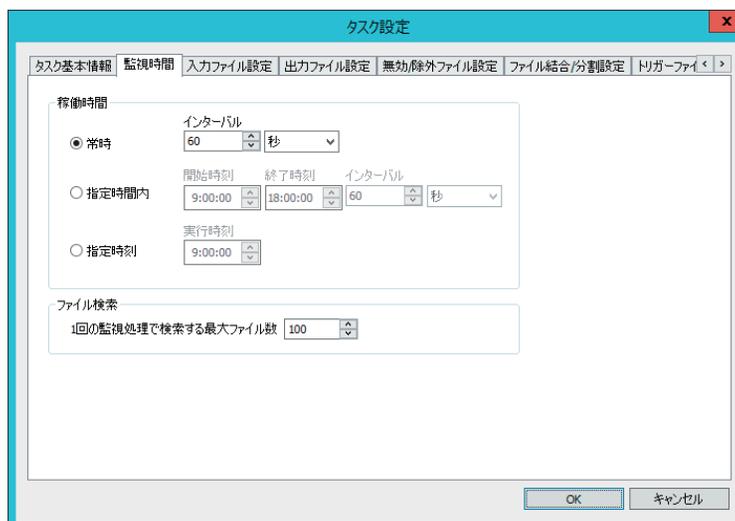
4. コンボボックス「使用する変換設定」を用いて、このタスクに割り当てる変換設定を選択します。なお、コンボボックス右の「作成」ボタンをクリックすると「PDF Server V3 変換設定ツール」ウィンドウを表示し、変換設定の作成/編集を行うことができます。

チェックボックス「変換ファイルと同名の変換設定ファイルを使用する」

これにチェックマークを付けるとコンボボックス「使用する変換設定」で指定された変換設定ではなく、監視フォルダに存在する変換対象となるファイルと同じ名前の変換設定ファイルを使用して変換処理を行います。

監視時間設定

タスクを実行する稼働時間と一回の監視フォルダの内容チェックで、タスク処理のキュー(待ち行列)に登録するファイルの最大数を設定します。



「監視時間」設定画面

稼働時間

1. 監視スケジュールを“常時”、“指定時間内”、“指定時刻に一度”のいずれかから選択します。
2. 選択したスケジュールの時間を、該当する時間指定項目から設定して下さい。

常時 指定した一定のインターバル(秒/分/時間)でタスクを実行します。指定可能な値の範囲は、1～9999で、初期状態では、“60秒”に設定されています。

指定時間内 開始時刻と終了時刻を指定し、その間、指定したインターバルでタスクを実行します。開始時刻と終了時刻、インターバル(秒/分/時間)を指定します。時刻は、24時間表記、指定可能な値の範囲は、1～9999です。初期状態では、9:00:00～18:00:00の間を、60秒おきにタスクを実行するように設定されています。

指定時刻に一度 .. 一日に一度、指定した時刻にタスクを実行します。タスクの実行時刻を指定して下さい。時刻は、24時間表記で指定します。初期状態では、9:00:00に実行する様に設定されています。

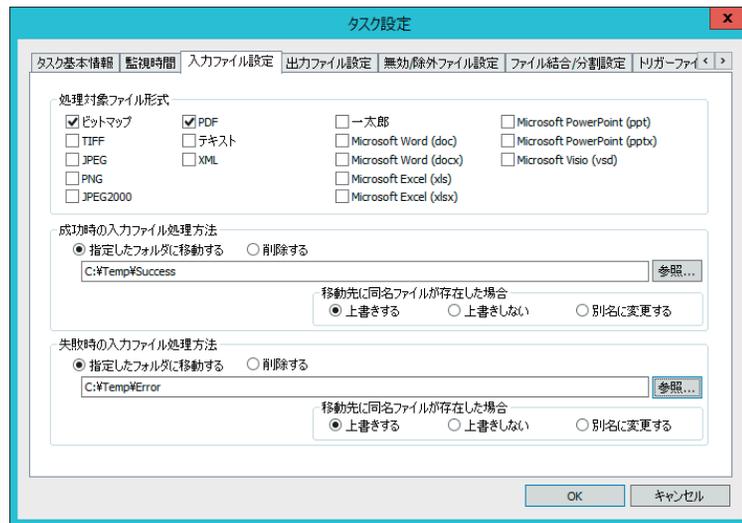
ファイル検索

一回の監視フォルダの内容チェック処理で新たにキューに処理対象として登録される最大ファイル数を指定します。

設定可能な値の範囲は、1～999999で、初期状態には、“100”が設定されています。

入力ファイル設定

処理対象となる入力ファイルについての設定を行います。



「入力ファイル設定」画面

MEMO：

PDF ファイルを処理する場合、ページの内容だけが、新たな PDF のページとして出力されます。

そのため、元の PDF ファイルに設定されていたしおり、注釈、フォーム、アクション、リンクなどのすべての付加情報は出力される PDF ファイルには引き継がれません。

処理対象ファイル形式

このエリアに用意されているチェックボックスにチェックマークを付けて処理対象となるファイル形式を選択します。PDF Serverは、以下にあげる形式のファイルを対象として処理します。

ファイル形式	拡張子	備考
ビットマップ	.bmp	※ 1
TIFF	.tif .tiff	※ 1
JPEG	.jpg .jpeg	※ 1
PNG	.png	※ 1
JPEG2000	.j2k .jp2	※ 1
PDF	.pdf	・ Acrobat 9.x で追加された機能(256-bit AES による暗号化、PDFポートフォリオなど)が使用されている PDFファイルには対応していません。
テキスト	.txt	
XML	.xml	
Microsoft Word	.doc .docx	Microsoft Office 2003 ^{※ 2} /2007/2010/2013/2016対応
Microsoft Excel	.xls .xlsx	Microsoft Office 2003 ^{※ 2} /2007/2010/2013/2016対応
Microsoft PowerPoint	.ppt .pptx	Microsoft Office 2003 ^{※ 2} /2007/2013/2016対応

なお、初期状態では、「PDF」だけが選択されています。

注意： PDF Serverを使用するコンピュータに PDF生成仮想プリンタドライバ「Antenna House PDF Driver 7.5」と Microsoft Wordなどのソフトウェアがインストールされていなければ、ソフトウェアに対応するチェックボックスを利用することはできません。

※ 1 対応画像ファイルの詳細な情報については、巻末付録「PDF Serverの対応画像形式について」を参照してください。

※ 2 Microsoft Office 2003がインストールされている環境では、Office 2007/2010/2013/2016/2019形式の文書ファイル(.docx/.xlsx/.pptx) の PDF 変換の動作を保証しておりません。Office 2007/2010/2013/2016/2019形式の文書ファイル(.docx/.xlsx/.pptx) の PDF変換を行う場合には、Microsoft Office 2013/2016/2019のいずれかをインストールして下さい。

成功時の入力ファイル処理方法

対象ファイルの処理に成功した場合の処理対象ファイルの取り扱い方法として、ファイル移動／削除のいずれかから選択します。

指定したフォルダに移動する

処理に成功したファイルの移動先フォルダのフルパスをラジオボタン下のフィールドに直接入力するか、フィールド右にある「参照 ...」ボタンをクリックして表示される「フォルダの参照」ダイアログを用いて設定します。

移動先フォルダパスの入力例 C:¥PDF_¥sv¥成功

注意： このオプションを選択する場合には必ず移動先フォルダを指定しなければなりません。

移動先に同名ファイルが存在した場合

移動先フォルダに既に同じ名称のファイルが存在した場合の処理方法を指定します。初期状態では、**上書きする**が選択されています。

上書きする そのまま上書き保存します。先に存在していた同名名称のファイルは失われてしまいます。

上書きしない 上書き保存せず、移動対象となるファイルを削除します。その結果、既に存在していたファイルは保持され、処理に成功した処理ファイルが失われてしまいます。

別名に変更する .. ファイル名の「拡張子」の直前に「(数字)」(数字は 1 から始まる連続する整数) を付加した別名のファイルとして保存します。

例: サンプル.jpg、サンプル(1).jpg、サンプル(2).jpg、・・・

削除する

処理に成功した対象ファイルを「ごみ箱」に移動することなく削除します。

失敗時の入力ファイル処理方法

対象ファイルの処理に失敗した場合の処理対象ファイルの取り扱い方法として、ファイル移動／削除のいずれかから選択します。

指定したフォルダに移動する

処理に失敗したファイルの移動先フォルダのフルパスをラジオボタン下のフィールドに直接入力するか、フィールド右にある「参照 ...」ボタンをクリックして表示される「フォルダの参照」ダイアログを用いて設定します。

移動先フォルダパスの入力例 C:¥PDF_sv¥エラー

注意： このオプションを選択する場合には必ず移動先フォルダを指定しなければなりません。

移動先に同名ファイルが存在した場合

移動先フォルダに既に同じ名称のファイルが存在した場合の処理方法を指定します。初期状態では、**上書きする**が選択されています。

上書きする そのまま上書き保存します。先に存在していた同名のファイルは失われてしまいます。

上書きしない 上書き保存せず、移動対象となるファイルを削除します。その結果、既に存在していたファイルは保持され、処理に失敗した処理ファイルが失われてしまいます。

別名に変更する .. ファイル名の「.拡張子」の直前に「(数字)」(数字は 1 から始まる連続する整数)を付加した別名のファイルとして保存します。

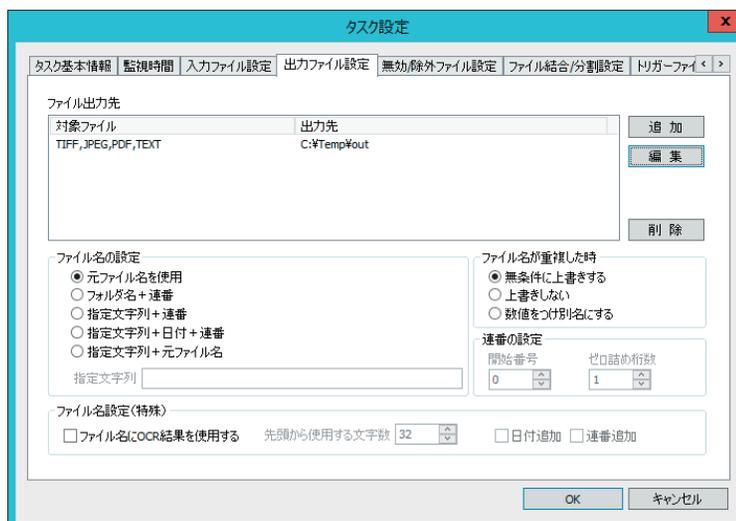
例: サンプル.jpg、サンプル(1).jpg、サンプル(2).jpg、……

削除する

処理に失敗した対象ファイルを「ごみ箱」に移動することなく削除します。

出力ファイル設定

PDF Serverによる処理の結果出力される PDF/TIFF/テキスト /JPEGファイルの出力フォルダとファイル名についての設定を行います。



「出力ファイル設定」画面

ファイル出力先

PDF Serverの処理によって出力するファイル形式とその出力先フォルダを設定します。初期状態では出力するファイル、出力先フォルダ共に設定されていませんので、1つ以上の出力ファイル形式とそのファイルの出力先フォルダを設定する必要があります。具体的な出力ファイルの登録方法については、「[ファイル出力先の追加](#)」の項で説明します。

出力ファイル形式

PDF Serverが、出力可能なファイル形式は、以下の通りです。

PDF	監視フォルダに登録された処理対象ファイルから作成されたPDFファイルを出力します。OCR処理を行う場合、OCR処理によって得られたテキストが埋め込まれたPDFファイルが出力されます。
TIFF	入力ファイルをTIFFファイルに変換して出力します。入力ファイルが画像ファイル以外の場合、一旦PDFファイルに変換した後、PDFファイルのそれぞれのページをTIFFファイルに変換して出力します。この処理は非常に大量のメモリを要求する負荷が大きいため、完了するまでに長時間を要したり、対象となるPDFファイルのページの内容の複雑さによっては、メモリ不足が発生し、処理を正常に完了できないこともあります。このことを理解した上でご利用ください。
JPEG	入力ファイルから作成されたPDFファイルのそれぞれのページをJPEGファイルに変換して出力します。この処理は非常に大量のメモリを要求する負荷が大きいため、完了するまでに長時間を要したり、対象となるPDFファイルのページの内容の複雑さによっては、メモリ不足が発生し、処理を正常に完了できないこともあります。このことを理解した上でご利用ください。
テキストファイル	画像ファイルをOCR処理した際に得られたテキストと、PDFファイルに設定されている文書情報をテキストファイルとして出力します。

ファイル名の設定

このオプションを用いて出力されるファイル名の設定を行います。

元ファイル名を使用..... 処理対象となるファイルと同じ名前をファイル名に設定します。

フォルダ名+連番..... 監視フォルダの名前に連番を加えたものをファイル名に設定します。

指定文字列+連番..... 任意の文字列に連番を加えたものをファイル名に設定します。ファイル名の一部として設定する文字列はこのエリア最下部のテキストフィールド入力します。

指定文字列+日付+連番..... 任意の文字列に日付と連番を加えたものをファイル名に設定します。ファイル名の一部として設定する文字列はこのエリア最下部のテキストフィールド入力します。

例: Sample_20091121_001.pdf

指定文字列+元ファイル名.. 任意の文字列に処理対象となるファイルの名前を加えたものをファイル名に設定します。ファイル名の一部として設定する文字列はこのエリア最下部のテキストフィールド入力します。

ファイル名が重複した時

出力フォルダに既に同じ名前のファイルが存在する場合に出力されるファイルの処理方法を設定します。

無条件に上書きする..... そのまま上書き保存します。以前、同じ名前で保存されていたファイルは失われてしまいます。

上書きしない..... 上書き保存せずに処理結果を破棄します。PDF Serverの処理によって作成されたファイルは保存されません。

数値をつけ別名にする... ファイル名の「拡張子」の直前に「(n)」(「n」は、1から始まる連番)を追加します。なお、「n」は常に1から順に詰められます。ファイル名が重複した時にファイル名に付加される連番の最大値は、「65535」です。「65535」の次は、「0」に戻ります。

例: Sample.pdf、Sample(1).pdf、Sample(2).pdf、...

連番の設定

「ファイル名の設定」で設定するファイル名に「連番」を含む項目を選択した場合の連番についてのオプション設定を行います。

開始番号..... 連番の最初の番号を指定します。

例: 「フォルダ名+連番」で開始番号を100にした場合

入力_100.pdf、入力_101.pdf、入力_102.pdf...

ゼロ詰め桁数..... 連番の表示する桁数を、1から10までの整数値で指定します。設定される連番が指定した桁数に満たない場合、連番の前に「0」を付けて桁数を合わせます。

例: 「フォルダ名+連番」で桁数を3にした場合(開始番号=0)

入力_000.pdf、入力_001.pdf、入力_002.pdf...

注意：

以下の場合、通常の方法による
ファイル名が設定されます。

- 処理対象が、Office ファイル
など、OCR 処理の対象とな
らないファイル形式の場合
- OCR 処理によってテキストが
得られない場合

ファイル名設定(特殊)

チェックボックス「ファイル名に OCR結果を使用する」にチェックマークを付けると、対象となるファイルの先頭ページの OCR結果をファイル名に設定することができます。

このオプションを有効にした場合、他のファイル名設定オプションよりもこのファイル名設定オプションが優先して実行されます。

先頭から使用する文字数

ファイル名として設定する OCRによって得られたテキストの先頭からの文字数を指定します。初期状態では、32文字に設定されています。

日付追加.....OCR結果によって設定されるファイル名に日付を加えます。

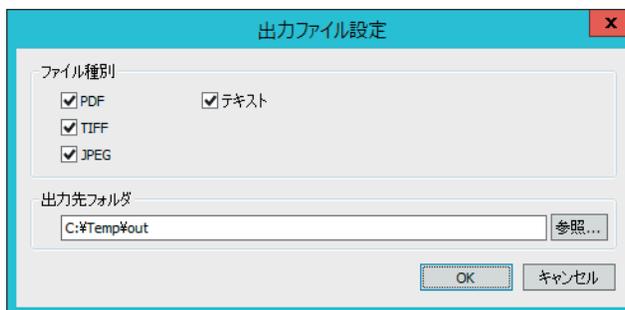
例: OCR文字列_20110501.pdf

連番追加.....OCR結果によって設定されるファイル名に「連番の設定」エリアでの設定にしたがって連番を加えます。

ファイル出力先の追加

以下に示す手順を繰り返して、PDF Serverの処理によって出力されるファイルのファイル形式と出力先フォルダを設定します。

1. 出力ファイルとその出力先を登録するには、ファイル出力先リスト右の「追加」ボタンをクリックして表示される「出力ファイル設定」ダイアログをします。

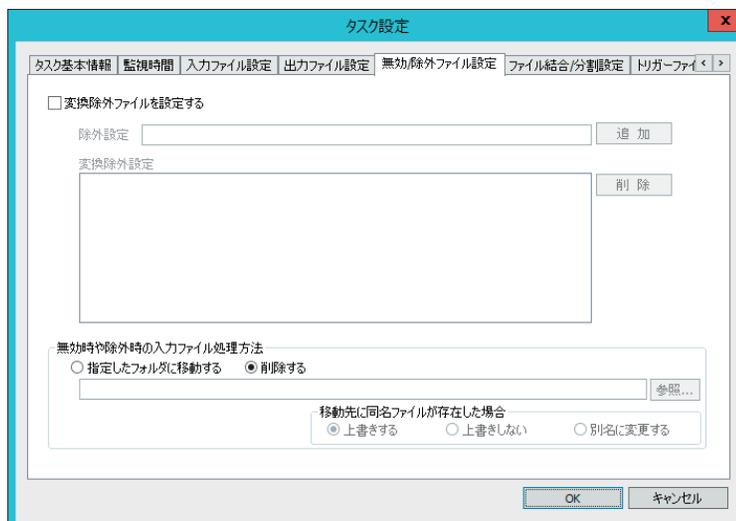


「出力ファイル設定」ダイアログ

2. 「ファイル種別」エリアの出力したいファイル形式のチェックボックスにチェックマークを付けます。
3. 「出力先フォルダ」フィールドにファイルの出力先をフルパスを直接入力するか、フィールド右にある「参照 ...」ボタンをクリックして表示される「フォルダーの参照」ダイアログを用いて設定します。
4. 設定内容を確認した後、「OK」ボタンをクリックして「ファイル出力先」リストに追加登録します。

無効／除外ファイル設定

監視フォルダに保存されているファイルの内、変換対象から除外するファイル名のパターンを指定します。この画面で指定したパターンに一致する名前を持つファイルは、変換対象から除外され、指定したフォルダに移動、または削除され、タスクの待ち行列に登録されません。



「無効／除外ファイル設定」画面

変換除外ファイルを設定する

登録したパターンに一致する名前を持つファイルを変換対象から外す場合にこのチェックボックスにチェックマークを付けます。

除外設定

このフィールドに変換対象から除外するファイル名のパターンを入力した後、「追加」ボタンをクリックして、フィールド下の「変換除外設定」リストに登録します。除外するファイル名のパターンは、不特定の文字列を示すワイルドカード(*)を使って設定します。以下に設定例を示します。

パターン	設定内容
10*.*	ファイル名が「10」で始まるすべてのファイル
*1	ファイル名が「1」で終わるすべてのファイル
AB.*	ファイル名に「AB」が含まれるすべてのファイル
~\$*.DOC	ファイル名が「\$」で始まる Word 文書ファイル

なお、除外対象ファイルとして「*.DOC」など、特定の拡張子のファイルを指定する設定、また「*.*」や「*」などすべてのファイルを指定する設定を行うことはできません。

注意：・指定文字列に含まれるアルファベットの大文字・小文字は、区別されません。

・読み取り専用属性／隠しファイル属性が設定されているファイルは、変換除外設定が有効／無効かによらず、除外処理されます。

無効時や除外時の入力ファイル処理方法

変換除外設定に登録されている条件を満たす処理対象ファイルの取り扱い方法として、ファイル移動／削除のいずれかから選択します。

指定したフォルダに移動する

変換除外設定に登録されている条件を満たすファイルの移動先フォルダのフルパスをラジオボタン下のフィールドに直接入力するか、フィールド右にある「参照 ...」 ボタンをクリックして表示される「フォルダーの参照」ダイアログを用いて設定します。

移動先フォルダパスの入力例 C:¥temp¥除外

注意： このオプションを選択する場合には必ず移動先フォルダを指定しなければなりません。

移動先に同名ファイルが存在した場合

移動先フォルダに既に同じ名称のファイルが存在した場合の処理方法を指定します。初期状態では、**上書きする**が選択されています。

上書きするそのまま上書き保存します。先に存在していた同じ名称のファイルは失われてしまいます。

上書きしない上書き保存せず、移動対象となるファイルを削除します。その結果、既に存在していたファイルは保持され、処理に成功した処理ファイルが失われてしまいます。

別名に変更する ..ファイル名の「.拡張子」の直前に「(数字)」(数字は 1 から始まる連続する整数)を付加した別名のファイルとして保存します。

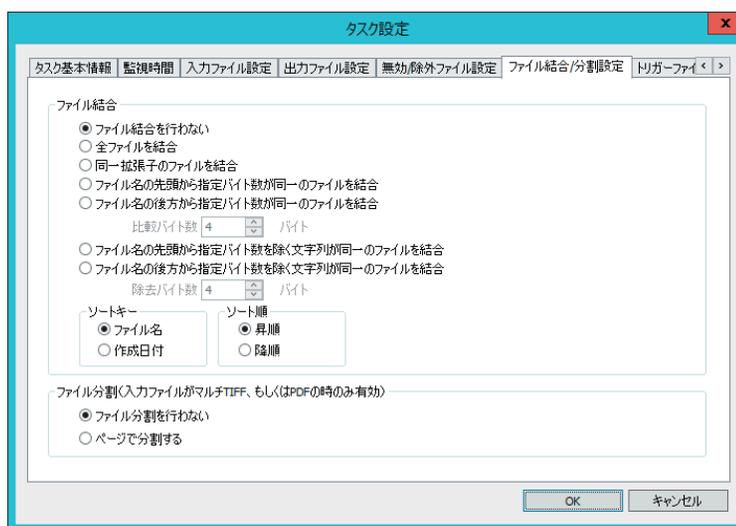
例: サンプル.jpg、サンプル(1).jpg、サンプル(2).jpg、・・・

削除する

変換除外設定に登録されている条件を満たす対象ファイルを「ごみ箱」に移動することなく削除します。

ファイル結合／分割設定

出力される PDF ファイルについて、ファイル結合／分割についての設定を行います。



「ファイル結合／分割設定」画面

ファイル結合

PDF Serverによって出力される複数の PDF ファイルを結合して一つの PDF ファイルとして出力する際の結合方法を設定します。初期状態では、「ファイル結合を行わない」が選択されています。

ファイル結合を行わない..... PDF ファイルの結合処理を行いません。

全ファイルを結合..... 1 回の監視フォルダのチェックによって処理の待ち行列に追加される対象ファイルを処理し、一つの PDF ファイルとして出力します。

同一拡張子のファイルを結合.... 1 回の監視フォルダのチェックによって処理の待ち行列に追加される対象ファイルの内、ファイルの拡張子ごとに結合した一つの PDF ファイルとして出力します。

ファイル名の先頭からの指定バイト数が同一のファイルを結合

処理対象となるファイル名の先頭から指定したバイト数 (文字数) が同一のファイル同士を結合して出力します。この設定を行う場合、下の「比較バイト数」で先頭からの比較バイト数を 1 ～ 16 バイトの範囲で指定します。この時、「拡張子」は比較対象に含まれません。

半角英数字1文字 = 1バイト

全角文字1文字 = 2バイト

ファイル名の後方からの指定バイト数が同一のファイルを結合

処理対象となるファイル名の末尾から指定したバイト数 (文字数) が同一のファイル同士を結合して出力します。この設定を行う場合、下の「比較バイト数」で末尾からの比較バイト数を 1 ～ 16 バイトの範囲で指定します。この時、「拡張子」は後方からの指定バイトに含まれません。

半角英数字1文字 = 1バイト

全角文字1文字 = 2バイト

ファイル名の先頭からの指定バイト数を除く文字列が同一のファイルを結合

処理対象となるファイル名の先頭から指定したバイト数 (文字数)を除いた文字列が同一のファイル同士を結合して出力します。この設定を行う場合、下の「除去バイト数」で先頭からの除去バイト数を1～16バイトの範囲で指定します。この時、「拡張子」は比較対象に含まれません。

半角英数字1文字 = 1バイト
全角文字1文字 = 2バイト

ファイル名の後方からの指定バイト数を除く文字列が同一のファイルを結合

処理対象となるファイル名の後方から指定したバイト数 (文字数)を除いた文字列が同一のファイル同士を結合して出力します。この設定を行う場合、下の「除去バイト数」で後方からの除去バイト数を1～16バイトの範囲で指定します。この時、「拡張子」は後方からの指定バイトに含まれません。

半角英数字1文字 = 1バイト
全角文字1文字 = 2バイト

ソートキー ファイル結合を行う際のファイル結合順を決定するためのソートキーとしてファイル名/作成日付のいずれかから選択します。初期状態では、「ファイル名」が選択されています。

ソート順 「ソートキー」で指定した項目による並べ替えの順番を設定します。初期状態では、「昇順」に設定されています。

注意：

ファイル結合が同時に設定されている場合、ファイル結合が優先され、ファイル分割は無視されます。

MEMO：

1ページしか持たない TIFF/PDF ファイルを分割処理することはできません。

分割処理が設定されているタスクによって1ページしか持たない TIFF/PDF ファイルを処理しても、出力されるファイル名に「_(アンダースコア) + ページ番号 +d」は追加しません。

ファイル分割(入力ファイルがマルチTIFF、もしくはPDFのときのみ有効)

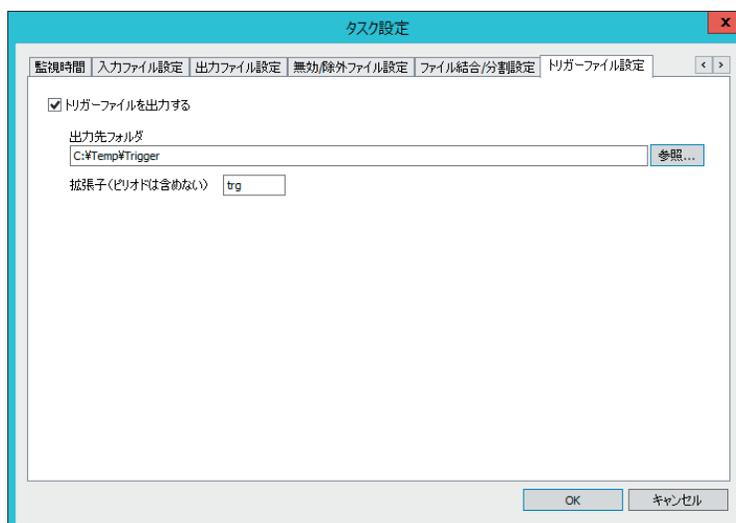
マルチ TIFFファイル、または PDFファイルを処理する際、これを単ページのTIFF、または PDFファイルに分割して処理するか否かについての設定を行います。初期状態では、「ファイル分割を行わない」が選択されています。ファイル分割を行う場合、出力されるファイルの名前は、「出力ファイル設定」で設定したファイル名として設定される文字列に「_(アンダースコア) + ページ番号 +d」を追加したものとなります。

例: sample_1d.pdf, sample_2d.pdf, sample_3d.pdf...

注意: "d"は、ファイル分割処理されたファイルであることを示すための文字です。

トリガーファイル設定

処理が終了したタイミングを記録したトリガーファイルの出力について設定します。トリガーファイルは、PDF Serverと他のソフトウェアを組み合わせる場合に利用するものです。



「トリガーファイル設定」画面

トリガーファイルを出力する

トリガーファイルを出力する場合にこのチェックボックスにチェックマークを付けます。

出力先フォルダ

このフィールドにトリガーファイルの出力先となるフォルダのフルパスを直接入力するか、フィールド右の「参照」ボタンをクリックして表示される「フォルダーの参照」ダイアログを用いて、出力先フォルダを指定します。

拡張子

出力されるトリガーファイルの拡張子 (最大3文字) を設定します。初期状態では、「trg」に設定されています。

- 注意:
- 入力する拡張子には「. (ドット)」は含みません。
 - トリガーファイル名は、出力される PDFファイル名 + ここで設定した拡張子となります。
 - トリガーファイルには、テキストでファイルの処理が完了した日付と時刻、変換の成功/失敗が記録されています。以下にその出力例を示します。

```
[information]
creation_date=2019/04/26 14:35:42
status=success
```

- トリガーファイルは、1つのファイル処理が完了した後に出力します。ただし、ファイル結合/分割の場合には、ファイルの結合/分割が完了した時点で出力します。
- トリガーファイルの出力先に同名のファイルが既に存在する場合には、上書き保存します。
- 変換ファイルがエラー以外の要因 (例: 既に同名ファイルが存在する場合に上書きしないように設定した場合) で出力されなかった場合には、トリガーファイルも出力しません。

タスクの設定

-IN/OUTモード編-

標準モードとの設定の違い

標準モードと IN/OUTモードでは、タスク設定のタスク基本情報設定、入力ファイル設定、出力ファイル設定が異なります。

ここでは、IN/OUTモードでのフォルダの作成、タスク設定のタスク基本情報設定、入力ファイル設定、出力ファイル設定についての説明を行います。

フォルダの作成

タスク設定を行う前に、処理対象ファイルを取めるフォルダを作成します。

1. 監視フォルダ

IN/OUTモードの場合、同じ階層にある複数の“サブフォルダ”という個別に“**入力フォルダ**”を持つフォルダを作成できますが、そのサブフォルダのあるディレクトリを“**監視フォルダ**”とし、任意の場所にそのフォルダを作成します。このフォルダは Windows共有が可能なフォルダであれば、PDFServerがインストールされているコンピュータである必要はありません。(フォルダ名は任意)

2. サブフォルダ(ユーザーフォルダ)

次に“監視フォルダ”直下のディレクトリに前出の“サブフォルダ”を必要な数作成します。(フォルダ名は任意)

3. 入力フォルダ

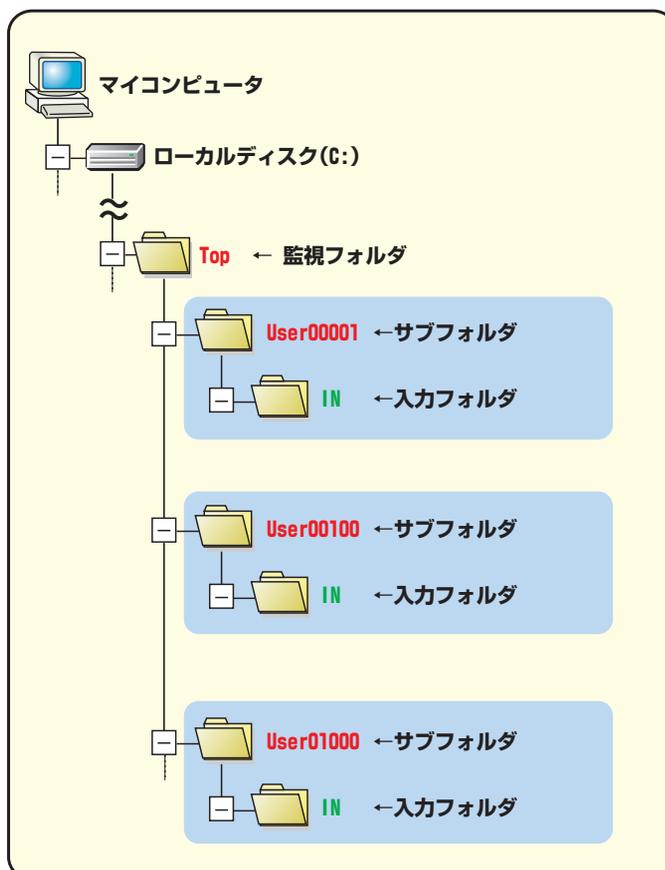
各“サブフォルダ”直下のディレクトリに“入力フォルダ”をサブフォルダ毎に作成します。各ユーザはこのフォルダへ変換したいファイルをアップロードします。

注意：入力フォルダの名前はどのようなものを設定しても構いませんが、全ての入力フォルダについて、同一である必要があります。PDFServerはその同名の入力フォルダ全てを監視対象とします。

MEMO：

IN/OUTモードでは、予め処理対象となる元ファイルの処理後の移動先フォルダや、作成されるファイルの出力先フォルダを作成する必要はありません。

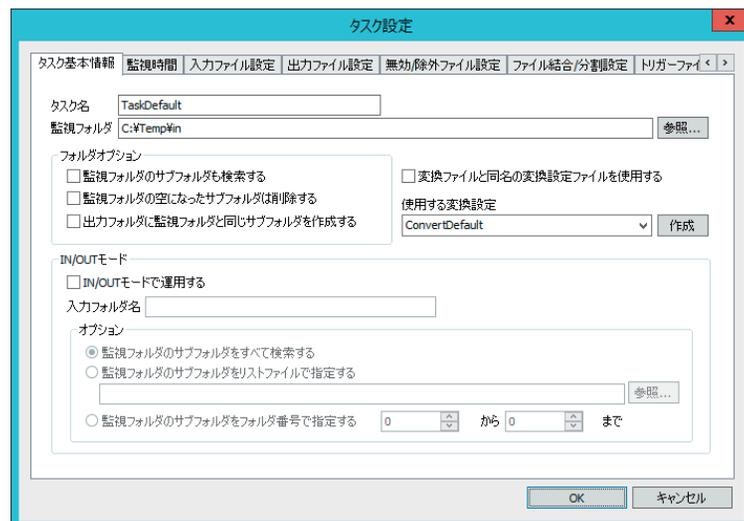
タスク設定で、移動先、及び出力先を指定するとタスク開始時に処理対象となるファイルが存在する場合、PDFServerによって自動的にこれらのフォルダが作成されます。



タスク情報の設定

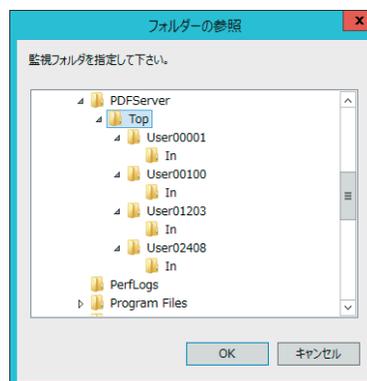
標準モードの場合と同様、次のいずれかの方法で「タスク設定」ダイアログを表示し、タスク設定を作成／編集します。

1. ツールバー上の「新規タスク設定」ボタンをクリックする。
2. 「設定」メニューの「タスク設定」から「新規 ...」を選択する。
3. リストに登録されているタスクを編集する場合には、以下のいずれかの方法をとります。
 - ・ リスト中のタスクをダブルクリックする
 - ・ リスト中のタスクを選択した後、「設定」メニューの「タスク設定」から「編集 ...」を選択する。
 - ・ リスト中のタスクを右クリックして表示されるコンテキストメニューから「編集 ...」を選択する。



「タスク基本情報」設定画面

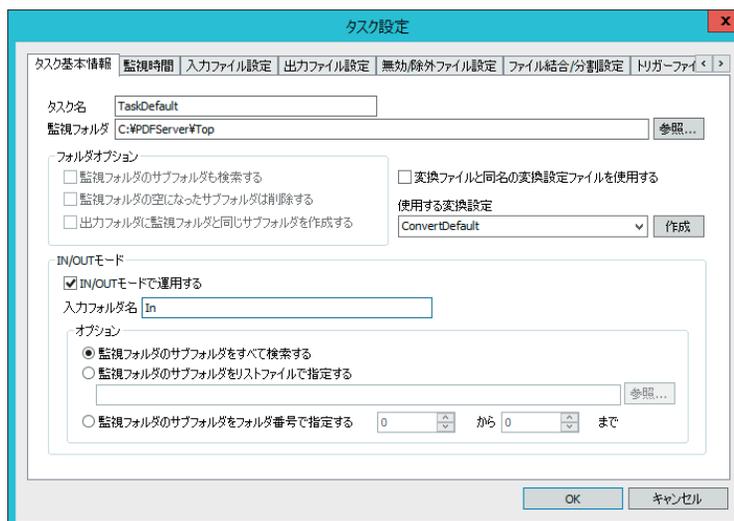
1. 標準モードの時と同様に「タスク名」フィールドにこのタスクの名前を入力します。ここで設定した名前がコントロールセンターのタスクリストに表示されます。
2. 「監視フォルダ」入力フィールドに監視フォルダをフルパスで入力するか、フィールド右にある「参照 ...」ボタンをクリックして表示される「フォルダの参照」ダイアログを用いて設定します。



「フォルダの参照」ダイアログ

注意： 他のタスクの監視フォルダとして設定されているフォルダ、またそのサブフォルダを監視フォルダに設定することはできません。

3. チェックボックス「IN/OUTモード運用する」にチェックマークを付け、このタスクの動作モードをIN/OUTモードに切り替えます。
4. IN/OUTエリアの「入力フォルダ名」フィールドに手順3で指定した監視フォルダのサブフォルダ内に作成される入力フォルダ名(ここでは、「In」)を入力します。



IN/OUTモードのタスク基本情報設定例

IN/OUTモードオプション

1. 監視フォルダのサブフォルダをすべて検索する

「監視フォルダ」で指定したフォルダ内にある、すべてのサブフォルダの入力フォルダ(例の場合には「In」)を監視対象フォルダとしてファイルの有無を検索します。初期状態ではこのオプションが選択されています。

2. 監視フォルダのサブフォルダをリストファイルで指定する

PDFServerの IN/OUTモードでは、監視対象とするサブフォルダをリストファイルを用いて指定することができます。この機能を利用することで、複数のPDFServerによって同じ「監視フォルダ」の監視／処理する事ができます。

この機能を利用するには、IN/OUTモードオプション項目の「**監視フォルダのサブフォルダをリストファイルで指定する**」オプションを選択し、フィールドにリストファイルのフルパスを直接入力するか、フィールド右の「参照 ...」ボタンをクリックして表示される「フォルダの参照」ダイアログを用いて指定します。

この機能の詳しい説明、及びリストファイルの作成方法は「[IN/OUT モードでの複数のPDFServerによる運用](#)」の項を参照してください。

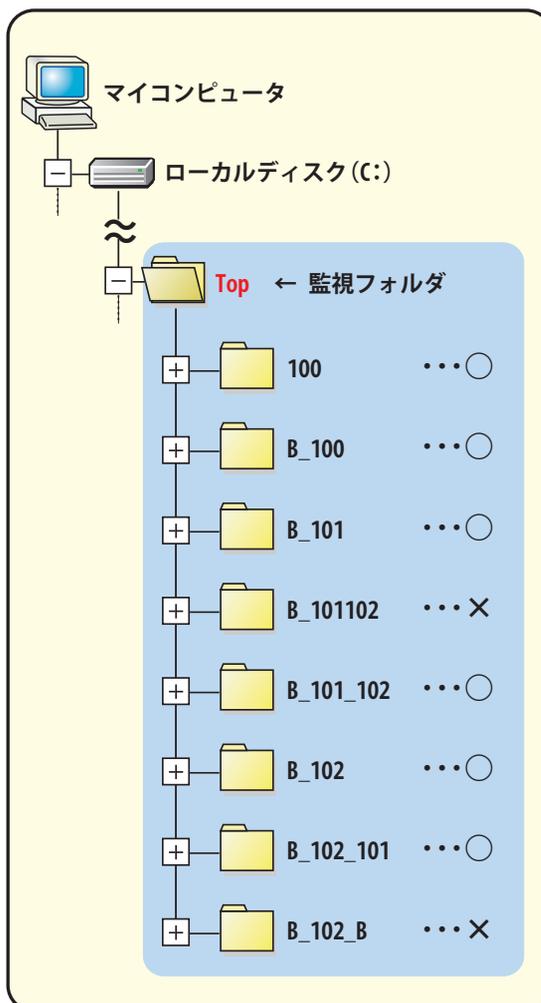
3. 監視フォルダのサブフォルダを番号で指定する

サブフォルダ名に連続した番号をつけることで、監視対象とするサブフォルダをこの番号の範囲を使って指定することができます。これにより、リストファイルなしで監視フォルダ内のサブフォルダを複数の PDFServer で監視／処理することができます。この機能を利用するには、「監視フォルダのサブフォルダを番号で指定する」オプションを選択し、番号指定入力フィールドに 0～9999 までの整数値で指定します。

フォルダ名の設定.....この機能を利用する場合、フォルダ名に該当する番号が含まれている必要があります。但し、番号が他の文字で挟まれている場合や、番号の後部に他の文字が含まれる場合は対象になりません。

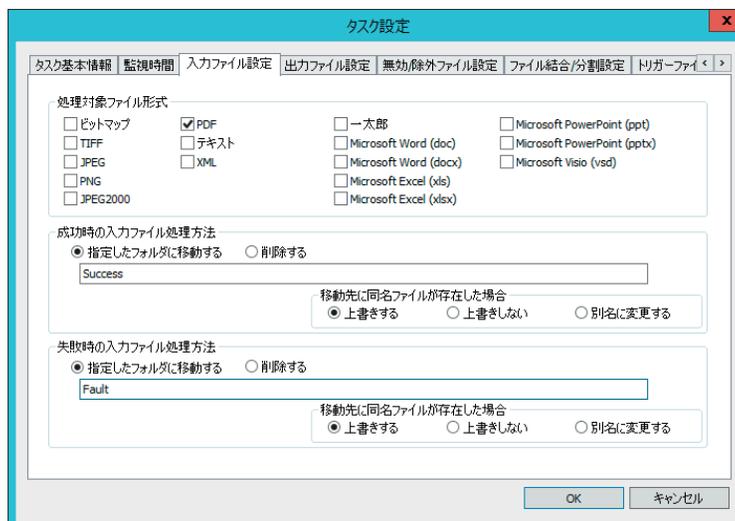
例) 下図の様なフォルダ構成でサブフォルダ番号として”1から102”を指定した場合、「B_101102」フォルダと「B_102_B」フォルダは監視対象になりません。

- 100.....100と認識するため監視対象となります。
- B_100.....100と認識するため監視対象となります。
- B_101.....101と認識するため監視対象となります。
- B_101102.....101102と認識します。これは、番号指定範囲外であり、指定可能な値(999)を越えるため監視対象になりません。
- B_101_102.....102と認識するため監視対象となります。
- B_102.....102と認識するため監視対象となります。
- B_102_101.....101と認識するため監視対象となります。
- B_102_B.....末尾が数値以外の文字であるため、監視対象とはなりません。



入力ファイルの移動先の設定

「タスク設定」ダイアログのタブ「入力ファイル設定」をクリックして、設定画面を表示します。処理対象ファイル形式の設定については、標準モードの場合と同じです。これらについての詳細は、「[タスクの設定 - 標準モード編 -](#)」の「[入力ファイル設定](#)」の項を参照してください。



入力ファイル設定画面

成功時の入力ファイル処理方法

処理に成功した場合の処理対象ファイルの取り扱い方法として、ファイル移動／削除のいずれかから選択します。

指定したフォルダに移動する

処理に成功した場合の処理対象ファイルの移動先フォルダの名前をラジオボタン下のフィールドに入力します。標準モードの場合と異なり、パスの指定は必要ありません。このタスクを開始して処理が成功すると、該当するサブフォルダ内にここで指定した名前のフォルダが作成され、そのフォルダにファイルを移動します。

注意： このオプションを選択する場合には必ず移動先フォルダ名を指定しなければなりません。

移動先に同名ファイルが存在した場合

移動先フォルダに既に同じ名前のファイルが存在した場合の処理方法を指定します。初期状態では、**上書きする**が選択されています。

上書きするそのまま上書き保存します。先に存在していた同名のファイルは失われます。

上書きしない上書き保存せず、移動対象となるファイルを削除します。その結果、既に存在していたファイルが保持され、処理に成功した処理対象ファイルが失われてしまいます。

別名に変更する ..ファイル名の「拡張子」の直前に「(数字)」(数字は 1 から始まる連続する整数)を付加した別名のファイルとして保存します。

例: サンプル.jpg、サンプル(1).jpg、サンプル(2).jpg、……

削除する

処理に成功した処理対象ファイルを「ごみ箱」に移動することなく削除します。なお、この設定にオプション設定はありません。

失敗時の入力ファイル処理方法

処理に失敗した場合の処理対象ファイルの取り扱い方法として、ファイル移動／削除のいずれかから選択します。

指定したフォルダに移動する

処理に失敗した場合の処理対象ファイルの移動先フォルダの名前をラジオボタン下のフィールドに入力します。標準モードの場合と異なり、パスの指定は必要ありません。このタスクを開始して処理に失敗すると、該当するサブフォルダ内にここで指定した名前のフォルダが作成され、そのフォルダにファイルを移動します。

注意： このオプションを選択する場合には必ず移動先フォルダ名を指定しなければなりません。

移動先に同名ファイルが存在した場合

移動先フォルダに既に同じ名前のファイルが存在した場合の処理方法を指定します。初期状態では、**上書きする**が選択されています。

上書きするそのまま上書き保存します。先に存在していた同名のファイルは失われてしまいます。

上書きしない上書き保存せず、移動対象となるファイルを削除します。その結果、既に存在していたファイルが保持され、処理に失敗した処理対象ファイルは失われてしまいます。

別名に変更する ..ファイル名の「.拡張子」の直前に「(数字)」(数字は 1 から始まる連続する整数)を付加した別名のファイルとして保存します。

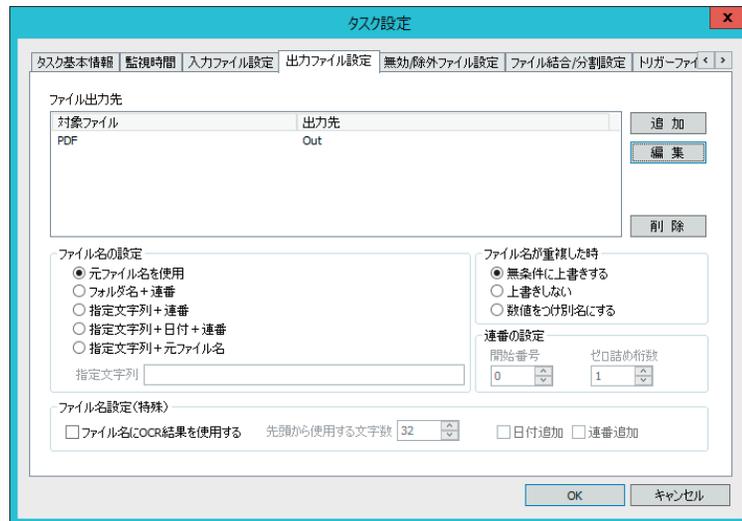
例: サンプル.jpg、サンプル(1).jpg、サンプル(2).jpg、……

削除する

処理に失敗した処理対象ファイルを「ごみ箱」に移動することなく削除します。なお、この設定にオプション設定はありません。

出力ファイルの設定

「タスク設定」ダイアログのタブ「出力ファイル設定」をクリックして、設定画面を表示します。PDFServerによる処理の結果出力される PDF/TIFF/テキスト /JPEGファイルなど、出力フォルダとファイル名についての設定を行います。出力されるファイル名のオプション設定については、標準モードの場合と同じですので、これについての詳細は、「[タスクの設定 - 標準モード編 -](#)」の「[出力ファイル設定](#)」の項を参照してください。

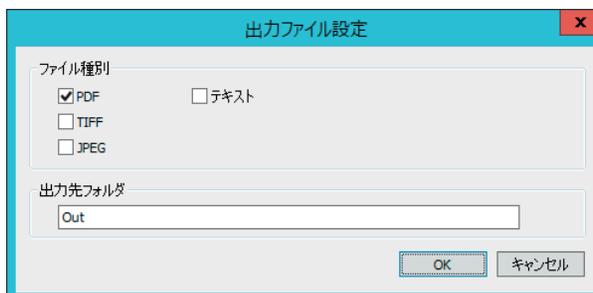


出力ファイル設定画面

ファイル出力先の追加

以下に示す手順を繰り返して、PDF Serverの処理によって出力されるファイルのファイル形式と出力先フォルダを設定します。

1. 出力ファイルとその出力先を登録するには、ファイル出力先リスト右の「追加」ボタンをクリックして表示される「出力ファイル設定」ダイアログを呼びます。

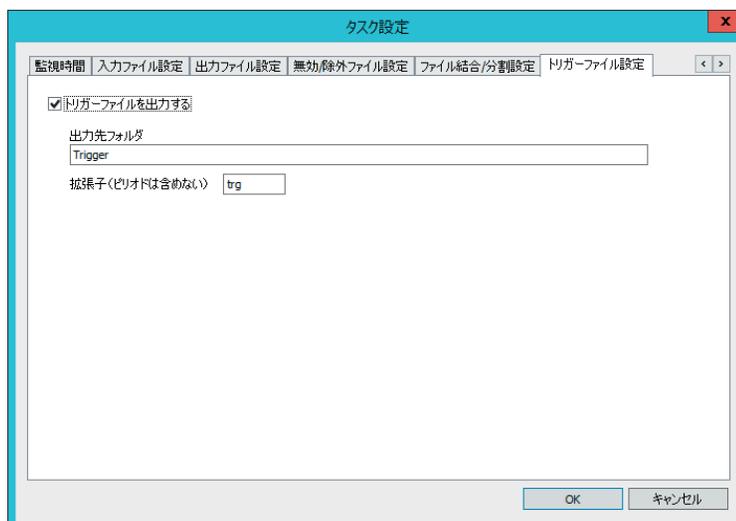


「出力ファイル設定」ダイアログ

2. 「ファイル種別」エリアの出力したいファイル形式のチェックボックスにチェックマークを付けます。
3. 「出力先フォルダ」フィールドにファイルの出力先フォルダの名前を入力します。標準モードの場合と異なり、パスの指定は必要ありません。
4. 設定内容を確認した後、「OK」ボタンをクリックして「ファイル出力先」リストに追加登録します。

トリガーファイル設定

処理が終了したタイミングを記録したトリガーファイルの出力について設定します。トリガーファイルは、PDF Serverと他のソフトウェアを組み合わせる場合に利用するものです。



「トリガーファイル設定」画面

トリガーファイルを出力する

トリガーファイルを出力する場合にこのチェックボックスにチェックマークを付けます。

出力先フォルダ

このフィールドにトリガーファイルの出力先となるフォルダの名前を入力します。標準モードの場合と異なり、フルパスでの指定は必要ありません。このタスクによるファイルの処理が成功/失敗に関わらず完了すると、該当するサブフォルダ内にここで指定した名前のフォルダが作成され、そのフォルダ内にトリガーファイルが出力されます。

拡張子

出力されるトリガーファイルの拡張子 (最大3文字) を設定します。初期状態では、「trg」に設定されています。

- 注意:
- 入力する拡張子には「. (ドット)」は含みません。
 - トリガーファイル名は、出力される PDFファイル名 + ここで設定した拡張子となります。
 - トリガーファイルには、テキストでファイルの処理が完了した日付と時刻、変換の成功/失敗が記録されています。以下にその出力例を示します。

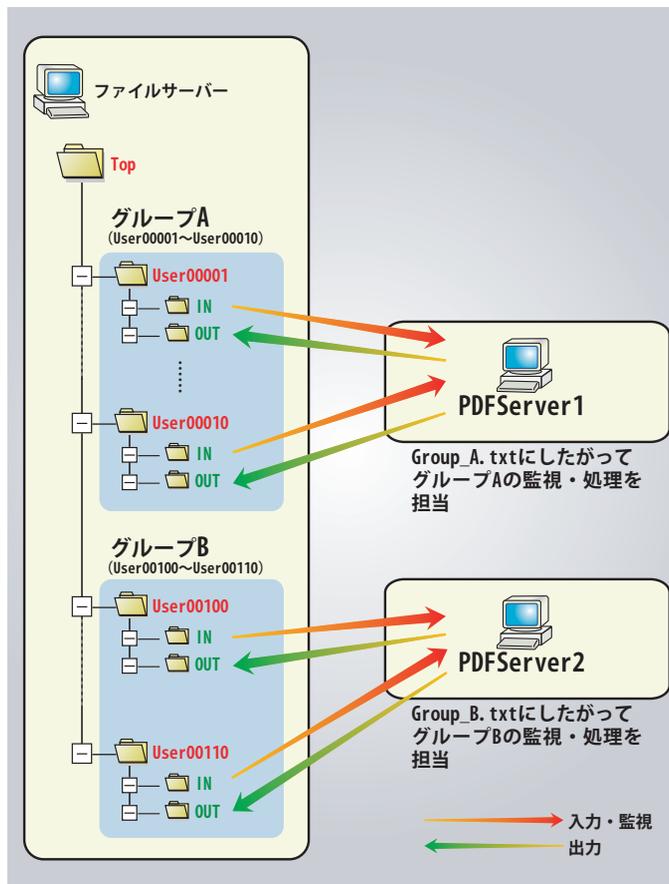
```
[information]
creation_date=2019/04/23 14:35:42
status=success
```

- トリガーファイルは、1つのファイル処理が完了した後に出力します。ただし、ファイル結合/分割の場合には、ファイルの結合/分割が完了した時点で出力します。
- トリガーファイルの出力先に同名のファイルが既に存在する場合には、上書き保存します。
- 変換ファイルがエラー以外の要因(例: 既に同名ファイルが存在する場合に上書きしないように設定した場合)で出力されなかった場合には、トリガーファイルも出力しません。

IN/OUTモードでの複数のPDFServerによる運用

IN/OUTモードでは、リストファイルを使って、監視対象となるユーザーフォルダを指定することにより、複数のPDFServerにより処理することができます。

これにより大量のファイル进行处理しなければならない場合、処理を複数のPDFServerによって分散する事ができます。また、処理を行うPDFServer毎に各設定を変更することができますので、そのグループに応じたファイルの出力等の処理を設定できます。



リストファイルの作成

複数の PDFServerを運用するには、PDFServerにどのユーザーフォルダの処理を担当するかを指示する必要があります。PDFServerでは、IN/OUTモードの時に処理対象となるフォルダ名が記録されたテキストファイルを指定することで決定されます。

「メモ帳」など適当なテキストエディタを用い、それぞれの PDFServerが処理を担当するユーザーフォルダ名を記述したリストファイル(拡張子: TXT) を作成し、保存します。

```
User00001
User00002
User00003
User00004
User00005
User00006
User00007
User00008
User00009
User00010
```

Group_A.txt

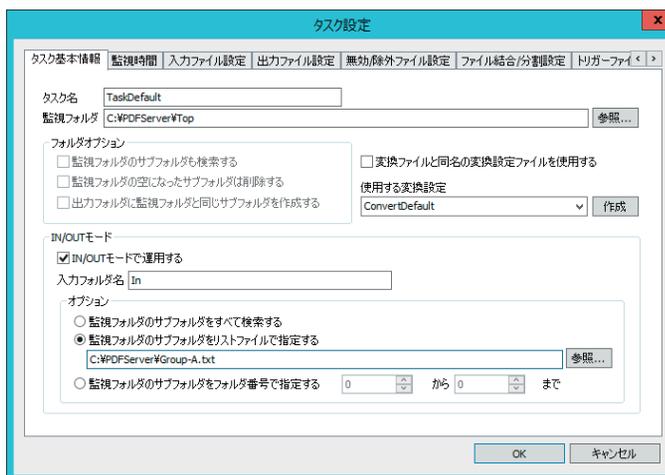
PDFServer1が処理を担当するユーザーフォルダのリストファイル

```
User00101
User00102
User00103
User00104
User00105
User00106
User00107
User00108
User00109
User00110
```

Group_B.txt

PDFServer2が処理を担当するユーザーフォルダのリストファイル

作成したリストファイルをそれぞれの PDFServerの IN/OUTモードで設定したタスクの「タスク基本情報」画面で指定します。



「タスク基本情報」画面について、詳しくは「[タスクの設定 - IN/OUTモード編 -](#)」を参照してください。

コマンドライン 実行機能

【プロフェッショナル/ コマンドライン版のみ】

MEMO：

コマンドラインで利用する変換設定ファイルの詳細な仕様は、公開しておりません。

コマンドライン実行機能をシステム組み込み等で利用するに当たり、変換設定ファイルを動的に変更する必要がある場合（例えば、出力する個々のPDFファイルに異なるパスワード、テキストウォーターマークを設定するような場合など）には、変換設定ファイルの情報が必要になります。そのような場合には、弊社サポートまでお問い合わせください。

コマンドライン実行機能とは

コマンドライン実行機能は、PDF Serverプロフェッショナル/コマンドライン版だけで利用できる機能で、PDFServerを通常のフォルダ監視型のアプリケーションとしてではなく、入力ファイル名などをパラメータとしたコマンドを実行することにより任意のタイミングでPDFファイル変換などの処理を実行出来るようにするものです。

重要：PDF Serverのコマンドライン実行機能は、PDF Serverのサービス「AH PDFServer V3 Service」が動作中に利用することができません。使用する際、サービス「AH PDFServer V3 Service」が停止している必要があります。

PDF Serverをコマンドで利用するには

コマンドライン実行機能は、PDF Serverのサービス「AH PDFServer V3 Service」が停止している時にコマンドプロンプトなどを使ってコマンド「PdfsvCmd300.exe」を実行します。

```
C:¥Users¥Administrator¥Documents>PdfsvCmd300 管理シート.xls -D フォント埋め込み
C:¥Program Files¥Antenna¥PDFServer¥PdfsvCmd300.exe
Antenna Houce PDF Server V3.5 Commandline Application
Copyright (c) 2009-2019 Antenna House, Inc.
[Input file] > 管理シート.xls
[Convert Setting] > ConvertDefault
[Driver Setting] > フォント埋め込み
[Output Path] > C:¥Users¥Administrator¥Documents¥管理シート.pdf
[Output Path] > C:¥Users¥Administrator¥Documents¥管理シート.tif
Conversion is completed successfully.
```

コマンドプロンプトからの実行例

重要：Office文書をPDFファイルに変換するなど、コマンドライン実行機能を用いてOffice/アプリケーション変換を行う場合には、必ずコマンドを実行するコンピュータにログインしなければなりません。

コマンドライン実行機能のマルチプロセス対応について

コマンドラインでマルチプロセス(同時実行) 出来る機能は以下の通りです。

処理の内容	オプション
PDFファイルの結合	-J 結合ファイルリスト
画像ファイルのPDFファイルへの変換	
PDFファイルの画像ファイルへの変換	-Ggdi 縮小率 -Gscale 解像度 -Gdpi 出力カラー -Gcolor 圧縮方法 -GComp
Microsoft Office文書(DOC/XLS/PPT) のPDFファイルへの変換 ^{※1}	

これらについて、並行して複数の処理を同時に行うことが出来ます。

変換対象となる文書／画像ファイルの内容(ファイルサイズや構成、解像度など)によっては、大量のリソース(特に CPUやメモリ)を必要とする場合があるため、以下の要件を複数のコマンドを同時に実行する場合の推奨条件とします：

- ・同時に稼働させるプロセス数を実行するコンピュータに搭載されているCPUのコア数より少なくする。
- ・稼働させる1プロセスあたり2GB以上の空きメモリ量を確保する。

なお、以下の処理についてはマルチプロセスに対応しておりません。

処理の内容	オプション
変換設定を指定した変換処理	-s 変換設定名
OCRを実行してからPDFに変換する	-O
PDFファイルをページ単位に独立したファイルに分割する	-Dv
アプリケーション変換を使ってPDFに変換する	-A
出力ファイル形式がテキストの場合	-Out TXT@C:¥TMP

MEMO：

PowerPoint / 一太郎は、複数の文書を同時に印刷することが出来ません。その為、複数のPowerPoint 文書 / 一太郎文書を同時にPDFファイルに変換しようとしても、1ファイルごと連続して変換されることとなります。

注意 マルチプロセス非対応のオプションが含まれるコマンドが実行されている最中に他のコマンドを実行した場合、実行エラーが生じ、そのコマンドは実行されません。

※1 VISIO文書は、アプリケーション変換であるためマルチプロセス変換には対応しておりません。

Microsoft Office文書のPDFファイルへのマルチプロセス変換についての注意

オフィス文書のPDFファイルへのマルチプロセス変換を正常に動作させるためには、同時に実行される処理の数以上、モデル名が「Antenna House PDF Driver 7.5」であるプリンタが、設定されている必要があります。

※ 製品インストール直後の状態には、1つだけしか設定されていませんので、この状態でオフィス文書のPDFファイルへのマルチプロセス変換を実行するといずれか1つの処理だけが成功するだけで、他の処理は失敗してしまいます。

プリンタの追加は、製品 CD-ROMの「SETUP」>「PrinterTool」フォルダに保存されているツール「AHPD7_AddDelete.exe」を用いて行います。ツールの使用方法の詳細については、付属のマニュアルを御覧ください。

コマンドの起動スイッチ／オプション

以下にコマンドの起動スイッチ／オプションを示します。起動スイッチ／オプションは、スイッチの後、パラメータを記述することで指定します。

```

PdfsvCmd300.exe 入力ファイル名
                  [-S 変換設定]
                  [-O]
                  [-D ドライバ設定]
                  [-Out 出力ファイル形式 @出力フォルダのパス]
                  [-A]
                  [-Ggdi]
                  [-Gscale 縮小率]
                  [-Gdpi 解像度]
                  [-Gcolor 出力カラー]
                  [-Gcomp 圧縮方法]
                  [-N]
                  [-Dv]
                  [-J 結合ファイル名1 結合ファイル2 ...]

```

スイッチ	パラメータ	動作
—	入力 ファイル名	PDF ファイルへの変換対象となるファイル名（拡張子を含む）を指定する。指定可能なファイル数は、1つのみ。同時にスイッチ [-J] が指定されている場合以外、このパラメータは必須である。（スイッチ [-J] が指定されている場合に入力ファイル名を指定するとエラーとなる。） スイッチ [-Out] を指定せずに入力ファイルとして PDF ファイルを指定した場合、何も行わずにコマンドを終了する。
-S /S	変換設定名	【マルチプロセス非対応】 変換に使用する PDFServer の変換設定名を指定する。未登録の変換設定名など、登録されていないものを指定した場合、エラーとなる。
-O /O	なし	【マルチプロセス非対応】 入力ファイルが画像、または PDF の場合、OCR 処理を実行する。なお、入力ファイルが、画像や PDF 以外の場合、このスイッチ [-O] は無視される（OCR 処理は行われない）。
-D /D	プリンタ ドライバの 印刷設定 ファイル名	入力ファイルが、Office 文書ファイルや画像以外のアプリケーション文書ファイルの場合、PDF 作成時のプリンタドライバの印刷設定を指定する。それ以外（画像ファイルなど）の場合、このスイッチは無視される。 なお、該当する印刷設定が存在しない場合、印刷設定「Default.printSetting3」を使用して PDF ファイルを作成する。 このスイッチ [-D] と同時にスイッチ [-S] が、指定されている場合、変換設定で指定されているプリンタドライバの印刷設定ではなく、このスイッチ [-D] で指定した印刷設定が使用される。

-Out	出力ファイル形式と出力先フォルダのパス	<p>【出力ファイル形式が TEXT の場合、マルチプロセス非対応】 出力するファイル形式と出力先フォルダのパスを「出力ファイル形式@出力フォルダ」として指定する。 出力フォルダの指定がない場合には、処理対象となるファイルが保存されているフォルダを出力先として処理する。 また、指定した出力フォルダが存在しない場合には、指定したフォルダを新たに作成する。 出力フォルダのパスに半角スペースが含まれる場合、「"出力ファイル形式@出力フォルダ"」のように出力するファイル形式と出力先フォルダのパスを指定する文字列をダブルクォーテーションで括る必要がある。</p> <table border="1" data-bbox="824 546 1414 799"> <thead> <tr> <th>ファイル形式</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>PDF</td> <td>PDF ファイル</td> </tr> <tr> <td>TIFF</td> <td>TIFF ファイル</td> </tr> <tr> <td>JPEG</td> <td>JPEG ファイル</td> </tr> <tr> <td>TXT</td> <td>TEXT ファイル</td> </tr> </tbody> </table> <p>設定例: <code>-Out TIFF@C:¥temp</code> TIFFファイルをフォルダ「<code>C:¥temp</code>」に出力</p>	ファイル形式	説明	PDF	PDF ファイル	TIFF	TIFF ファイル	JPEG	JPEG ファイル	TXT	TEXT ファイル
ファイル形式	説明											
PDF	PDF ファイル											
TIFF	TIFF ファイル											
JPEG	JPEG ファイル											
TXT	TEXT ファイル											
-A /A	なし	<p>【マルチプロセス非対応】 入力ファイルが画像ファイル以外の場合、入力ファイルの拡張子に関連付けられているアプリケーションによるアプリケーション変換を実行する。なお、入力ファイルが画像ファイルの場合には、アプリケーション変換することなくエラーとして処理される。</p>										
-Ggdi	なし	このスイッチを指定すると GDI +を利用して PDF ファイルから画像ファイルに変換する。										
-Gscale	倍率 (%)	出力される画像ファイルの縮小率を%単位で指定する。なお、設定可能な値の範囲は、1～100%の整数値。										
-Gdpi	解像度 (dpi)	出力される画像ファイルの解像度を dpi 単位で指定する。なお、指定可能な値の範囲は、50～1200dpi。										
-Gcolor	カラーモード	出力される画像ファイルのカラーモデルを番号で指定する。 <table border="1" data-bbox="824 1361 1414 1717"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>カラーモデル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>入力ファイルと同じカラーモデルの画像として出力します。</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>白黒2値画像として出力します。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>256階調グレースケール画像として出力します。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>256色インデックスカラー画像として出力します。</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">※ TIFF ファイル出力時のみ有効</p>	番号	カラーモデル	0	入力ファイルと同じカラーモデルの画像として出力します。	1	白黒2値画像として出力します。	2	256階調グレースケール画像として出力します。	3	256色インデックスカラー画像として出力します。
番号	カラーモデル											
0	入力ファイルと同じカラーモデルの画像として出力します。											
1	白黒2値画像として出力します。											
2	256階調グレースケール画像として出力します。											
3	256色インデックスカラー画像として出力します。											

-Gcomp	圧縮方法	<p>出力される TIFF ファイルの圧縮方法を番号で指定します。</p> <table border="1" data-bbox="862 231 1448 587"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>圧縮方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>圧縮しない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>LZW (ZLIB) 圧縮</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>JPEG 圧縮</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>DEFLATE 圧縮</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ランレングス圧縮</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>CCITT Group4 (G4 FAX)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>CCITT Group3 (G3 FAX)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ TIFF ファイル出力時のみ有効</p>	番号	圧縮方法	0	圧縮しない	1	LZW (ZLIB) 圧縮	2	JPEG 圧縮	3	DEFLATE 圧縮	4	ランレングス圧縮	5	CCITT Group4 (G4 FAX)	6	CCITT Group3 (G3 FAX)
番号	圧縮方法																	
0	圧縮しない																	
1	LZW (ZLIB) 圧縮																	
2	JPEG 圧縮																	
3	DEFLATE 圧縮																	
4	ランレングス圧縮																	
5	CCITT Group4 (G4 FAX)																	
6	CCITT Group3 (G3 FAX)																	
-Gqual	品質	出力される JPEG ファイルの品質を%単位で指定します。なお、このオプションは JPEG ファイル出力時のみ有効です。																
-N /N	なし	何も表示することなくコマンドを実行する。 なお、このスイッチ [-N] を指定して実行した場合に設定したパラメータにミスなどがあっても、コマンドヘルプを表示しない。																
-Dv	なし	<p>【マルチプロセス非対応】</p> <p>入力ファイルが、PDF ファイルの場合、ページ毎に独立したファイルに分割して出力する。 このスイッチと併用可能なスイッチは、[-N]、[-Out] のみで、それ以外のスイッチとの併用はできない。 また、出力ファイルとして PDF 以外を指定した [-Out] スイッチは、無視される。</p>																
-J /J	半角スペースで区切った結合対象 PDF ファイルリスト、または結合設定ファイル	<p>このスイッチに続いて指定された複数の PDF ファイル(拡張子必須)、もしくは結合対象となる PDF ファイルのフルパスを1行に1つ記録したテキストファイル「結合設定ファイル」を先頭から順に結合し、最初のファイルの名前の先頭に文字列「cmb_」を付加した名前の PDF ファイルとして出力する。 また、出力先フォルダに出力ファイルと同名のファイルが存在する場合には、上書き保存する。 パラメータとして指定可能なのは、PDF ファイルのみで、これ以外の種類のファイルや指定した PDF ファイルが存在しない場合や複数の PDF ファイルが指定されていない場合、エラーとなる。</p>																

注意：・無効な起動スイッチ／オプションを指定してコマンドを実行した場合、コマンドヘルプを出力します。

```
C:\Program Files\Antenna\PDFServer\PdfsvCmd300.exe
PDF Server V3.5 Commandline Application
Copyright (C) 2009-2019 Antenna House, Inc.
Usage : PdfsvCmd300 [file] [-options]
file          : Want to convert to PDF filename.
-S setting-name : Convert setting-name used in the conversion.
-O            : In the case of OCR the image file to run.
-D printer-setting : Driver set to use the setting-name.
-OUT type@path  : File output folder after conversion.
                pdf@ /PDF file.
                tiff@ / TIFF file.
                jpeg@ / JPEG file.
                text@ / TEXT file.
-A            : Application to convert the input file.
-Gadi         : Use GDI+ to convert the image.
-Gscale scale  : [1-100]%. Scale of the output image.
-Gdpi resolution: [50-1200]dpi. The resolution of the outp@ut image.
-Gcolor color-mode : [0-3]. Color mode of the output image
                  0 / Keep Original
                  1 / Monochrome
                  2 / GrayScale
                  3 / 256 Colors
-Gcomp compress-type : [0-6]. Compression of TIFF ouyput
                  0 / No Compress
                  1 / LZW(ZLIB)
                  2 / JPEG
                  3 / DEFLATE
                  4 / RunLength
                  5 / CCITT Group 4
                  6 / CCITT Gropu 3
-Gqual jpeg-quality : [1-100]%. Quality of the JPEG output.
-N               : Do not print information on the screen at run time.
-Dv             : Split the PDF files.
-J binding-file1 binding-file2 [binding-file3] ...
                : Combining multiple PDF files.
```

コマンドヘルプ表示例

- ・スイッチは、大文字小文字を区別しません。
- ・入力ファイルのパスなど、パラメータ文字列に半角スペースが含まれる場合には、パラメータ文字列をダブルクォーテーション(" ")で括る必要があります。

コマンド終了時の状態の取得

コマンド実行後、終了時の状態を示すエラーコードが、環境変数「%ERRORLEVEL%」に保存されます。変数の値は、コマンドプロンプトで「echo %ERRORLEVEL%」を実行することで確認できます。

以下にコマンド実行後の状態コードと表示されるメッセージとその内容を示します。

コード	メッセージとその内容
0	Conversion is completed successfully. 正常に終了しました。
1	コマンドヘルプ（前ページ参照）を表示 パラメータに誤りがあります。
2	PDF file for input, does nothing. 入力ファイルが PDF ファイルです。何も行いません。
101	The conversion failed. PDF 変換に失敗しました。
102	Input file was not found. 指定された入力ファイルが見つかりません。
103	The input file type can not be converted. 指定された入力ファイルは変換できない形式のファイルです。
104	Security is taking the input PDF file. 指定された PDF ファイルにセキュリティが設定されているため処理できません。
105	Enough to combine files. 結合するには、複数のファイルを指定してください。
106	Files are found in the combined file. 結合対象ファイルが見つかりません。
107	Both have been designated as a text file or PDF file or PDF file in a non-binding. 結合ファイルとして PDF ファイル以外か、PDF ファイルと結合設定ファイル（テキストファイル）が指定されています。
108	The driver does not respond to time-out. PDF ドライバが応答しません。（タイムアウトしました）
109	Could not find the convert settings. 指定された変換設定が見つかりません。
110	Took advantage of the optional features supported. 未対応のオプションを指定しました。
201	I can not convert the application, or failed to convert. アプリケーション変換ができないか、変換に失敗しました。
202	PDF Driver is not installed. PDF ドライバがインストールされていません。
901	License file not found. ライセンスファイルが見つかりません。
902	Trial expired on date YYYY/MM/DD. 評価版の有効期限が切れました。
903	Expires to maintain.(YYYY/MM/DD) 保守期限が終了しています。
904	License file is abnormal. ライセンスファイルが異常です。

コード	メッセージとその内容
905	To PDF Server service is running. PDFServer サービス (AH PDFServer) が動作しています。
906	This edition is not available. このコマンドは、使用しているエディションでは動作しません。

注意：まれに変換に失敗した時に上の一覧表にないコード(負の値や非常に大きい数)が出力される場合があります。この時得られる値は、PDF変換の失敗(コード:101)の原因を示すサブコードを示します。PDF変換の失敗の原因には、数多くの事象があるため通常はコード「101」で代表しておりますが、特に異常な事象が生じた場合、サブコードを返す仕様となっております。

このようなエラーコードが出力された場合には、「101:PDF変換の失敗」が発生したものと認識して下さい。また、サポート窓口にお問い合わせ頂く際には、このサブコードをお知らせ下さい。

PDF Server V3.5 コマンド GUI 【プロフェッショナル/ コマンドライン版のみ】

PDF Server V3.5 コマンド GUI

コマンドプログラムと関係する「PDF Server 設定」とコマンドラインプログラムの動作テストを GUI(グラフィック・ユーザー・インターフェイス) で簡単に行うことができる Windowsプログラムです。

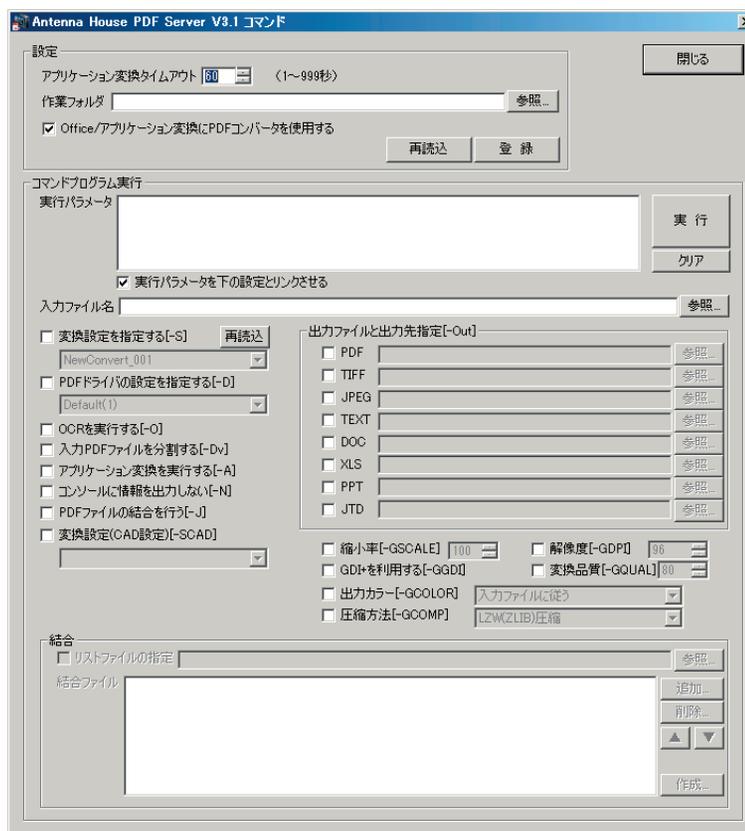
PDF Server V3.5 コマンド GUIを起動する

次の方法で PDF Server V3.5 コマンド GUIを起動します。

1. Windowsの「スタート」メニューを使用する。
「スタート」→「すべてのプログラム」→「Antenna House PDF Server V3.5」→「PDFServer V3.5 コマンド」
2. 【コマンドライン版のみ】
デスクトップ上のショートカットアイコン「PDFServer V3.5 コマンド」をダブルクリックする。

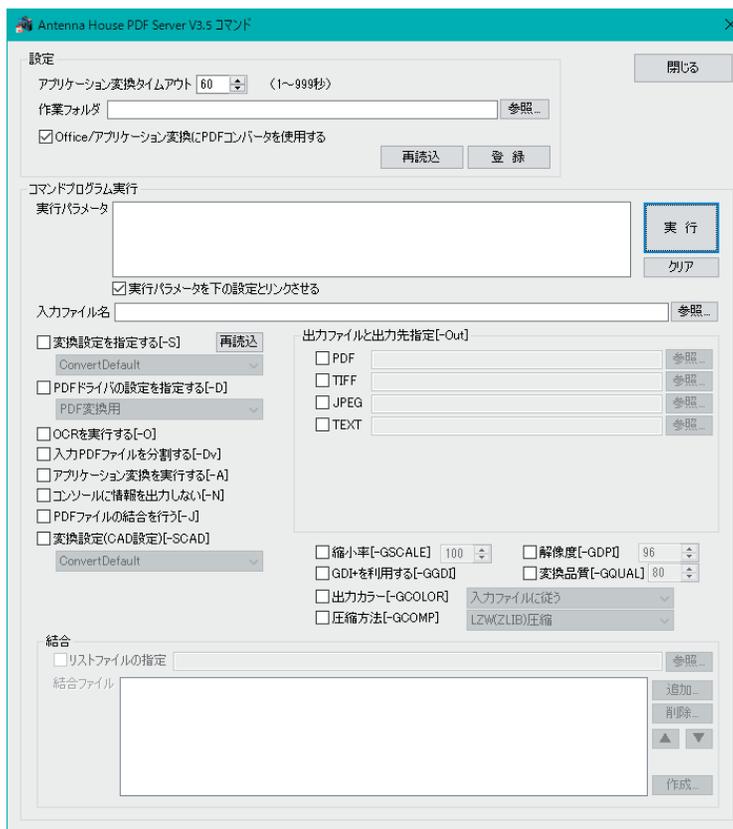


「PDFServer V3.5コマンド」のショートカットアイコン



「Antenna House PDF Server V3.5 コマンド」ウィンドウ

Antenna House PDF Server V3.5 コマンド ウィンドウについて



「Antenna House PDF Server V3.5 コマンド」ウィンドウ

設定 このエリアを用いて、PDF Serverの共通設定情報「PDF Server 設定」のコマンドプログラムに関連のある項目のみについての設定を行います。

アプリケーション変換タイムアウト

..... アプリケーション変換の際の印刷処理に関わるタイムアウト時間を秒単位で設定します。

作業フォルダ PDF Serverが、文書の変換等の作業を行う際に作成する中間ファイルなどを保存するフォルダのフルパスを指定します。

Office/アプリケーション変換にPDFコンバータを使用する

..... このオプションを有効にすると MS-Office (Excel/PowerPoint/Word) 文書ファイルの PDF変換とアプリケーション文書の PDF変換に「PDFコンバータ」を使用します。「PDFコンバータ」が常駐していない状態でこのオプションを有効にすると MS-Office文書変換/アプリケーション文書変換に失敗しますので、利用する際にはスタートメニューなどから「PDFコンバータ」を起動するなどして、「PDFコンバータ」を常駐させておく必要があります。

再読込 PDF Serverの環境設定情報「PDF Server 設定」を改めて読み込み直します。

登録 「設定」エリアに現在入力されている内容を PDF Serverの環境設定情報「PDF Server 設定」に保存します。

コマンドプログラム実行

.....このエリアを用いて、パラメータを設定して、コマンドプログラムを実行します。

実行パラメータこのフィールドにコマンドスイッチとそのパラメータを入力します。

「実行」ボタン「実行パラメータ」フィールドの内容を引数としてコマンドラインを実行します。実行すると「AH PDF Server V3.5 コマンド実行コンソール」ウィンドウが開き、処理状況が表示されます。処理が終了すると戻り値とコンソール出力情報が出力されます。また、このウィンドウは処理の実行中に閉じることが出来ません。



「AH PDF Server V3.5 コマンド実行コンソール」ウィンドウ

「クリア」ボタン画面下部の設定項目の設定内容を初期化します。オプション「実行パラメータを下の設定とリンクさせる」が選択されている場合には、「実行パラメータ」フィールドの内容も初期化されます。

実行パラメータを下の設定とリンクさせる

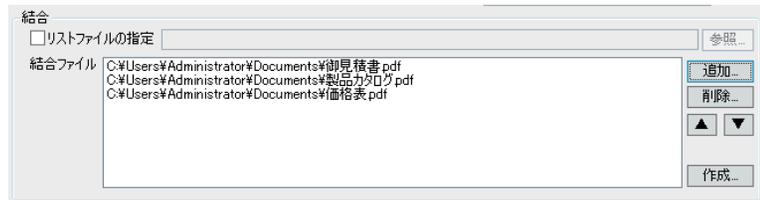
.....このオプションを有効にすると画面下部の各種設定項目フィールドの設定内容に合わせて「実行パラメータ」フィールド内の対応するパラメータの値が更新されます。このオプションが無効な場合には、設定項目の設定内容を変更しても、「実行パラメータ」フィールドの内容には反映されません。

入力ファイル名処理対象となる入力ファイルのフルパス

以下に設定項目とそれに対応するコマンドスイッチについて簡単な説明を示します。各項目の設定内容の詳細については、「PDF Sever をコマンドで利用するには」の項を参照して下さい。

設定項目	対応するコマンドスイッチ	概要
変換設定を指定する	-S	変換に用いる「PDF Server」の「変換設定」を指定します。
PDFドライバの設定を指定する	-D	入力ファイルが Office文書や画像以外のアプリケーション文書ファイルの場合に PDF変換に用いる「PDF Driver」の「印刷設定」を指定します。
OCRを実行する	-O	入力ファイルが画像、または PDFファイルの場合に OCR処理を実行します。
入力 PDFファイルを分割する	-Dv	入力ファイルが PDFファイルの場合、ページごとに独立した PDFファイルに分割して出力します。 このオプションを選択した場合、「コンソールに情報を出力しない」以外の設定項目は無効となります。
アプリケーション変換を実行する	-A	入力ファイルが画像ファイル以外の場合、入力ファイルの拡張子に関連付けられているアプリケーションによるアプリケーション変換を実行します。
コンソールに情報を出力しない	-N	画面に何も表示することなくコマンドを実行します。
PDFファイルの結合を行う	-J	「結合」エリアでの設定に従って、複数の PDFファイルを結合します。 このオプションを選択した場合、「コンソールに情報を出力しない」以外の設定項目は無効となります。
出力ファイルと出力先指定	-Out	このエリアで出力するファイル形式と出力先フォルダのフルパスを指定します。
縮小率	-Gscale	出力される画像ファイルの縮小率を%単位で指定します。
解像度	-Gdpi	出力される画像の解像度を dpi単位で指定します。
GDI+を利用する	-Ggdi	このオプションを有効にすると GDI+を利用して PDFファイルから画像ファイルに変換します。
変換品質	-Gqual	出力される JPEGファイルの品質を%単位で指定します。
出力カラー	-Gcolor	TIFFファイルを出力する際のカラーモデルを指定します。
圧縮方法	-Gcomp	TIFFファイルを出力する際の圧縮方法を指定します。

結合エリア	—	このエリアで、結合対象となる PDF ファイルの指定、もしくは結合対象となる PDF ファイルを記録した「結合設定ファイル」を作成し、指定します。
-------	---	---



リストファイルを指定...このオプションを有効にして、結合対象ファイルを記録したテキストファイル「結合設定ファイル」のフルパスを指定します。このフィールド右の「参照」ボタンをクリックするとリストファイルを選択するために「開く」ダイアログを表示します。

結合ファイルリスト結合対象となる PDF ファイルをリスト右の追加／削除ボタンを用いてこのリストに登録し、▲▼ボタンを使って上下の順番を変更します。リストに登録されている PDF ファイルは上から順に結合されます。

作成結合ファイルリストに登録されている内容を「結合設定ファイル」として保存するために「名前をつけて保存」ダイアログを表示します。保存すると同時に作成した「結合設定ファイル」をリストファイルとして指定することも可能です。

PDF Server の 共通設定

PDF Server V3 コントロールセンターを起動した直後のタスクの状態や、エラーが発生した際の報告メールの送信など、PDF Serverの管理／運用に関わる設定を行うことができます。

PDF Serverの設定は、PDF Server V3 コントロールセンターウィンドウの「設定 ...」ボタンをクリックして表示される「PDF Server 設定」ダイアログを用いて行います。なお、この画面で設定した情報は、PDF Serverが保存されているフォルダ(インストール時に変更していない場合、「C:\Program Files\Antenna House\PDF Server V3」にあるファイル「PDFServer_v3.ini」)に保存されます。

「PDF Server 設定」ダイアログ

- 起動時のタスク状態 PDF Server V3 コントロールセンター起動時のタスクの状態を設定します。
- タスク設定に従う 前回 PDF Server V3 コントロールセンターを終了させた時のタスクの状態を設定します。
- 全て起動する PDF Server V3 コントロールセンターを起動すると同時に登録されているすべてのタスクを開始します。
- 全て停止する 登録されているすべてのタスクを停止した状態で PDF Server V3 コントロールセンターを起動します。このオプションを選択した場合、管理者がコントロールセンターウィンドウを用い、手動でタスクを開始する必要があります。
- タイムアウト アプリケーション文書ファイルの PDF変換は、対象となる文書ファイルを開き、製品に付属の PDF生成仮想プリンタドライバ「Antenna House PDF Driver 7.5」を用いて印刷することで実現しています。この印刷処理を実行する際の処理に非常に時間がかかるなどの理由により、PDF Serverの処理が停滞することがあります。これを避けるために、アプリケーション文書変換のタイムアウト時間を秒単位で設定します。設定可能な値の範囲は、1～65535で、初期状態では、60秒に設定されています。
- ログ表示の最大行数 PDF Server V3 コントロールセンターのログペインに表示する最新ログの最大行数を指定します。設定可能な値の範囲は、50～999で、初期状態には、100行に設定されています。
- 作業フォルダ PDF Server が、文書の変換等の作業を行う際に作成する中間ファイルなどを保存するフォルダを指定します。

Office/アプリケーション変換に PDFコンバータを使用する

MS-Office/アプリケーション文書ファイルの PDFファイルへの変換に「PDFコンバータ」を使用します。なお、「PDFコンバータ」が常駐していない状態でこのオプションを有効にすると MS-Office/アプリケーション変換に失敗します。（このオプションが無効の場合、「PDFコンバータ」を用いずに MS-Office/アプリケーション変換を行います。）このオプションは、PDF Server V3.5のすべてのエディションで利用できますが、サービスを利用したフォルダ監視を行う場合にこのオプションが無効だと、別途 MS-Officeの DCOMやサービスのアカウントについての設定が必要となり、アプリケーション変換がうまくできなくなります。これらについての十分な知識をお持ちでない場合には、このオプションを有効にすることを強くお勧めします。

システム監視設定

決められた時刻にファイルを削除する

PDF Serverを利用するユーザが、PDF Server運用中に使用／作成するファイルをサーバから削除／移動しない限りサーバ上のファイルは増え続け、最後にはディスクの空き容量不足を生じることになります。このオプションは、毎日指定した時刻に登録されているすべてのタスクについて、監視フォルダ／出力フォルダに存在する全ファイルをゴミ箱に移動することなく削除します。

ログファイルを削除する

PDF Serverは監視動作中に、その処理の内容に応じたログファイルをインストールフォルダにある「log」フォルダに出力します。初期状態では、ログファイルが自動的に削除されないため、利用している環境によってはディスクの空き容量不足を生じる場合があります。このオプションは、指定した間隔で出力されたログファイルをゴミ箱に移動することなく削除します。設定可能な値の範囲は、1～120日で、初期状態では、7日に設定されています。

- ※ ログ出力機能は、PDF Serverの監視動作専用設計されています。ログは、コマンドラインで動作させる際にも出力されますが、その内容の一部が欠けた状態で記録されるなど、システムの状態によっては内容が不正確な場合があります。

システムが稼働しているかを監視する

PDF Serverサービスの動作を監視し、指定した時間(分)その状況に変化がない場合、システムが停止しているものと見なしログに記録します。また、同時にエラーメール送信設定がなされている場合には、管理者宛にメールを送信します。設定可能な値の範囲は、1～30で、初期状態では、1分に設定されています。

変換エラーを監視する

指定した回数連続して変換エラーを生じた場合、異常が発生しているものと見なし、これをログに記録します。また、同時にエラーメール送信設定がなされている場合には、管理者宛にメールを送信します。設定可能な値の範囲は、1～50で、初期状態では、10回に設定されています。

エラーメール送信設定 システムに関するエラーや、Office文書を変換する際にPDFConverterにエラーが発生した場合にログに記録すると同時に管理者宛にエラー報告メールを送信することができます。エラーメールを送信する場合には、チェックボックス「エラー発生時に管理者宛にメールを送信する」にチェックマークを付けます。なお、初期状態では、このチェックボックスにチェックマークは付いていません。

送信メールサーバ(SMTP)アドレスとポート番号

メールの送信に使用する SMTPサーバのアドレス、またはホスト名と通信に使用するポート番号をそれぞれのフィールドに入力します。ポート番号については、初期状態で、“25”に設定されています。

メール送信元(From)アドレス

メール送信元のメールアドレスを入力します。

メール送信先(To)アドレス

メール送信先のメールアドレスを入力します。

メール送信時に認証が必要

メール送信の際に送信メールサーバ(SMTP)との認証が必要な場合にこのチェックボックスにチェックマークを付けます。

“POP Before SMTP”を使用する

メール送信に使用する SMTPサーバの認証方法としてPOP Before SMTPを使用している場合にこのチェックボックスにチェックマークを付けます。

受信メールサーバ(POP)アドレスとポート番号

メール送信に使用する SMTPサーバの認証方法としてPOP Before SMTPを使用している場合に使用しているメール受信(POP)サーバのアドレスとポート番号をそれぞれのフィールドに入力します。ポート番号については、初期状態で、“110”に設定されています。

ユーザー名 POPサーバに接続するためのユーザー名を入力します。

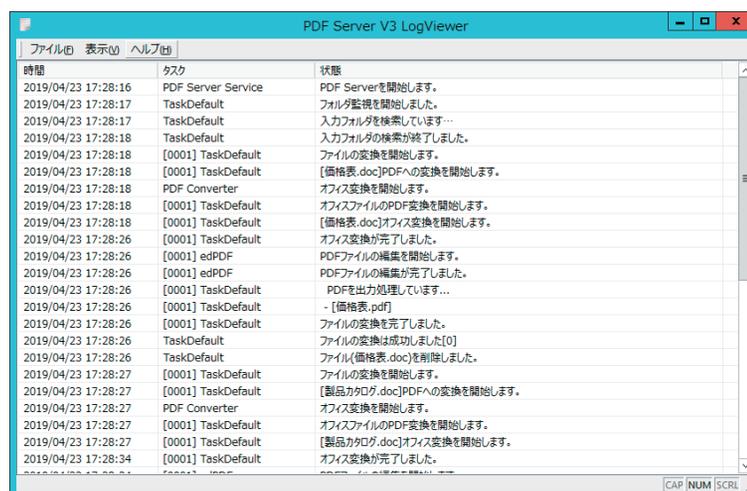
パスワード POPサーバに接続するためのパスワードを入力します。

PDF Server の ログ

PDF Serverでは、トラブルが発生した際の原因究明する際の情報とするため、その動作についてのイベント情報をログファイルとして自動的に記録します。

次の手順に従って、ログを表示します。

1. [スタート] メニュー → [すべてのプログラム] → [Antenna House PDF Server V3.5] → [ログビューア] を選択して、「PDF Server V3 LogViewer」ウィンドウを表示します。ウィンドウには、現在作業中のタスクについての最新ログ(最大999行)が表示されます。



時間..... イベントが発生した日付/時刻を表示します。

タスク..... イベントが発生したタスク名を表示します。

状態..... 発生したイベントの状態/内容を表示します。

PDFコンバーター PDFコンバーターについて



PDFコンバーターの
ショートカットアイコン

PDFコンバーター(PDFConverter3.exe)は、その動作中にスクリーン上に表示されるダイアログへの自動応答機能を有した Excel/Wordなどの Microsoft Office文書や一太郎などのアプリケーション文書ファイルを PDFファイルに変換する際に使用する常駐ソフトウェアです。Microsoft Office文書や文書ファイルを変換する際に動作している必要があります。そのため、製品をインストールするとコンピュータにログオンする際に自動的に起動するよう、そのショートカットファイルが「スタートアップ」フォルダに登録されます。

PDFコンバーターの起動方法の変更

一般の環境では、初期設定のまま使用しても問題ありませんが、以下の状況下では、PDFコンバーターの起動方法を変更する必要があります：

1. Microsoft Office文書/アプリケーション文書のPDF変換を行わない場合
2. PDF Serverを動作させているコンピュータをリモートデスクトップを使って操作する場合

ここでは、それぞれの状況に応じた PDFコンバーターの起動方法の変更方法について説明します。

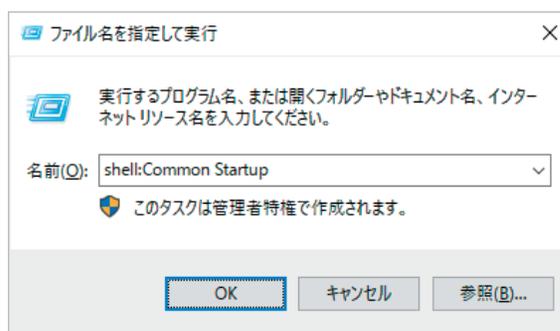
オフィス/アプリケーション文書のPDF変換を行わない場合

PDFコンバーターは Microsoft Officeや各種アプリケーションの文書ファイルを PDFファイルに変換するための常駐ソフトウェアです。従って、PDF Serverを用いてオフィス /アプリケーション変換を行わなければ、PDFコンバーターを動作させる必要はありません。スタートアップフォルダからショートカットファイルを削除するだけで次回から自動で起動する事はなくなります。

※ PDF Serverのインストーラは、インストールの際にPDFコンバーターのショートカットファイルを全ユーザー共通の「スタートアップ」フォルダ(%ProgramData%\Microsoft\Windows\Start Menu\Programs\Startup)に作成します。

PDFコンバーターのショートカットファイルをスタートアップから削除するには、

1. Windowキー+Rを押して、「ファイル名を指定して実行」画面を表示します。
2. 表示される「ファイル名を指定して実行」画面の「名前」フィールドにコマンド「shell:common startup」と入力した後、「OK」ボタンをクリックします。



※ 現在のユーザーの「スタートアップ」フォルダを開く場合には、コマンド「shell:startup」と入力します。

3. 全ユーザー共通の「スタートアップ」フォルダが開きます。
このフォルダ内の PDFコンバーターのショートカットファイルを削除します。

※ PDFコンバーターを利用する場合には、スタートメニューから、「A」→「Antenna House PDF Server V3.5」→「PDFコンバーター」を選択してこれを起動します。

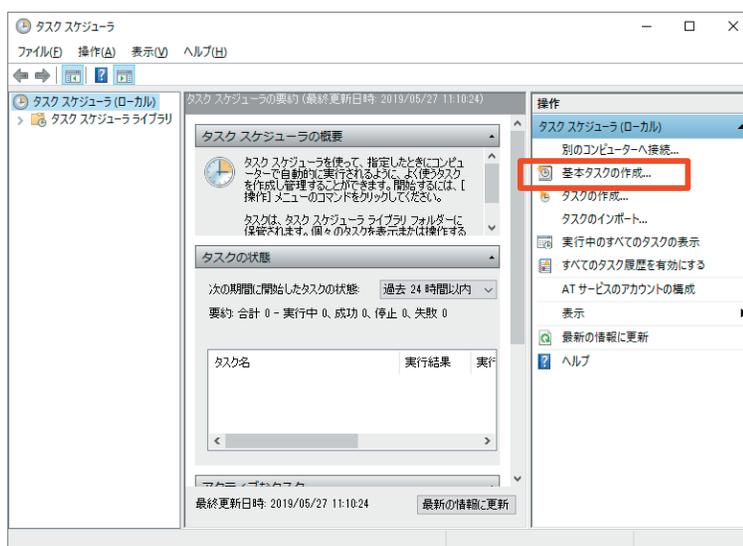
リモートデスクトップを利用して操作する場合

PDFコンバーターはその仕様上、コンピュータ上で同時に1つしか動作することが出来ません(多重起動することができません)。直接コンソールを使って操作する際と異なり、リモートデスクトップを使って PDF Serverを動作させているコンピュータを操作する場合に問題となります。リモートデスクトップを使ってログオンするとそのコンピュータ上で仮想デスクトップが起動しますが、その際スタートアップフォルダに登録されているアプリケーションが起動します。先に述べたように PDFコンバーターは、多重起動が出来ない仕組みとなっているため、しばらくすると仮想デスクトップ上の PDFコンバーターは終了します。しかしながら、これが終了するまでの間、PDFコンバーターは正しく機能できないため、この間 PDF Serverは、オフィス／アプリケーション変換を正常に行うことができません。

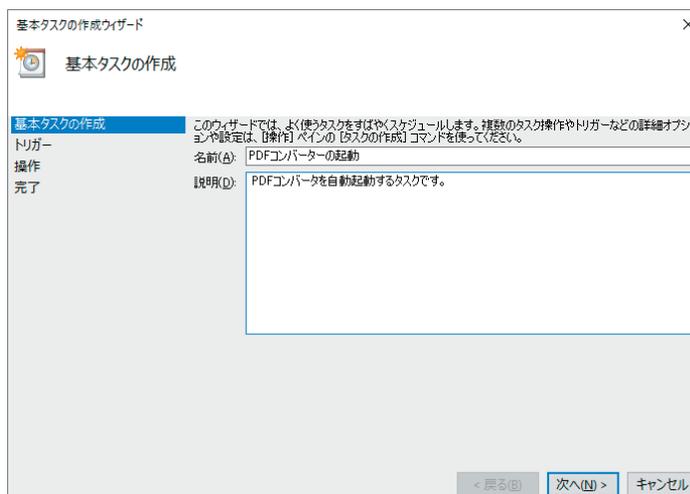
この問題を回避するには、PDFコンバーターを「タスク スケジューラ(タスク)」に登録する事で解決します。以下に Windows Server 2019の場合を例にその方法を説明します。

PDFコンバーターをタスクスケジューラに登録するには

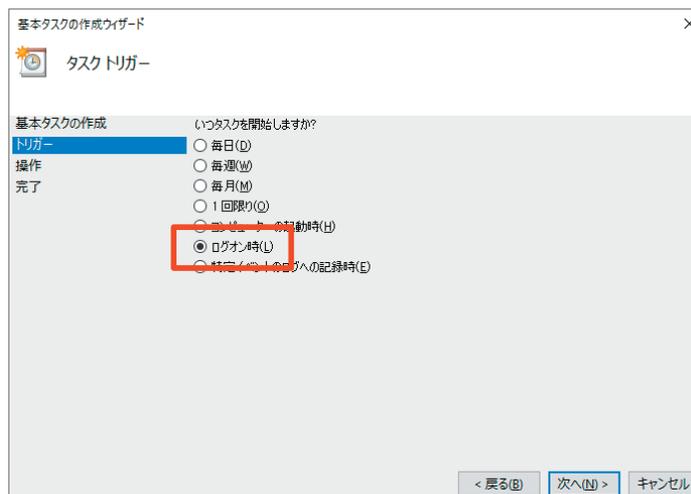
1. 前項を参考に「スタートアップ」フォルダからPDFコンバーターのショートカットファイルを削除しておきます。
2. 以下に示す何れかの方法を用いて「タスクスケジューラ」を起動します。
 - ・「サーバーマネージャ」の「ツール」メニューから「タスクスケジューラ」を選択する。
 - ・Windows キー+ R を押下して表示される「ファイル名を指定して実行」画面の「名前」フィールドに「taskschd.msc」と入力した後、「OK」ボタンをクリックする。
 - ・「スタート」にピン止めされている「Windows 管理ツール」をクリックして表示される画面の「タスクスケジューラ」アイコンをダブルクリックする
3. タスクスケジューラウィンドウ右端の操作ペインにある「基本タスクの作成…」をクリックし、「基本タスクの作成ウィザード」ダイアログを表示します。



4. 「基本タスクの作成」画面上のフィールド「名前」、「説明」のそれぞれに分かりやすいユニークな任意の文字列を入力します。入力後、「次へ」ボタンをクリックします。

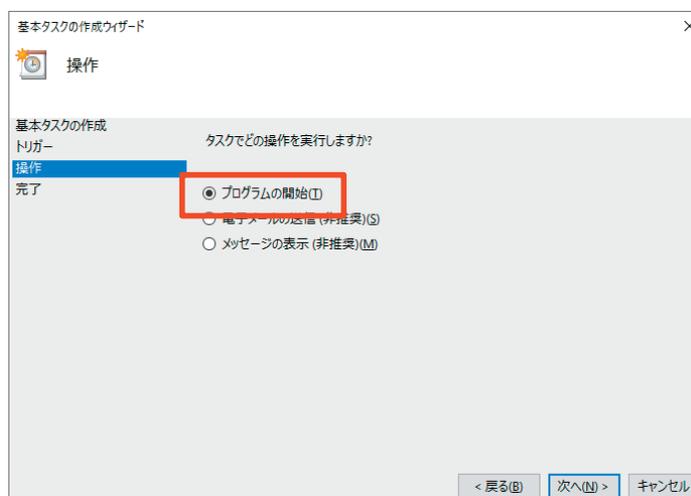


5. 「タスクトリガー」画面が表示されます。



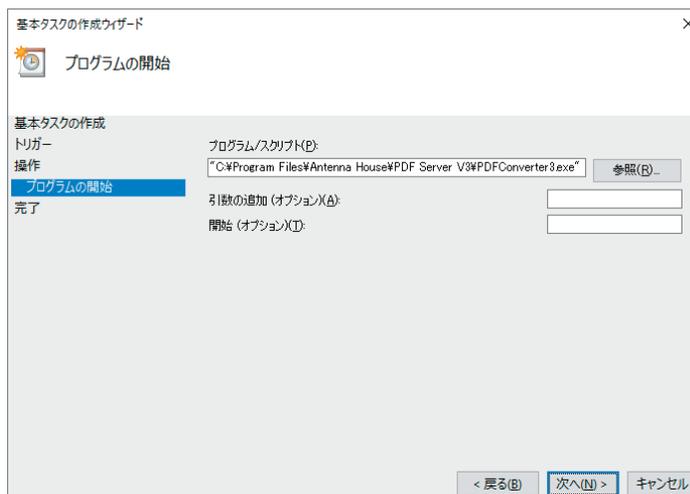
「ログオン時」を選択して、「次へ」ボタンをクリックします。

6. 「操作」画面が表示されます。



「プログラムの開始」を選択して、「次へ」ボタンをクリックします。

7. 「プログラムの開始」画面が表示されます。

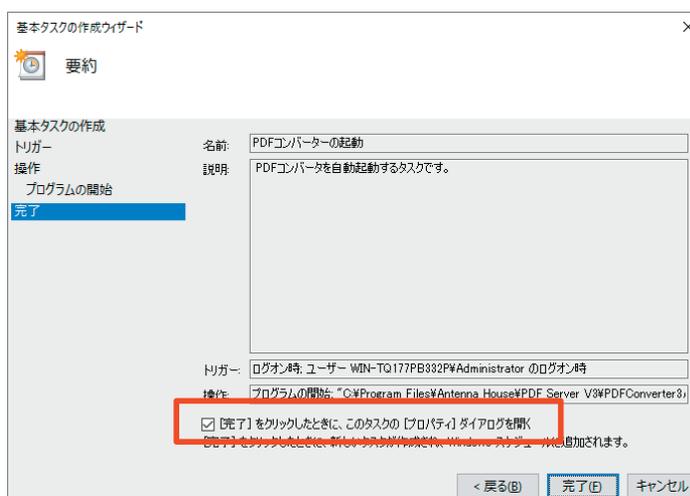


「プログラム/スクリプト」フィールドに直接フルパスを入力するか、フィールド右の「参照」ボタンをクリックして表示される「開く」ダイアログを使って、PDF コンバーターを指定した後、「次へ」ボタンをクリックします。「引数の追加」など他のオプション項目フィールドには何も入力しません。PDF コンバーターのパスはインストール時に変更していなければ以下の通りです。

C:\Program Files\Antenna House\PDF Server V3\PdfConverter3.exe

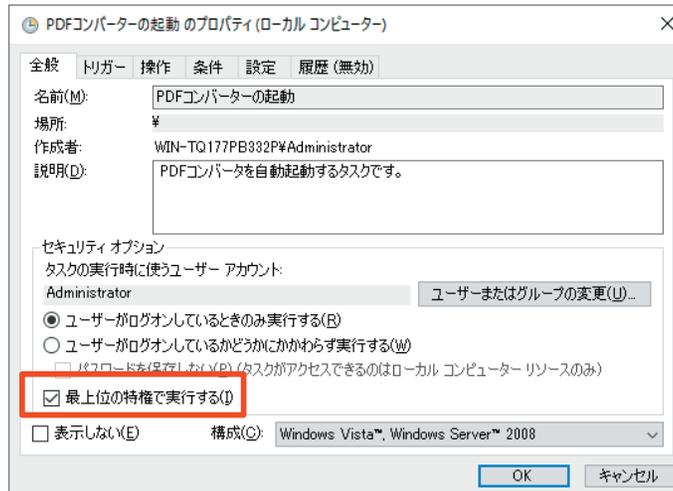
注意：パス名にスペース文字が含まれているため、PDFコンバーターのパスを直接フィールドに入力する時にはダブルクォーテーション(“)で囲む必要があります。(「参照」ボタンをクリックして表示される「開く」ダイアログを用いて選択した場合にはダブルクォーテーションが自動的に付加されます。)

8. 「概要」画面が表示されます。



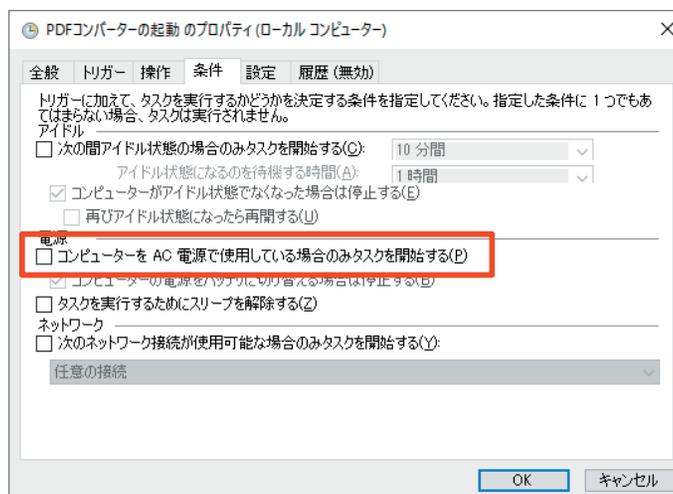
チェックボックス「完了] をクリックしたときに、このタスクの [プロパティ] ダイアログを開く」にチェックマークを付けて、「完了」ボタンをクリックします。

9. 作成したタスクのプロパティ画面が表示されます。

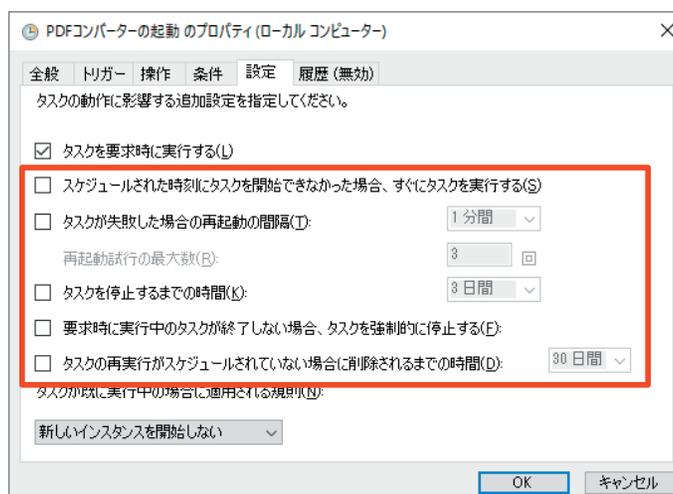


画面中のチェックボックス「最上位の特権で実行する」にチェックを入れます。

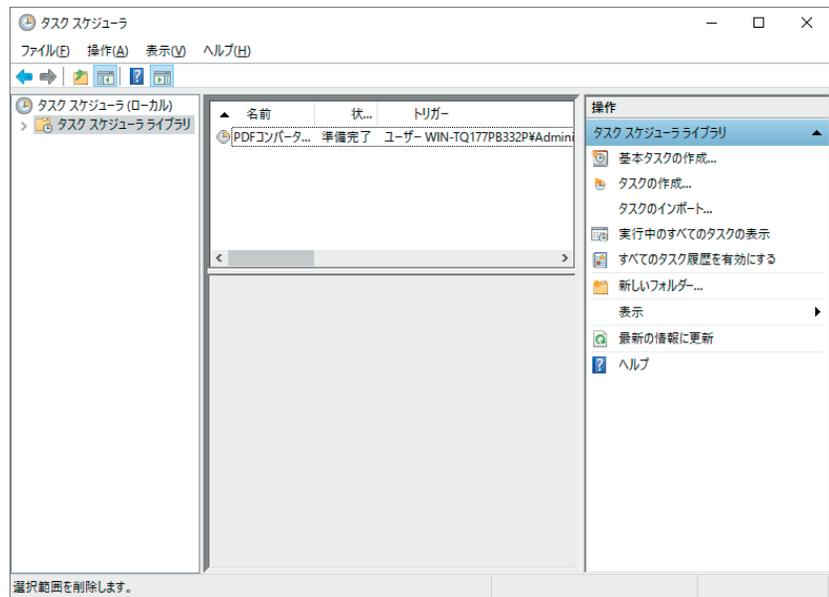
10. 「条件」タブ画面を表示し、チェックボックス「コンピューターを AC 電源で使っている場合のみタスクを開始する」のチェックマークを外します。



11. 「設定」タブ画面を表示し、チェックボックス「タスクを要求時に実行する」以外の項目のチェックマークを外した後、「OK」ボタンをクリックします。



12. タスクスケジューラーウィンドウ左端のペイン内の「タスク スケジューラ ライブラリ」をクリックして開き、中央のペインに作成したタスクが表示されていることを確認して、作業は終了です。



注意 まだ「スタートアップ」フォルダから、PDF コンバーターのショートカットファイルを削除していない場合には、忘れずに削除して下さい。

ダイアログ自動応答

PDF Server が、オフィス / アプリケーション文書の PDF ファイルへの変換処理を行っているとき、変換対象となる文書ファイルに関連付けられているアプリケーションによっては応答が必要なダイアログやメッセージが表示される場合があります。

通常、このような状態に陥ると表示されたダイアログに応答があるまで次の処理に進むことができないため、処理対象がアプリケーション文書の場合にはタイムアウトが発生して処理に失敗し、オフィス文書の場合にはダイアログに応答があるまで待機し、処理が停滞します。

PDF Server ではタスク実行時に表示されるダイアログに対して、あらかじめ設定したボタンを自動的にクリックして応答することで、タスク処理を継続させることができます。

注意： アプリケーションが表示するダイアログによっては、ダイアログ自動応答機能によって応答できないものがあります。

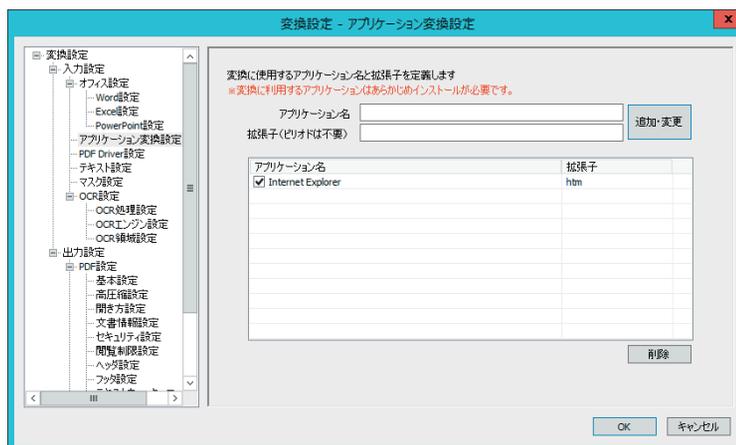
HTMLファイルをPDFファイルに変換するには

ここでは、HTML ファイル（拡張子：HTM）を PDF ファイルに変換する場合を例にダイアログ自動応答機能の利用方法を説明します。

※ ここでは、拡張子：HTM のファイルはアプリケーション「Internet Explorer」に関連付けられているものとして説明しています。「Internet Explorer」以外のアプリケーションに関連付けられている場合、以下の説明が適合しない場合があります。

ダイアログ自動応答への登録方法

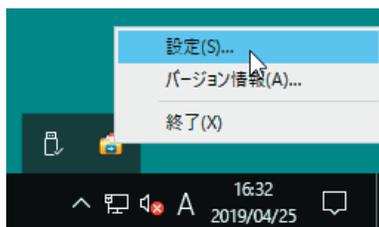
1. タスクに割り当てる変換設定の「**アプリケーション変換設定**」について、変換対象となる HTML ファイルの拡張子「HTM」を登録しておきます。



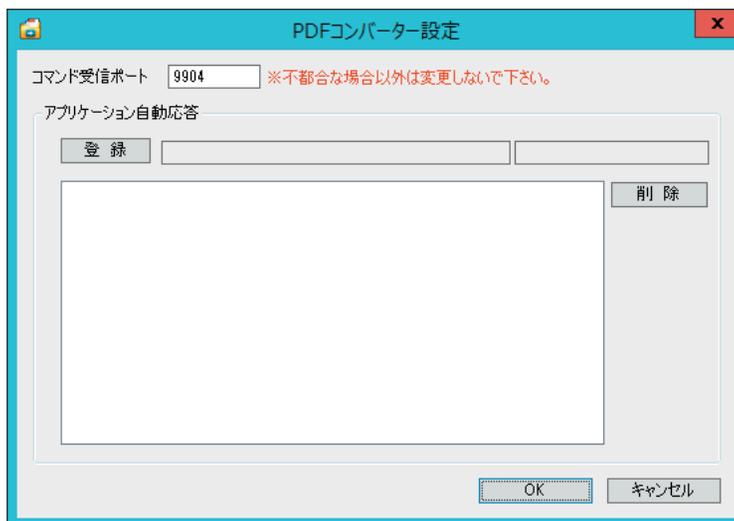
拡張子：HTM が登録されたアプリケーション変換設定画面

2. 自動応答させるダイアログを表示します。Internet Explorer を用いて、適当な HTML ファイルを開き、Ctrl + P を押下するなどして、「印刷」ダイアログを表示します。





- タスクトレイのPDFコンバーターアイコンを右クリックして表示されるコンテキストメニューから「設定...」を選択し、「PDFコンバーター設定」ダイアログを開きます。

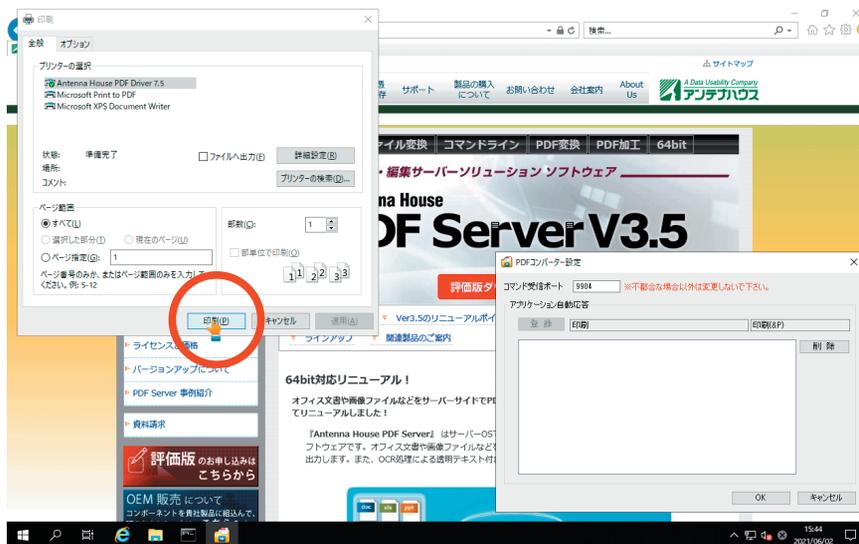


「PDFコンバーター設定」ダイアログ

- 手順2で表示した「印刷」ダイアログ中の「印刷」、「キャンセル」など応答対象となるボタンがクリックできるようにそれぞれのダイアログの表示位置を調整します。
- 「PDFコンバーター設定」ダイアログの「登録」ボタンをクリックします。
- マウスカーソルの形状が、矢印から  に変化します。この状態で自動応答させたいダイアログ中のボタンをクリックします。



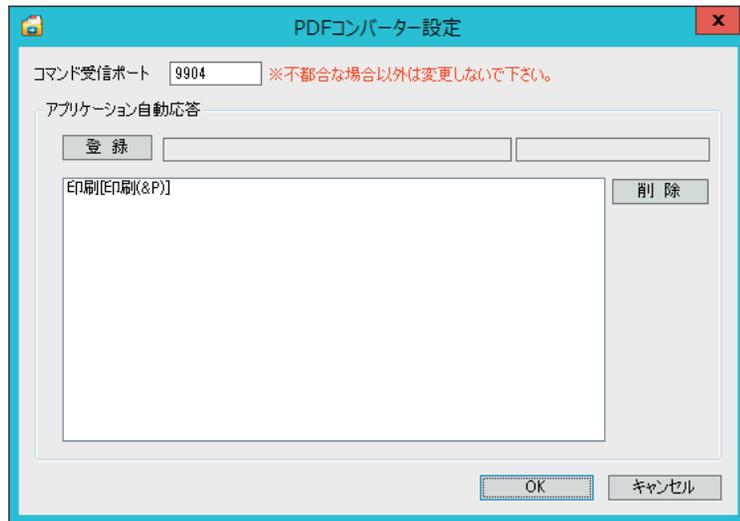
自動応答設定時のマウスカーソル



上の図の例では、「印刷」ダイアログの「印刷」ボタンをクリックします。

- 「印刷」ダイアログで選択されていたプリンタを使って印刷処理が実行されます。

8. 「PDF コンバーター設定」ダイアログに戻るとリストをクリックしたダイアログのタイトルとボタン名が登録されます。



登録名は「ダイアログのタイトル名 [ボタン名]」となります。

9. 登録した応答設定を削除したい場合はリストから該当項目をクリックして選択した後、「削除」ボタンをクリックします。
10. 登録内容に問題がなければ、「OK」ボタンをクリックして設定を保存すると同時に「PDF コンバーター設定」ダイアログを閉じます。「キャンセル」ボタンをクリックした場合、設定を破棄した後、「PDF コンバーター設定」ダイアログを閉じます。

PDF スプリッタ

【プロフェッショナル/ スタンダード版のみ】

「PDFスプリッタ」は、PDFファイル中のQRコードを区切りとして、複数のPDFファイルに分割するPDF Server用の支援ソフトウェアです。

※「PDFスプリッタ」は、コマンドライン版には付属していません。

PDFスプリッタの概要

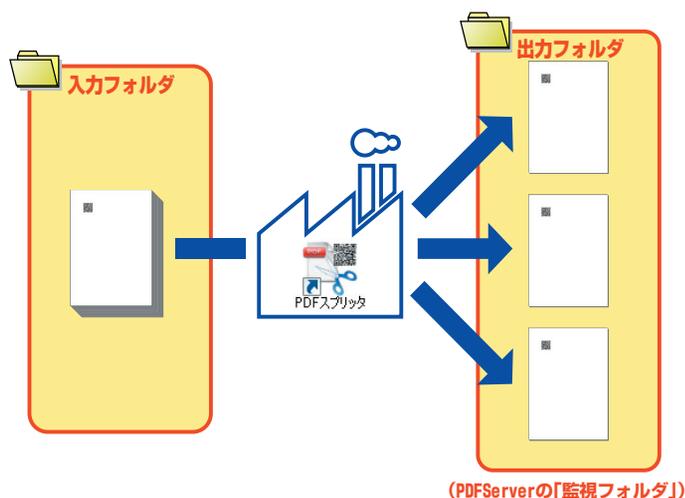
「PDFスプリッタ」は、PDFファイルをページ上にあるPDF Serverに準拠したQRコードを認識し、複数のPDFファイルに分割するフォルダ監視型のPDF Server用支援ソフトウェアです。

イメージスキャナなどを使って一括して取り込んで作成したPDFファイルを文書ごとに独立したPDFファイルに分割しPDF Serverの監視フォルダに投入する際に利用することができます。

注意：

PDFスプリッタは、PDFファイルの各ページを一旦画像に変換した後、QRコード認識処理を行い、分割処理を行います。

対象となるPDFファイルのページサイズが大きかったり、高解像度でスキャンされたPDFファイルの場合には、処理に必要なメモリの量が多くなるため、処理に時間を要します。



QRコードを認識して PDFファイルを分割するには

以下の手順に従って、複数ページからなる PDFファイルをページ上にある QRコードを認識し、複数の PDFファイルに分割します。

1. 「PDFスプリッタ」の起動

スタートメニューのすべてのプログラムの「Antenna House PDF Server V3.5」から「PDFスプリッタ」を選択するなどして起動します。

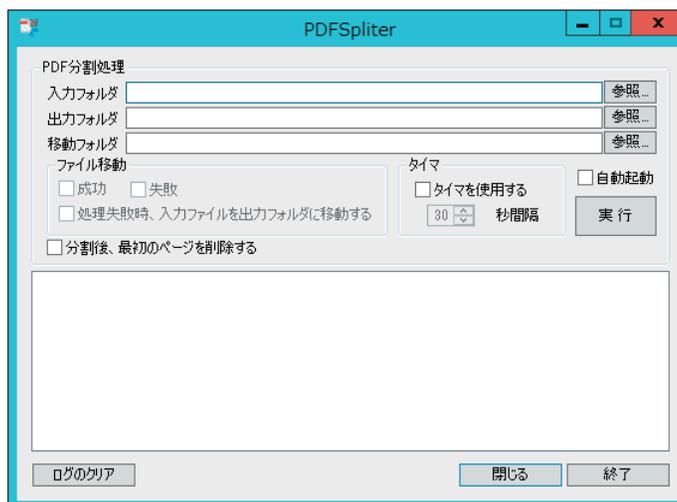


「PDFスプリッタ」のショートカットアイコン

注意：「PDFスプリッタ」は、常駐ソフトウェアです。設定が完了している場合には、起動するとPDFスプリッタ設定画面を表示せず、タスクトレイにソフトウェアが起動していることを示すアイコンを表示します。



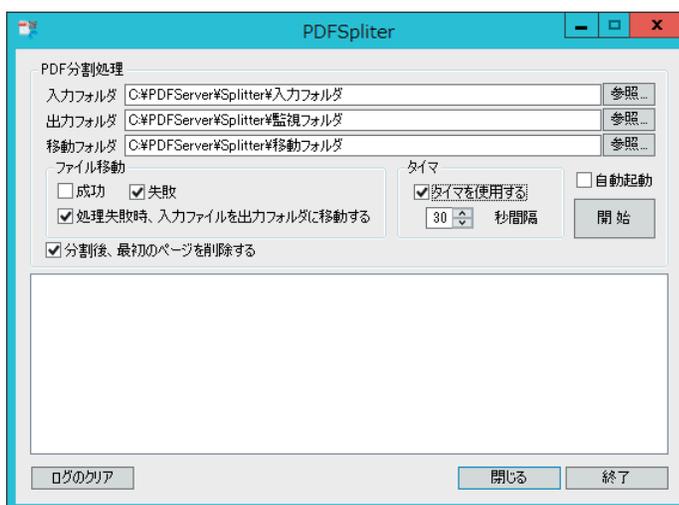
「PDFスプリッタ」を初めて起動した時など、なにも設定されていない場合には、以下に示すPDFスプリッタ設定画面が表示されます。



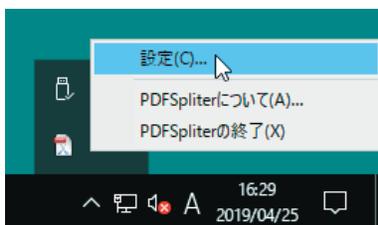
PDFスプリッタ-設定画面

2. PDFスプリッタの設定

PDF スプリッタ設定画面を用いて、監視／出力フォルダなどの設定を行います。



PDFスプリッタ設定画面



メモ：PDF スプリッタは、設定後、起動すると設定画面を表示せずにタスクトレイに常駐します。そのような場合に PDF スプリッタの設定画面を開くには、タスクトレイのアイコンを右クリックして表示されるメニューから「設定」を選択します。

入力フォルダ 分割対象となる PDF ファイルが保存されているフォルダです。フルパスを直接このフィールドに入力するか、フィールド右のボタン「参照...」をクリックして表示される「フォルダの参照」ダイアログボックスを用いて設定します。

出力フォルダ 分割したPDFファイルを保存するフォルダです。入力フォルダと同様の方法で設定します。

移動フォルダ 分割処理を終えたPDFファイルの移動先フォルダです。入力フォルダなど同様の方法で設定します。

注意：「移動フォルダ」を指定しない場合、または指定した「移動フォルダ」が存在しない場合には、分割対象となるPDFファイルは削除されます。

ファイル移動 移動フォルダを設定したときのファイル処理後の対象ファイルの移動についてのオプション設定を行います。

成功	分割処理に成功した場合、移動フォルダ内に作成した「 Success 」フォルダに移動します。このオプションが選択されていない場合、成功時には入力ファイルは削除されます。
失敗	分割処理に失敗した場合、移動フォルダ内に作成した「 Error 」フォルダに移動します。このオプションが選択されていない場合、失敗時には入力ファイルは削除されます。
処理失敗時、入力ファイルを出カフォルダに移動する	分割処理に失敗した場合、移動フォルダ内に作成した「 Error 」フォルダではなく、出力フォルダに移動します。

MEMO :

分割処理を行っている間、フォルダの監視処理を行いません。

タイマ.....指定した入力フォルダを定期的に監視し、見つかった PDF ファイルに付いて分割処理を行うか否かを設定します。

タイマを使用する...このチェックボックスにチェックマークを付けると定期的に入力フォルダを監視し、見つかった PDF ファイルを分割します。

XX秒間隔.....入力フォルダの内容をチェックする時間間隔です。指定できる値の範囲は、5～120 秒です。

自動起動.....タイマ設定に応じて、PDFスプリッタを起動すると同時に分割処理を行います。

タイマを使用する場合	タイマ設定に従って、定期的に入力フォルダを監視し、PDF ファイルの分割処理を行います。
タイマを使用しない場合	起動直後に入力フォルダにある PDF ファイルを対象に 1 回だけ分割処理を行います。処理終了後は、待機状態となります。

実行/開始.....このボタンをクリックして、フォルダ監視処理/分割処理を実行/開始します。また、処理中にはこのボタンの表記が「停止」に変化し、クリックしてフォルダ監視処理/分割処理を停止することができます。

分割後、最初のページを削除する

このチェックボックスにチェックマークを付けると分割して出力される PDF ファイルの先頭ページ(QR コードが存在するページ)を削除して出力します。

ログのクリア.....画面下部のエリアに表示される動作ログをクリアします。
 なお、動作ログファイルは、PDF Server の「log」フォルダ内の「PDFSplitter」フォルダ内に保存されます。PDF Server インストール時にインストール先フォルダを変更しなかった場合には、以下のフォルダになります。

C:\Program Files\Antenna House\PDF Server V3\log\PDFSplitter

閉じる.....PDFSplitter 設定画面を閉じます。再度、PDFSplitter 設定画面を表示するには、タスクトレイの PDFSplitter アイコンを右クリックして表示されるメニューから「設定 ...」を選択します。

終了.....PDFSplitter設定画面を閉じ、PDFSplitterを終了します。

ライセンス情報 表示ツール 【コマンドライン版のみ】

製品のサポートを受ける際、サポート窓口から PDF Server のシステムバージョン (Build 番号) についての情報の提供を求められることがあります。PDF Server のプロフェッショナル版など、コマンドライン版以外の場合には、コントロールセンターの「ヘルプ」メニューから「バージョン情報」を選択することで、簡単に確認することができます。

コマンドライン版の場合、コントロールセンターの代わりにシステム情報を確認するための専用ユーティリティ「AH PDF Server V3.5 バージョン情報」(Pdfsv3LicenseInfo.exe) を用います。

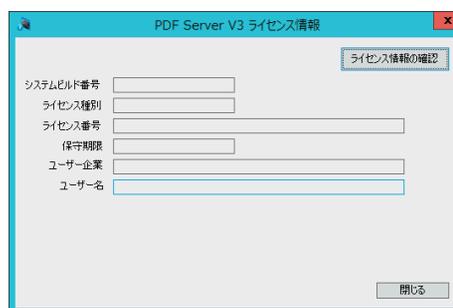
使用方法は、以下の通りです。

1. デスクトップ上にあるショートカット「PDF Server V3.5 バージョン情報」をダブルクリックするか、スタートメニューの「すべてのプログラム」>「Antenna House PDF Server V3.5」>「バージョン情報」を選択して起動します。



PDF Server V3.5 バージョン情報

「PDF Server V3.5 バージョン情報」ショートカットアイコン



「PDF Server V3 バージョン情報」画面

2. 画面上の「ライセンス情報の確認」ボタンをクリックして、ライセンス情報を表示します。



「PDF Server V3 バージョン情報」画面

注意： 環境によっては、管理者以外のユーザー権限で実行した場合、ライセンスが正しくインストールされていても、以下のエラーメッセージが表示され、ライセンス情報が取得出来ません。その場合には、製品のインストールフォルダに保存されているツールを管理者として実行して利用してください。



トラブルシューティング

Q. PDF Server コントロールセンターを起動するとウィンドウのタイトルに「評価版」と表示されます。これはなぜですか？

A. 製品版のライセンスファイルがインストールされていないようです。製品をインストールした後、ライセンスファイルのインストールを忘れている場合、PDF Serverは「評価版」として機能します。（「評価版」のPDF Serverによって出力されるPDFファイルには、赤字で「AH PDF Server V3」という透かしが入ります。）製品付属のドキュメント「スタートアップガイド」の指示に従って、ライセンスファイルをインストールしてください。

Q. 付属のPDF生成仮想プリンタドライバ「Antenna House PDF Driver 7.5」を自分のコンピュータにインストールし、これを使ってOfficeファイルからPDFファイルを作成すると出力されるPDFファイルに赤字で「Antenna House PDF Driver」という透かしが入ります。同じOfficeファイルをPDF Serverを使ってPDFに変換した場合には、この透かしが入りません。これはなぜですか？

A. 製品に付属のPDFドライバは、PDF Server専用となっております。お問い合わせにあるようにこれをプリンタとして選択し、印刷するとドライバは「評価版」として機能します。そのため、出力されるPDFファイルのすべてのページに評価版で出力されたことを示す「Antenna House PDF Driver」という透かしが設定されます。

Q. 監視フォルダにファイルを入れても、ファイルが処理されません。なぜですか？

A1. 処理対象のタスクが開始しているか、確認してください。

A2. 対象となるファイルが、入力ファイル形式としてタスクに設定されていることを確認してください。なお、処理対象となるファイル形式は、以下の通りです。

【イメージファイル】

BMP / TIFF (Multi-TIFF) / JPEG / PNG / JPEG2000

【アプリケーションファイル】

PDF / Microsoft Word / Microsoft Excel / Microsoft PowerPoint / Microsoft Visio / TEXT/XML / 「アプリケーション変換設定」画面に登録されている拡張子のアプリケーション文書ファイル

A3. タスクに設定されている監視フォルダとして Windows ネットワーク共有フォルダが指定されている場合、このフォルダにアクセスできることを確認してください。

A4. タスク開始後、タスクに設定されているインターバル(時間)が経過していることを確認してください。PDF Serverは、タスクを開始と同時に監視フォルダをチェックするのではなく、タスクに設定されているインターバル時間が経過した後、初めてチェックします。

Q. しおりや文書情報などが設定してある PDF ファイルを処理させると、出力された PDF ファイルに元のしおりや文書情報が削除されることがあります。なぜですか？

A. PDF ファイルを処理する場合、対象となる PDF ファイルから、ファイルを構成するページを抽出し、これに処理を加えた後、オリジナルのファイルと同じページ構成の新しいファイルを作成します。その際、PDF Server による処理によって出力されるファイルには、元ファイルを構成するページとしおり／注釈／フォームはコピーされますが、これら以外の JavaScript や添付ファイルなどは抜け落ちる（削除される）ことになります。

文書情報に関しては変換設定「文書情報設定」で「入力ファイルが PDF の場合、文書情報をコピーする」が設定されている場合は元ファイルから作成されるファイルに文書情報がコピーされます。但し、ファイル結合が設定されている場合は、出力されるファイルの先頭ページにあたる元ファイルの PDF の文書情報がコピーされるので、このファイルに文書情報が設定されていなければなりません。

Q. OCR 処理された PDF ファイルを開いてもその結果として生成されているはずのテキストが画面上に全く表示されません。なぜですか？

A. OCR 処理によって PDF ファイルに埋め込まれるテキストは、すべて「透明」（非表示）の状態を設定されます。PDF 閲覧ソフトのテキスト選択ツールで何も選択することが出来ない場合には、OCR 処理によって全くテキストが抽出できなかったことを意味します。

Q. OCR 処理したのですが、文字を正しく読み取ってくれません。文字認識率を向上させるにはどうすればよいですか？

A. OCR 文字認識率は、原稿の状態、原稿の内容（手書きや、原稿が斜めになっている）、及び原稿をスキャンする時の設定条件などにより大きく変化します（本製品が搭載している OCR エンジンは、活字文書用です。従って、手書き文字をほとんど認識することができません）。文字認識率を向上させるために以下をお試しください。ただし、下記の事項を試したことによって向上する文字認識率には限度があることをあらかじめご了承ください。

1. 原稿をスキャンする解像度を変更する。
9 ～ 12 ポイント程度の大きさの文字の場合であれば、144 ～ 300 dpi 程度の解像度でスキャンします。600 dpi など、より高い解像度でスキャンした場合、逆に認識率が低下する場合があります。
2. スキャン時のコントラストの設定を高めにする。
3. スキャン時の濃度設定を濃くする。
4. 原稿の傾きができるだけ少なくなるようにスキャンする。
5. カラー画像をモノクロ／グレースケール画像に変換する。
6. OCR エンジン設定の“傾き補正”、“回転補正” オプションを設定し、正立した状態で処理されるようにする。

Q. 出力されたテキストファイルが白紙で出力されることがあります。なぜですか？

A. OCR 認識文字列のないファイルの場合、テキストファイルの設定で文書情報の設定のオプションを設定していない時、白紙で出力されます。

Q. “自動で回転補正を行う”を設定しても、意図しない方向に回転してしまうことがあります。なぜですか？

A. この機能は、完全なものではなく、限度があることをあらかじめご了承ください。原稿の状態やスキャンした画像の内容により、誤認識が発生し、“自動回転補正”が正しく機能しない場合があります。その場合には、このオプションを解除し、回転方向を指示するか、回転する必要がない正立した原稿を投入してください。

Q. 高圧縮 PDF出力したファイルを Acrobatを使って印刷するとメモリが大量に消費され、印刷時間も非常に遅くなります。もっと早く印刷する方法はありませんか？

A. 高圧縮 PDFファイルは、その内容によっては非常に数多くのオブジェクトによってページを構成することがあります。Acrobatがそのようなページを印刷する際には、大量のメモリを必要とし、時間を要します。これを避けるには、Acrobatの印刷ダイアログにあるボタン「詳細設定」をクリックして表示される「詳細設定」画面にあるオプション「画像として印刷」を指定します。これにより、印刷時間を短縮することができます。

注意：印刷に用いるプリンタが、PostScript対応の場合、このオプションを用いると高品質な印刷を行うことができません。

Q. コンピュータを起動すると自動的に PDF Serverを「開始」状態になるように設定することはできませんか？

A. 製品インストール直後の状態では、PDF Serverは手動で起動するように設定されています。これをコンピュータの起動と同時に開始させるには、Windowsコントロールパネル「管理ツール」にある「サービス」を使って行います。

管理ツールを使って、サービス「AH PDF Server V3 Service」の「スタートアップの状態」を「自動」に変更します。また、サービス開始と同時にタスクを開始するには、PDF Serverコントロールセンターの「共通設定」—「起動時のタスク状態」で設定します。

Q. コンピュータを起動するだけでログオンすることなく PDF Serverによる処理を行うことはできますか？

A. 処理対象となるファイルが、画像／PDF／テキストファイルの場合に限って、ログオンすることなく PDF Serverによる処理を行うことができます。

Microsoft Office文書など、上記以外の形式のファイルを処理する場合に限り、Windowsのセキュリティの仕様のため、利用している Windowsのバージョンによらず必ずログオンしなければなりません。

Q. Office文書の PDF変換を行うのですが、コンピュータを常時ログオンした状態で運用することにセキュリティ面での不安があります。そこで、Windowsの画面をロックした状態で運用しようと考えているのですが、そのような状態でも Office文書の PDF変換を行うことは可能でしょうか？

A. 可能です。一度ログオンしてしまえば、画面をロックした状態でも Office文書を PDFファイルに変換することができます。

Q. Office文書の PDF変換を行うのですが、変換に失敗してしまいます。

A. 製品付属の常駐アプリケーション「PDFコンバーター (PDFConverter3.exe)」が動作していることを確認してください(動作中には、タスクトレイにアイコンが表示されます)。PDFコンバーターが、動作していない状態では、Office文書／アプリケーション文書を PDFファイルに変換することができません。動作していないときには、Windowsの「スタート」メニュー > 「すべてのプログラム」 > 「スタートアップ」 > 「PDFコンバーター」を選択してこれを起動してください。

Q. MS Excelファイルの全シートを PDFファイルに変換する設定を行って処理させるのですが、エラーが発生し PDFファイルが出力されません。

A. 複数のワークシートを持つ Excelファイルで、ワークシートとワークシートの間空のワークシートが挟まっている場合、エラーを生じ PDFファイルを出力することができません。お手数ですが、空のワークシートを削除するか、ワークシートの順番を変更し、空のワークシートを最後に移動してください。

Q. MS Wordファイルに設定されている「変更履歴」や「コメント」が、PDFファイルに出力されません。「変更履歴」や「コメント」がついた状態のPDFファイルを作成することはできませんか？

A. 「オフィス変換設定」の「Word」画面のチェックボックス「変更履歴／コメントを出力する」にチェックすることで、変更履歴／コメントをPDFファイルに出力することができます。

Q. 変換したファイルの出力先フォルダをローカルディスク上のフォルダから、ファイルサーバ上の共有フォルダに変更したところ、エラーが発生してファイルを出力できません。エクスプローラから、この共有フォルダへエラーを生じることなくファイルの読み書きができます。なにか、設定を間違えたのでしょうか？

A. PDF Serverは、通常のアプリケーションとは異なり、サービスアプリケーションです。そのため、ユーザーがエクスプローラでファイル进行操作するのは異なり、PDF Serverが動作しているPCのローカルアカウントによってファイル进行操作しています。また、特にWindows Server 2003 R2以降のサーバOSでは、サービスの様にシステムに常駐するようなソフトウェアを介して、システム内部からの攻撃を防御する為、セキュリティ監査のチェックが、厳しくなっております。これは、Microsoftのセキュリティポリシーによるものです。

ネットワークドライブを監視／出力フォルダとして用いられる場合には、上で説明したセキュリティポリシーを変更する必要があります。セキュリティポリシーの変更は、システム内部からの攻撃を可能とする変更を行うため、セキュリティの面からお勧めできません。このことを十分理解した上、設定を行ってください。

1. PDF Serverを動作させる「Administrator」以外の管理者権限を持つアカウントを用意します。

2. 手順1で用意したアカウントに対してパスワードを設定します。

3. 手順1で用意したアカウントでサービスとしてログオンできるように設定します。その手順は、以下の通り。

A. コントロールパネル「管理ツール」内にある管理コンソール「ローカルセキュリティポリシー」を開きます。

B. 「ローカルポリシー」>「ユーザー権利の割り当て」を選択して画面右に表示されるリストにある「サービスとしてログオン」をダブルクリックして開きます。

C. 表示される画面の「ローカルセキュリティの設定」タブ画面にあるボタン「ユーザーまたはグループの追加」をクリックして表示される画面を使って、手順1で用意したアカウントを追加します。

4. PDF Serverのサービス(AH PDF Server V3 Service)の実行権限を手順1で用意したユーザーに与えます。その手順は、以下の通り。

A. コントロールパネル「管理ツール」内にある管理コンソール「サービス」を開きます。

B. サービス「AH PDF Server V3 Service」をダブルクリックして開きます。

C. 「ログイン」タブをクリックして表示される画面を使って、ログオンアカウントを設定します。

5. ネットワークドライブを所有する PC(サーバ) にも手順 1で設定したログインユーザとパスワードを設定します。通常、この状態であればネットワークドライブをアクセスする際にユーザ名とパスワードの入力を求められる事なくアクセス出来ると思います。もし、アクセスできない場合には、上記のいずれかの設定が間違っている可能性がありますので、再度確認して下さい。

通常、この状態で PDF Server からアクセスが可能となります。

※「Administrator」は、特別なアカウントなのでこれを使用することは避けてください。

これでアクセスが失敗するようであれば、以下の2つのコマンドをコマンドプロンプトから入力して実行して下さい。

```
> cd C:\WINDOWS\Microsoft.NET\Framework\v2.*
> caspol.exe -machine -chgggroup LocalIntranet_Zone FullTrust
```

(ここで、y/nの入力を求められますので、「y」を応答して下さい)

このコマンドは PDF Serverなど、.Net Frameworkで動作しているソフトウェアからネットワーク共有(LAN内) でリモートアクセス及び実行を行えるようにするためのものです。

Q. ネットワークドライブ上のフォルダを入力(監視) /出力フォルダにそれぞれ指定すると、監視動作でエラーが発生します。

A. Windows Server 2000以降、ネットワークドライブのドライブレター割り当ては、アカウント固有ではなく、アカウントと、且つそのセッション固有のものとなっています。つまり、PDF Server自身がネットワークドライブの割り当てを行えば PDF Serverからアクセスすることは可能ですが、それ以外の要因(=セッション) からこれを行った場合には PDF Serverからは読み書きのアクセスが出来ない事になります(ただし、フォルダの存在を確認する事は可能です)。これは Windows Serverのセキュリティ仕様によるもので、.NETがこのルールに従って動作しているため、監視動作でエラーが発生することになります。

ネットワークドライブ上のフォルダを入力(監視) /出力フォルダに指定する場合には、UNC形式(¥¥コンピューター名 ¥共有フォルダ名) で指定して下さい。

Q. マニュアルの記述に従って PDFコンバーターをタスクスケジューラに登録したのですが、ログオンしてもすぐには PDFコンバーターが起動しません。PDFコンバーターをログオンしてすぐに起動させるにはどうすればよいですか？

A. これは、タスクスケジューラから起動されるプロセスの基本優先度が「通常以下」となることが原因です。御利用の環境によっては、インストールされているソフトウェアの優先度により、PDFコンバーターの起動に時間を要する場合があります。タスクスケジューラには、タスクの優先度を編集するための設定項目がないため、以下の方法によってタスクの編集・設定を行います。

1. マニュアルの記述にしたがい、タスクスケジューラを使って PDFコンバーターを起動するタスクを設定します。
2. 作成したタスクを XMLファイルとしてエクスポートすると同時にこれを削除します。
3. エクスポートした XMLファイルをメモ帳など、適当なテキストエディタを用いて編集します

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-16"?>
<Task version="1.2" xmlns="http://schemas.microsoft.com/...">
    :
    <Settings>
        :
        <Priority>7</Priority>
    </Settings>
    :
</Task>
```

XMLファイルの例

編集箇所は、<Task> → <Settings> → <Priority> にある値です。（上の例の場合には「7」になります。）基本優先度を「通常」に設定するには <Priority>の値を「7」から「6」に変更した後、上書き保存します。

Priority の値とプロセスの基本優先度の関係は以下の通りです。

Priority	基本優先度
0	リアルタイム
1	高
3	通常以上
6	通常
7	通常以下
9	低

4. 手順3で保存した XMLファイルをインポートします。

付録

ヘッダ／フッタに設定できる特殊文字

ヘッダ／フッタに設定できる、現在の日付／ファイル名／ページ番号等と置き換えられる特殊文字列の書式について説明します。特殊文字列は、以下の書式から成る半角英数字の文字列で表されます。

%+設定項目(英大文字)+フォーマットオプション

「PDFServer」で用意されている特殊文字列は以下の通りです。

特に日付／時刻を表す項目では、それぞれに用意されているオプション番号によって表示形式を指定することができます。日付及び、時刻のオプションについては次頁を参照して下さい。

記号	設定内容	オプション番号
%D	現在の日付	01～07
%T	現在の時刻	01～05
%F	PDFファイル名	01 拡張子あり 02 拡張子なし
%N	現在のページ番号	
%U	PDFファイルの総ページ数	
%L	PDF文書情報:タイトル	
%B	PDF文書情報:サブタイトル	
%A	PDF文書情報:作成者	
%K	PDF文書情報:キーワード	
%C	PDF文書情報:作成	
%P	PDF文書情報:PDF変換	
%E	PDF文書情報:作成日付	01～07
%G	PDF文書情報:作成時刻	01～05
%M	PDF文書情報:更新日付	01～07
%R	PDF文書情報:更新時刻	01～05

メモ：ヘッダ/フッタに設定する文字列中に"%"を使用するには,"%%"と入力します。

日付のフォーマットオプションについて

日付の表示形式のオプションとして、以下にあげる 7種類が用意されています。

オプション	設定例
01	2019/5/25
02	2019/05
03	5月 25, 19 (土曜日)
04	5, 25, 19(土)
05	2019年 5月 25日 [土曜日]
06	令 01.05.25[土]
07	R01.05.25

時刻のフォーマットオプションについて

時刻の表示形式のオプションとして、以下にあげる 5種類が用意されています。

オプション	設定例
01	15:08:45
02	15:08
03	3:08 pm
04	03:08 PM
05	午後 03 時 08 分 45 秒

PDF Serverの対応画像形式について

以下に PDF Serverが対応している(PDFファイルに変換可能な) 画像ファイルについての情報を示します。BMP/JPEG/JPEG2000/PNG/TIFFであっても、以下のリストに含まれないフォーマットである場合、PDFファイルに変換できないなどの現象が生じることがあります。

	Color Depth(bit)	Color Model	圧縮方法
BMP	24/8/4/1	RGB/Grayscale	RLE
JPEG	24	RGB/Grayscale	—
JPEG2000	24	RGB/Grayscale	—
PNG	24	RGB	—
	8/4	Index Color	
	1	BW	
TIFF	32	CMYK	JPEG/LZW/Packbits/ ZIP
	24	RGB	
		Lab	
	8/4	Index Color	LZW/Packbits/ZIP
	8	Grayscale	
	1	BW	G3/G4/RLE

PDF 生成仮想プリンタドライバ「Antenna House PDF Driver 7.5」の印刷設定

「Antenna House PDF Driver 7.5」は、Office 文書ファイルを PDF ファイルとして出力するために仮想プリンタドライバソフトウェアです。

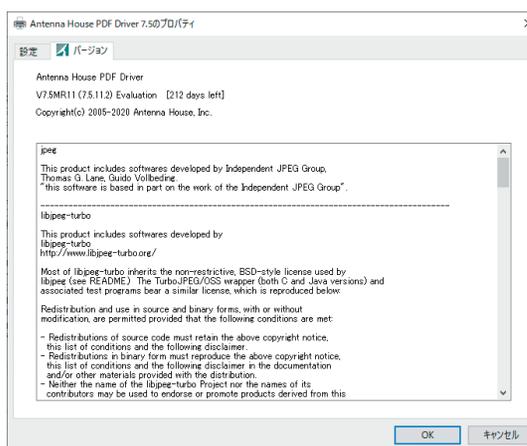
ここでは、「Antenna House PDF Driver 7.5」を用いて、文書ファイルを PDF ファイルとして保存する際の「印刷設定」について説明します。

「印刷設定」は、「変換設定」の「PDF Driver 設定」画面にある「設定」ボタンをクリックして表示される「Antenna House PDF Driver 7.5 のプロパティ」ダイアログボックスを用いて行います。



「Antenna House PDF Driver 7.5のプロパティ」ダイアログボックス

「バージョン」タブ画面には、プリンタドライバのバージョン情報が表示されます。



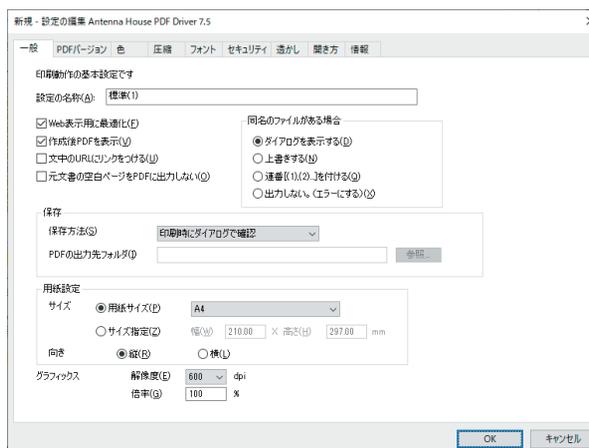
バージョン情報画面

Antenna House PDF Driver 7.5の印刷設定について

「設定」ダイアログボックスを使って、出力される PDFファイルの用紙サイズ、ページの向き、セキュリティオプションなど、出力する PDFファイルに付いての設定を行います。

次の手順で、「設定」ダイアログボックスを表示します：

1. 「印刷」ダイアログボックスの「プロパティ」ボタンをクリックする等して、「Antenna House PDF Driver 7.5のプロパティ」ダイアログボックスを開きます。
2. リストから編集したい設定を選択した後、編集ボタンをクリックするか、新規ボタンをクリックして、「設定」ダイアログボックスを開きます。

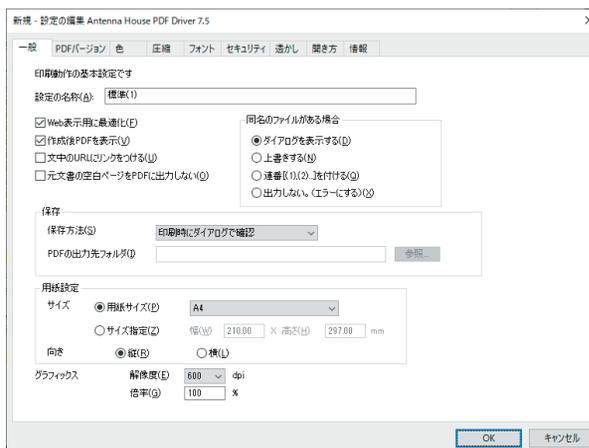


「Antenna House PDF Driver 設定」ダイアログボックス（「一般」画面）

このダイアログボックスを用いて設定できる項目は、以下の通りです。

- 一般 印刷設定の名称、出力する PDFファイルの用紙サイズ／ページの向き／画像解像度、ファイルの保存先／保存方法についての設定を行います。
- PDFバージョン 出力する PDFファイルのバージョン、PDF/Aや PDF/Xで出力する際のプロファイル、仕上がり／裁ち落としサイズの設定を行います。
- 色 出力する PDFファイルの色に関する設定を行います。
- 圧縮 PDFファイルの圧縮に関わる設定を行います。
- フォント PDFファイルへのフォント埋め込みについての設定を行います。
- セキュリティ パスワード等、PDFファイルに設定するセキュリティオプションについての設定を行います。
- 透かし ページ上に設定する透かし（ウォーターマーク）についての設定を行います。
- 開き方 PDFファイルを開いたときの状態（開き方）の設定を行います。
- 情報 PDFファイルに埋め込む文書情報（メタデータ）についての設定を行います。

一般



この画面を用いて、印刷設定の名称、出力される PDF ファイルの保存先／保存方法などについての設定を行います。

Web表示用に最適化

作成した PDF ファイルをバイトサービングに対応した Web サーバで公開する際、Web サーバからページ単位でダウンロード(バイトサービング) できるよう最適化(リニアライズ) 処理を行って出力します。

作成後 PDFを表示

PDF ファイル出力後、出力した PDF ファイルを Adobe Reader など、コンピュータにインストールされている拡張子「PDF」に関連付けられているアプリケーションを使って開きます。

※ PDF Server を用いた PDF 変換を実施する際、このオプションを設定しても機能しません。(作成後、PDF ファイルは表示されません。)

文中の URL にリンクをつける

PDF ファイルの作成対象となる文書中に、「<http://>」、または、「<https://>」で始まる文字列を検出した場合、出力する PDF ファイル中の該当箇所に URL リンクを設定します。

※ URL 文字列の中に改行が含まれたり、文字間が離れているなど、文書の内容、また印刷に用いるアプリケーションによっては、URL リンクが正しく設定されない場合があります。

元文書の空白ページを PDF に出力しない

Microsoft Word / Microsoft Excel / 一太郎文書から PDF ファイルを出力する場合、その文書にある空白ページを PDF ファイルに出力しません。

※ 空白ページとは、以下を指します。

Word/一太郎 改行 / 空白文字以外の文字、画像、オートシェイプ、表、ヘッダ / フッタ、ページ番号、改ページのどれもが存在しないページ

Excel 図形 / 画像、改行 / 空白文字以外の文字、罫線 / 色の指定、ヘッダ / フッタ、ページ番号のどれもが存在しないページ

※ この機能を Microsoft Office 専用アドインを用いて PDF ファイルを作成する際に用いると、出力した PDF ファイル中のしおりやハイパーリンクの飛び先ページが正しく機能しなくなることがあります。

同名のファイルがある場合

PDFファイルの出力先フォルダに既に同名の PDFファイルが存在する場合の処理を設定します。

ダイアログを表示する

画面中程の「保存方法」で指定されている「PDFの出力先フォルダ」に同名のPDFファイルが存在する場合、上書きするか否かを確認するメッセージが表示されます。この確認メッセージに対し「いいえ」で応答すると、「名前を付けて保存」ダイアログが表示され別名を付けて保存することができます。

上書きする

警告ダイアログなどを表示することなく無条件に上書き保存します。当然のことながら、このオプションを有効にした場合、出力先フォルダにある既存の同名の PDFファイルは失われてしまいますので、ご注意ください。

連番「(1),(2)…」を付ける

画面中程の「保存方法」で出力先フォルダを指定している場合には、警告ダイアログなどを表示することなく出力ファイル名に連番を付与して新たなPDFファイルとして保存します。例えば、既に出力先フォルダに「Sample.pdf」が存在しているときに同名の文書ファイルを印刷すると、出力されるPDFファイル名は「Sample(1).pdf」となります。

画面中ほどの「保存方法」で「印刷時にダイアログで確認」を指定している場合、表示される「名前を付けて保存」ダイアログの「ファイル名」に表示される初期値が「Sample(1).pdf」のように連番が付与された名称となります

出力しない。(エラーにする)

既に出力先フォルダに同名のPDFファイルが存在する場合は、PDFファイルの出力を行いません。

- ※ PDF Server を用いた PDF 変換を実施する際、このオプションを設定しても機能しません。(PDF Server のタスク設定、「出力ファイル設定」画面のファイル名設定に従った処理がなされます。)

保存

出力されるPDFファイルの保存方法を設定します。

- ※ PDF Server を用いた PDF 変換を実施する際、この設定ではなく PDF Server のタスク設定、「出力ファイル設定」画面のファイル名設定に従った処理がなされます。)

The screenshot shows a dialog box titled "保存" (Save). It contains two main sections: "保存方法(S)" (Save method) and "PDFの出力先フォルダ(D)" (PDF output folder). The "保存方法(S)" section has a dropdown menu currently set to "印刷時にダイアログで確認" (Print with dialog confirmation). The "PDFの出力先フォルダ(D)" section has a text input field and a button labeled "参照..." (Reference...).

印刷時にダイアログで確認

PDFファイルの出力時に「名前を付けて保存」ダイアログボックスを表示し、出力される PDFファイルのファイル名／保存場所を選択できるようにします。

出力先フォルダを指定する

フィールド「PDFの出力先フォルダ」で指定されているパスを出力される PDFファイルの保存先フォルダに指定します。

PDFの出力先フォルダ

このフィールドに直接出力される PDFファイルの保存先フォルダのフルパスを入力するか、フィールド右の「参照」ボタンをクリックして表示される「フォルダの参照」ダイアログボックスを用いて保存先フォルダを指定します。

用紙設定

「メモ帳」など、用紙サイズやページの向きを設定する機能を持たないアプリケーションからPDFファイルを出力する際の用紙サイズ／ページの向きを設定します。

用紙設定

サイズ

用紙サイズ(P) A4

サイズ指定(Z) 幅(W) 210.00 × 高さ(H) 297.00 mm

向き

縦(P) 横(L)

※ 出力する用紙サイズの幅／高さ(mm単位)を指定した場合には、ページの向きを設定することはできません。

グラフィックス

プリンタのグラフィックスの解像度と倍率を指定します。

グラフィックス

解像度(E) 600 dpi

倍率(S) 100 %

メモ 解像度の単位、dpi(dots per inch)とは、1インチ(25.4mm)の長さをいくつの点(ピクセル)で表現するかを示すものです。この数値が大きいくほど、データ量は大きくなりますが、きめ細かな表現をすることができます。

解像度[※]

プリンタの解像度を設定します。この設定により1ページ全体に表示できる画像のピクセル数が変化します。

解像度が高くなるにつれ、処理時間が長くなり、出力されるPDFファイルのファイルサイズが大きくなる場合があります。

倍率

プリンタの倍率を設定します。この設定により元文書の出力倍率が変化します。

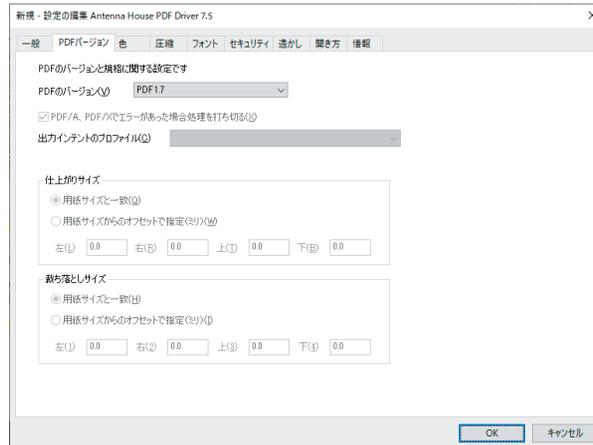
※ 用紙サイズと解像度

プリンタが出力するときのピクセル数は、「用紙サイズ(インチ換算)×解像度」で決まります。この値が非常に大きくなる設定を行うと印刷が行われずPDFファイルが出力されない場合があります。そのような場合は、用紙サイズを小さくするか、解像度に低い値を設定してください。設定値の目安は、「用紙サイズ(縦)×解像度」、「用紙サイズ(横)×解像度」が16-bitの上限である「65,535」より小さな値です。

参考：3,600dpiの場合には約460mm、600dpiの場合には約2,750mmが上限値となります。

PDFバージョン

メモ 「PDFのバージョン」で、PDF1.6以降のバージョンを選択した状態でセキュリティの設定を行うと自動的に出力されるPDFファイルの暗号化方式としてAES暗号化方式が採用されます。



この画面を使って、出力されるPDFファイルのPDFバージョンについての設定を行います。

PDFのバージョン

Antenna House PDF Driver 7.5が出力するPDFのバージョンを設定します。

PDFのバージョン	備考
1.3 ^{※1}	Adobe Acrobat 4.x以降に対応
1.4	Adobe Acrobat 5.x以降に対応
1.5	Adobe Acrobat 6.x以降に対応
1.6	Adobe Acrobat 7.x以降に対応
1.7(初期設定値)	Adobe Acrobat 8.x以降に対応
PDF/A-1b ^{※2}	ISO 19005-1のレベル Bに準拠した PDF/A-1b(PDF 1.4)の PDFファイルを出力します。
PDF/A-2b ^{※3}	ISO 19005-1のレベル Bに準拠した PDF/A-2b(PDF 1.7)の PDFファイルを出力します。
PDF/X-1a:2001 ^{※4}	PDF/X-1a:2001に準拠した PDFファイルを出力します。
PDF/X-1a:2003 ^{※4}	PDF/X-1a:2003に準拠した PDFファイルを出力します。
PDF/X-3:2002 ^{※4}	PDF/X-3:2002に準拠した PDFファイルを出力します。
PDF/X-3:2003 ^{※4}	PDF/X-3:2003に準拠した PDFファイルを出力します。
PDF/X-4:2008 ^{※3}	PDF/X-4:2008に準拠した PDFファイルを出力します。

注意：PDF Serverのアプリケーション／オフィス変換によってPDF/A-1b、PDF/Xを出力するには、変換に用いる変換設定の「PDF Driver設定」のチェックボックス「出力PDFファイルに出力設定のPDF設定を適用しない」にチェックマークを付ける必要があります。

- ※1 PDF Ver.1.3を指定した場合、Acrobat Reader Ver.4.x以降で表示できる PDF ファイルを出力します。このとき、出力される PDFファイル中の Microsoft Officeのオートシェイプの半透明に該当する部分などが、正しく表示できない場合があります。
- ※2 Antenna House PDF Driver 7.5は、ISO 19005-1のレベル Bに準拠した仕様である「PDF/A-1b」の出力に対応しています。これと、ISO 19005-1に準拠した仕様「PDF/A-1a」との違いは以下の通りです。

	PDF/A-1a	PDF/A-1b
フォントはすべて埋め込まなければならない	○	○
タグ付けされていなければならない	○	×
XMP準拠のメタデータを含んでいなければならない	○	○
暗号化してはならない	○	○
LZW圧縮してはならない	○	○
透明な画像を含んではならない	○	○
外部コンテンツを参照してはならない	○	○
JavaScriptを含んではならない	○	○

- ※3 Antenna House PDF Driver 7.5は、ISO 19005-2のレベル Bに準拠した仕様である「PDF/A-2b」の出力に対応しています。「PDF/A-1b」の仕様に加えて「PDF/A-2b」で追加された仕様は以下の通りです。

	PDF/A-1b	PDF/A-2b
JPEG2000圧縮してもよい	×	○
透明オブジェクトを含んでもよい	×	○
PDF/A準拠の添付コンテンツを含んでもよい	×	○
オプションコンテンツ(レイヤー)を含んでもよい	×	○

※ 4 Antenna House PDF Driver 7.5は、ISO 15930で規定された仕様である「PDF/X-1a:2001」、「PDF/X-1a:2003」、「PDF/X-3:2002」、「PDF/X-3:2003」、「PDF/X-4:2008」の出力に対応しています。

	PDF/X-1a:2001	PDF/X-1a:2003	PDF/X-3:2002	PDF/X-3:2003	PDF/X-4:2008
相当する PDFバージョン	1.3	1.4	1.3	1.4	1.6
文書情報の「タイトル」	必須	必須	必須	必須	必須
CMYK/スポットカラーの使用	×	×	○	○	○
グレースケールの使用	○	○	○	○	○
R G Bの使用	×	×	○	○	○
出力インテントが指定されていなければならない	○	○	○	○	○
出力インテントとして指定された ICCプロファイルを埋め込まなければならない	×	×	○	○	○
フォントは全て埋め込まなければならない	○	○	○	○	○
暗号化してはならない	○	○	○	○	○
透明のサポート	×	×	○	○	○
外部コンテンツを参照してはならない	○	○	○	○	○
アクションや JavaScriptを含んではならない	○	○	○	○	○
リンクや注釈などを含んではならない	○	○	○	○	○

PDF/A、PDF/Xでエラーがあった場合に処理を打ち切る

文書中で用いられているすべてのフォントを埋め込めないなど、PDF/A、PDF/Xに準拠したPDFファイルの作成ができない場合に処理を打ち切ります。

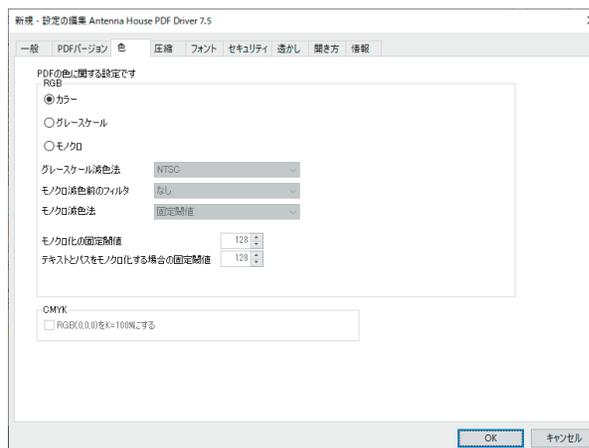
出力インテントのプロファイル

PDFのバージョンとして「PDF/A」、「PDF/X」を選択した場合に使用する ICCプロファイルを指定します。

仕上がりサイズ/裁ち落としサイズ

「PDF/A-」、「PDF/X」を選択した場合に出力するPDFファイルの仕上がりサイズ/裁ち落としサイズを設定します。用紙サイズからのオフセットの値は、ページ端からページ中心に向かう正の値で指定します。

色



この画面を使って、出力する PDF ファイルの色についての設定を行います。

RGB

カラーモデルが RGB についての設定をします。

カラー

元文書のカラー情報で PDF ファイルの出力を行います。

グレースケール

グレースケールに変換して PDF 出力を行います。このオプションを選択する際には、カラーをグレースケールに変換するためのアルゴリズムを「グレースケール減色法」から選択します。

- ・ 「PDFバージョン」タブ画面で、「PDFのバージョン」として「PDF/A」、または「PDF/X」が指定されている場合、グレースケールへの変換は行われません。
- ・ 「透かし」タブ画面で、透かしの種類として「図」が、その際の画像ファイルとして「PDFファイル」が指定されている場合、透かし部分のグレースケールへの変換は行われません。

モノクロ

白黒 2 値 (モノクロ) に変換して PDF 出力を行います。元文書がカラーの場合には、一旦グレースケールに減色した後に白黒 2 値に変換します。このオプションを選択する際には、「グレースケール減色法」、「モノクロ減色前のフィルタ」、「モノクロ減色法」、「モノクロ化の固定閾値」、「テキストとパスをモノクロ化する場合の固定閾値」のそれぞれ設定します。

- ・ 「PDFバージョン」タブ画面で、「PDFのバージョン」として「PDF/A」、または「PDF/X」が指定されている場合、モノクロへの変換は行われません。
- ・ 「透かし」タブ画面で、透かしの種類として「図」が、その際の画像ファイルとして「PDFファイル」が指定されている場合、透かし部分のモノクロへの変換は行われません。

グレースケール減色法

カラーをグレースケールに減色する際に用いるアルゴリズムを指定します。

NTSC (初期値)	NTSC 係数による加重平均法
HDTV	HDTV 係数による加重平均と補正
RGB の平均	R (赤)、G (緑)、B (青) を足して 3 で割った単純平均

モノクロ減色前のフィルタ

モノクロ変換前に画像に対して行うノイズ除去方法のアルゴリズムを選択します。

なし(初期値)	フィルタ処理を行わない
メディアンフィルタ	周辺画素の中央値
ガウシアンフィルタ 3x3	フィルタサイズ 3 × 3 の重み付き平均
ガウシアンフィルタ 5x5	フィルタサイズ 5 × 5 の重み付き平均
ガウシアンフィルタ 7x7	フィルタサイズ 7 × 7 の重み付き平均

モノクロ減色法

グレースケールの元画像をモノクロ(白黒二値)に変換する場合のアルゴリズムを選択します。

固定閾値(初期値)	元画像のすべての画素について、指定した閾値よりも明るい画素は白(明るさ「255」)に変換し、暗い画素は黒(明るさ「0」)に変換する。
判別分析法	画像の輝度ヒストグラムをある閾値で2つのクラスに分割したとき分離度という値が最大になる値を求め自動的に二値化を行う。

モノクロ化の固定閾値

「モノクロ減色法」の「固定閾値」の閾値を設定します。

設定可能な値の範囲： 0～255

初期値： 128

テキストとパスをモノクロ化する場合の固定閾値

テキストとパス(=線や曲線など)をモノクロに変換する場合の閾値を設定します。指定した閾値よりも明るい場合は白(明るさ「255」)に変換し、暗い場合は黒(明るさ「0」)に変換します。

設定可能な値の範囲： 0～255

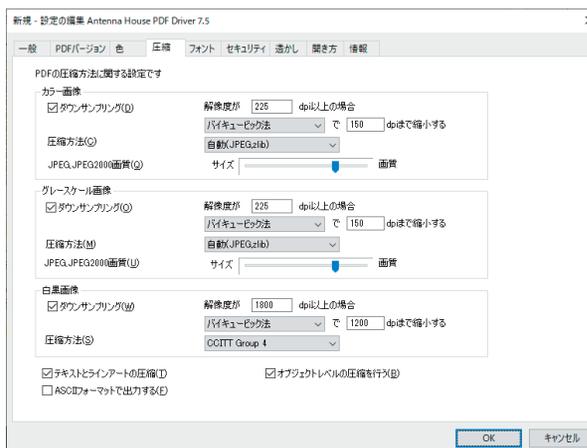
初期値： 128

CMYK**RGB(0,0,0)をK=100%にする**

この「PDFバージョン」タブ画面で、「PDFのバージョン」としてPDF/AやPDF/Xが指定されていて、その出力インテントのICCプロファイルのカラーモデルがCMYKである場合、黒(RGB: 0 0 0)を「K=100%」(CMYK: 0 0 0 100)に置換してPDFファイルを出力します。

この設定による変換が適用される対象は、テキストとパス(図形)です。画像はその対象となりません。画像は、出力インテントに指定されたICCプロファイルにしたがって変換されます。

圧縮



この画面を使って、PDFファイル出力時の圧縮方法についての設定を行います。

ダウンサンプリング

以下のいずれかの方法で文書中にある指定した以上の解像度を持つカラー／グレースケール／白黒画像について、指定する解像度までダウンサンプリング(解像度変換)を行います。

バイリニア法	サンプル領域のピクセルを平均化し、領域全体を指定解像度の平均ピクセルカラーに置き換えます。
バイキュービック法	加重平均を用いてピクセルカラーを決定します。複雑な計算を行うため、時間を要しますが、情報の損失が少なく自然な画像が得られます。
ニアレストネイバー法	サンプル領域の中心のピクセルを選択し、領域全体を選択したカラーに置き換えます。ダウンサンプルよりも短時間で処理できますが、生成される画像はより粗いものになります。

圧縮方法: ページ上にある画像の圧縮方法を指定します。

メモ JPEG2000 による画像圧縮は、「PDF バージョン」タブ画面でPDF バージョンとして「PDF/X-4:2008」が選択されている場合には、選択することができません。

カラー／グレースケール画像	自動 (JPEG,zlib)	ページ上に存在するそれぞれの画像について、指定された画質で JPEG 圧縮と ZIP 圧縮の双方を行い、サイズが小さい方の圧縮方法を採用します。出力される PDF ファイルのサイズを小さくすることができますが、処理に時間を要します。
	JPEG	指定された画質による JPEG 圧縮を行います。JPEG 圧縮は、写真など自然画向きの圧縮方法です。また、非可逆変換であるため、圧縮率を上げるほど画像の劣化が発生します。
	zlib (ZIP)	ZLIB (ZIP) 圧縮を行います。ZIP 圧縮は、Microsoft Office のオートシェイプ図形や画面スナップショット画像などインデックスカラー画像向きの圧縮形式です。また、可逆変換であるため、圧縮しても画像が劣化することはありません。
	JPEG2000	指定された画質による JPEG2000 圧縮を行います。この方法は、出力する PDF のバージョンとして 1.5 以降を選択している場合に利用できます。JPEG 圧縮同様、この圧縮方法も非可逆変換です。JPEG 圧縮より複雑な処理を行うため JPEG 圧縮より時間を要しますが、JPEG 圧縮の場合よりも画像の劣化を抑えることができます。
	自動 (JPEG2000,zlib)	ページ上に存在するそれぞれの画像について、指定された画質で JPEG2000 圧縮と ZIP 圧縮の両方を行い、サイズが小さい方の圧縮方法を採用します。この方法は、出力する PDF のバージョンとして 1.5 以降を選択している場合に利用できます。JPEG2000 圧縮は、JPEG 圧縮より複雑な処理を行うため、自動 (JPEG) を指定した場合より更に時間を要します。
白黒画像	None	画像圧縮を行いません。
	CCITT Group 3	CCITT Group 3 (G3 Fax) 圧縮を施します。
	CCITT Group 4	CCITT Group 4 (G4 Fax) 圧縮を施します。
	Run Length	Run Length (RLE) 圧縮を施します。
	zlib (ZIP)	ZLIB (ZIP) 圧縮を施します。

テキストとラインアートの圧縮

PDFファイル中のテキストやラインアート(線画)部分を ZIP圧縮するか否かを設定します。通常、このオプションは選択した状態にします。

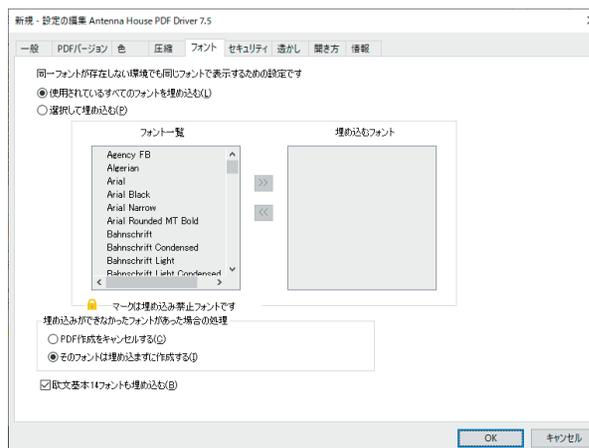
オブジェクトレベルの圧縮を行う

これは、出力する PDFのバージョンとして、1.5以降を指定した場合に有効となるオプションです。PDF Ver.1.5で用意された機能を利用して、よりファイルサイズを小さくすることができます。

ASCIIフォーマットで出力する

PDFファイル内の画像や圧縮されたテキストなど、PDFファイル中のバイナリデータ部分を ASCIIフォーマットの文字情報として出力します。出力されるファイルの内容をテキストエディタで確認できる反面、出力されるファイルサイズが大きくなります。通常、このオプションは、外した状態にしておきます。

フォント



この画面を使って、Antenna House PDF Driver 7.5が出力する PDFファイルへのフォントの埋め込みに付いての設定を行います。

使用されているすべてのフォントを埋め込む

..... 文書内で使用されている埋め込み可能なすべてのフォントを PDFファイルに埋め込みます。

選択して埋め込む 選択した埋め込み可能なフォントだけを出力する PDFファイルに埋め込みます。

フォント一覧 このリストにシステムにインストールされているすべてのフォントがリスト表示されます。フォント名の先頭に  が表示されているものは、埋め込みできないフォントであることを示しています。

埋め込むフォント 出力される PDFファイルに埋め込むフォントをリスト表示します。このリストにフォントを追加するには、「フォント一覧」リストにある対象となるフォントを選択した後、「>>」ボタンをクリックします。逆にリストから削除する場合には、「埋め込むフォント」リスト中の対象となるフォントを選択した後、「<<」ボタンをクリックします。

埋め込みができないフォントがあった場合の処理

PDF作成をキャンセルする

..... PDFファイルの作成を中止します。

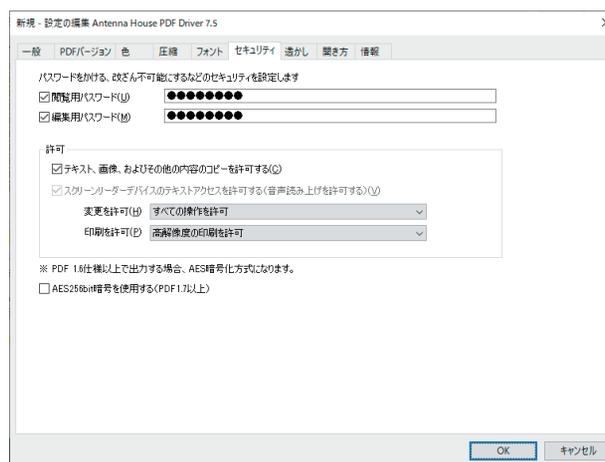
そのフォントは埋め込まずに作成する

..... 埋め込み可能なフォントだけを埋め込んで、PDFファイルを作成します。

欧文基本 14フォントも埋め込む

..... PDFには、フォントが埋め込まれていなくても、また閲覧環境にフォントがインストールされていなくても PDFビューアで正しく表示される Type 1フォント(欧文基本 14フォント: Courier, Times, Helvetica, Symbol, Zapf Dingbats)があります。通常、これらのフォントについては、埋め込み指定がされていても埋め込まれませんが、他のフォントと同様に埋め込む必要がある場合には、このオプションを選択します。

セキュリティ設定



この画面を使って、出力される PDFファイルに設定されるパスワード／セキュリティオプションを設定します。

閲覧用パスワード(ユーザパスワード)

PDFファイルを開く時に必要なパスワードの設定を行います。パスワードを設定する際には、チェックボックス「閲覧用パスワード」にチェックマークを付けて行います。

注意： 閲覧用パスワードには、半角英数字と記号からなる最大 32文字の文字列を設定することができます。

閲覧用パスワードには、編集用パスワードと同じ文字列をパスワードとして設定することができません。

編集用パスワード(マスタパスワード)

PDFファイルの編集や印刷を許可する範囲を設定するなどセキュリティ設定を変更する際に要求されるパスワードの設定を行います。パスワードを設定する際には、チェックボックス「編集用パスワード」にチェックマークを付けて行います。

注意： 編集用パスワードには、半角英数字と記号からなる最大 32文字の文字列を設定することができます。

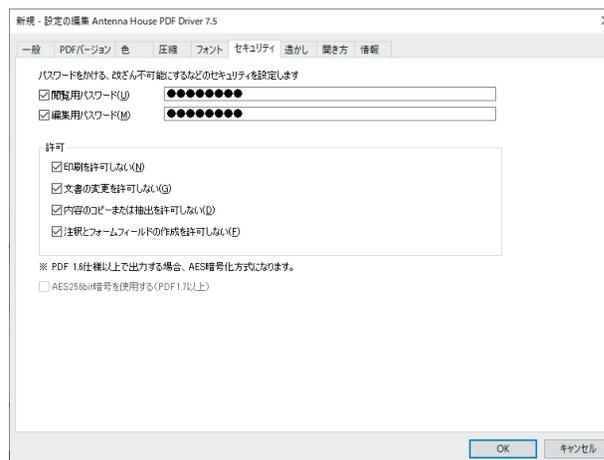
編集用パスワードには、閲覧用パスワードと同じ文字列をパスワードとして設定することができません。

許可

このエリアに表示されるオプションを使ってセキュリティレベルに応じた権限を設定します。設定の詳細については、次ページ以降を参照してください。

※ 出力する PDFのバージョンにより、このエリアに表示されるオプションが異なります。

出力するPDFのバージョンがPDF1.3の場合の許可オプション



セキュリティ:出力されるPDFのバージョンがPDF1.3の場合

印刷を許可しないこのオプションを選択すると印刷することができなくなります。

文書の変更を許可しない

.....このオプションを選択するとしおりの追加／削除、リンクの設定、フォームフィールドの編集等、PDF ファイルを変更できなくなります。

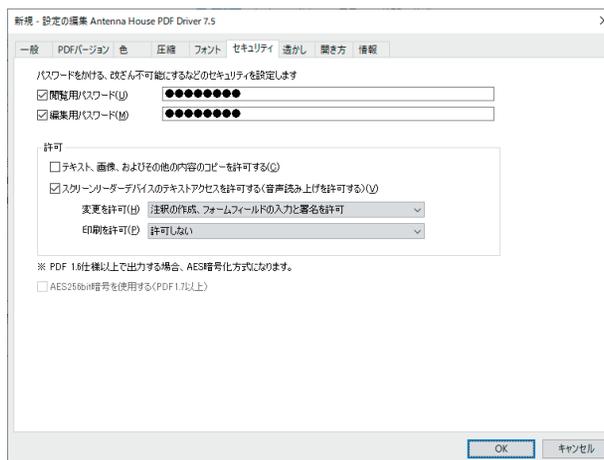
内容のコピーまたは抽出を許可しない

.....このオプションを選択すると PDF ファイルから画像／テキストのクリップボードへのコピー／ファイルへの抽出ができなくなると同時にアクセシビリティ機能を利用できなくなります。

注釈とフォームフィールドの作成を許可しない

.....このオプションを選択すると PDF ファイルへの注釈の追加／変更、フォームフィールドの追加／変更ができなくなります。(フォームフィールドへの値の入力は可能です。)

出力するPDFのバージョンがPDF1.4以降の場合の許可オプション



セキュリティ:出力されるPDFのバージョンがPDF1.4以降の場合

テキスト、画像、およびその他の内容のコピーを許可する

このオプションを選択すると作成された PDFファイルからのテキスト/画像の抽出/コピーを可能にします。

スクリーンリーダデバイスのテキストアクセスを許可する(音声読み上げを許可する)

このオプションを選択すると作成された PDFファイル閲覧時のアクセシビリティ機能(スピーチ機能/表示調整機能/キーボードによるマウス代替機能等)を有効にします。

変更を許可.....作成された PDFファイルについて許可する編集操作を指定します。

許可しない.....一切の変更を禁止します。(署名/フォームフィールドへの入力も行えません。)

フォームフィールドの入力と署名を許可

署名/フォームフィールドへの入力だけが行えます。

注釈の作成、フォームフィールドの入力と署名を許可

注釈の作成、署名/フォームフィールドへの入力だけが行えます。

ページの抽出を除くすべての操作を許可

ページの抽出と印刷以外の操作を行うことができます。

ページの挿入、削除、回転を許可

ページの挿入/削除/回転、しおり/サムネイルの作成を除いた変更を禁止します。

すべての操作を許可

すべての操作を許可します。

印刷を許可.....作成された PDFファイルを印刷する際の品質など、印刷にかかわる制限を指定します。

許可しない.....作成された PDFファイルの印刷ができなくなります。

低解像度の印刷を許可

PDFファイルを印刷する時の解像度が 150 dpiに制限されます。
また、各ページがビットマップ画像として印刷されるため、印刷速度が遅くなります。

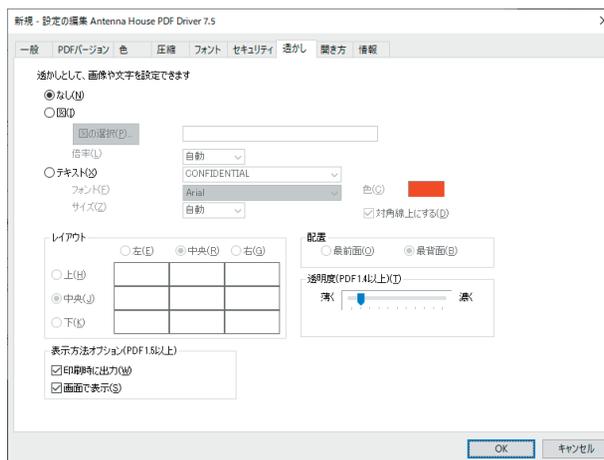
高解像度の印刷を許可

印刷時の制限が何も設定されないため、任意の解像度で印刷することができます。PostScriptプリンタを利用する場合には、高品質のベクトル印刷を行うことができます。

AES256bit暗号を使用する (PDF1.7以上)

.....「PDFバージョン」画面の「PDFのバージョン」で、PDF1.7以降のバージョンが設定されている場合、AES 256-bitの暗号化レベルで暗号化して PDFファイルを出力します。

透かし



この画面を使って、作成する PDFファイルの各ページ上に画像、またはテキストによる透かし(ウォーターマーク)を設定します。

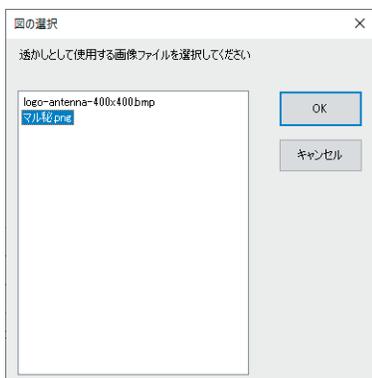
なし出力する PDFファイルに透かしを設定しません。

図あらかじめ Picturesフォルダに保存しておいた画像ファイル／PDFファイルの先頭ページを透かしとして出力する PDFファイルの各ページに設定します。透かしとして使用可能な画像ファイルの形式は、BMP/GIF/JPEG/PNG/TIFFです。
※ Pictureフォルダは、通常以下のパスに存在します。

C:\¥Program Files¥Antenna House¥PDF Driver 7.5¥Pictures

図の選択.....このボタンをクリックすると、Picturesフォルダに保存されている透かし用画像を選択するために「図の選択」ダイアログを表示します。画像を選択するとそのファイル名がボタン右のフィールドに表示されます。

倍率.....透かしとして設定する画像の拡大／縮小率を設定します。



「図の選択」ダイアログ

自動	画像の幅、または高さをページの幅、または高さ と一致する倍率に拡大／縮小して透かしとして設 定します。
500%	500%に拡大した画像を透かしとして設定します。
200%	200%に拡大した画像を透かしとして設定します。
150%	150%に拡大した画像を透かしとして設定します。
100%	拡大／縮小をせず、そのままの画像を透かしとし て設定します。
50%	50%に縮小した画像を透かしとして設定します。

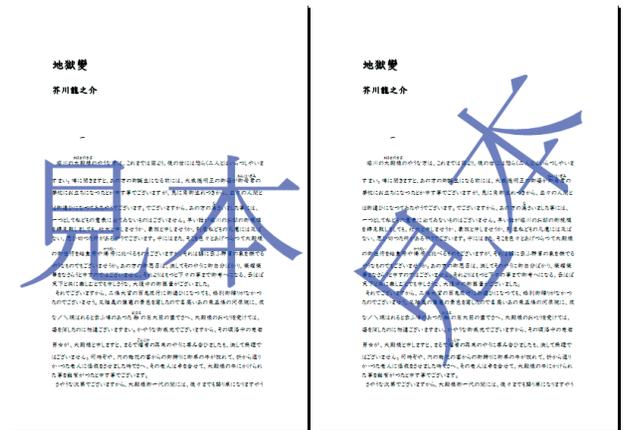
テキスト..... ラジオボタン右のコンボボックスに入力した文字列を透かしとして出力する PDFファイルの各ページにフォント／文字の色／フォントサイズを指定して設定します。

フォント透かしに使用するフォントを選択します。

サイズ透かしに使用するフォントサイズをポイント単位で指定します。自動を指定した場合には、文字列全体が、ページの幅、または対角線の長さいっばいに表示されるようなフォントサイズに設定されます。

対角線上にする

標準状態では、テキストによる透かしは、水平方向に配置されますが、ページの対角線に沿って透かしを設定する場合には、このチェックボックスにチェックマークを付けます。



対角線上にする: 無効 対角線上にする: 有効

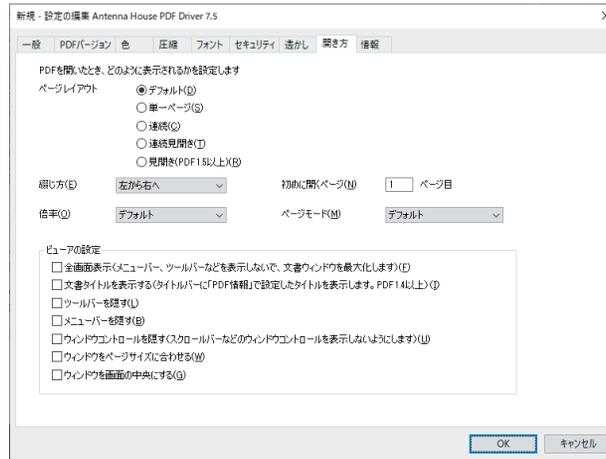
※ チェックボックス「対角線上にする」は、レイアウト設定で、水平・垂直方向ともに中央に設定したときだけ設定することができます。

レイアウト ページ上に配置する透かしの位置を設定します。

配置 透かしとなるレイヤーをページの最前面に配置するか、最背面に配置するかを設定します。

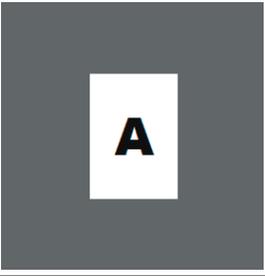
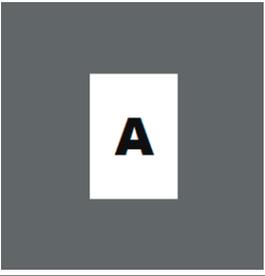
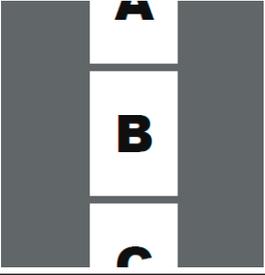
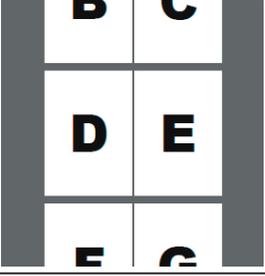
透明度 透かしの透明度を設定します。このオプションを利用するには、「一般」設定画面で、PDFのバージョンとして、1.4以降を選択している必要があります。また、出力する PDFのバージョンより新しいバージョンの PDFファイルを透かしに設定することはできません。

開き方

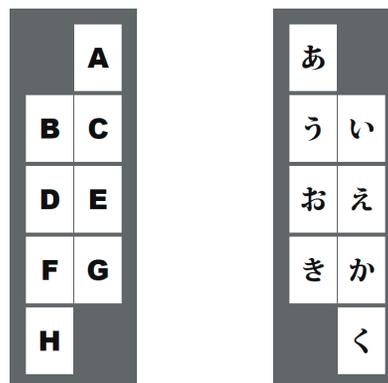


この画面を使って、出力された PDF ファイルを開いたときの表示状態の設定を行います。

ページレイアウト ... ページの表示方法を設定します。

デフォルト		PDF 閲覧ソフトの初期設定に従ったレイアウトでページを表示します。
単一		1 ページごと表示します。
連続		単一ページを連続表示します。
見開き		左右 2 ページを見開き表示します。
連続見開き		見開きページを連続表示します。

閉じ方 出力される PDFファイルを右綴じにするか、左綴じにするかを設定します。



右から左へ(右綴じ) 左から右へ(左綴じ)

はじめに開くページ

PDF閲覧ソフトで開く時に最初に表示されるページを指定します。

倍率PDF閲覧ソフトで開く時のページの表示倍率を指定します。

デフォルト	PDF閲覧ソフトの初期設定に従った倍率でページを表示します。
全体表示	ページ全体が PDF閲覧ソフトのページ表示域に表示できる倍率で表示します。
幅に合わせる	ページの幅が PDF閲覧ソフトのページ表示域に収まる倍率で表示します。
高さに合わせる	ページの高さが PDF閲覧ソフトのページ表示域に収まる倍率で表示します。
100%	ページを実寸(100%) で表示します。

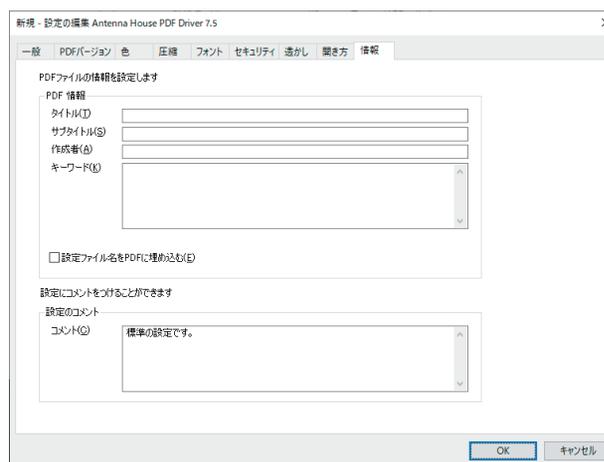
ページモードPDF閲覧ソフトで開く時、しおり／サムネイルなど、画面に表示されるパネルを指定します。

デフォルト	PDF閲覧ソフトの初期設定に従ったページモードを表示します。
ページのみ	ページだけを表示します
しおりパネルとページ	しおりパネルとページを表示します
ページパネルとページ	ページ(サムネイル) パネルとページを表示します。

ビューアの設定..... PDF閲覧ソフトで開く時、PDF閲覧ソフト(ビューア)のウィンドウなどの表示方法についての設定を行います。

全画面表示	ページを表示するウィンドウが最大化され、ページが画面全体に表示されます。この時、メニューバー、ツールバーおよびウィンドウコントロールは表示されません。
文書タイトルを表示する	ページを表示するウィンドウのタイトルバーに PDFファイルの文書情報「タイトル」に記録されているタイトルが表示されます。このオプションが設定されていない場合には、「タイトル」の代わりに文書のファイル名が表示されます。
ツールバーを隠す	PDF閲覧ソフトのツールバーを隠します。
メニューバーを隠す	PDF閲覧ソフトのメニューバーを隠します。
ウィンドウコントロールを隠す	スクロールバーなどのウィンドウコントロールを隠します。
ウィンドウをページサイズに合わせる	開いたページに合わせてページを表示するウィンドウのサイズを調整します。
ウィンドウを画面の中央にする	ページを表示するウィンドウを画面の中央に配置します。

情報



この画面を使って出力される PDFファイルに設定する文書情報(タイトル/サブタイトル/作成者/キーワード)、また、「設定」ダイアログの「一般」タブ画面で印刷設定を選択したときに「設定内容」フィールドの先頭に表示される選択した印刷設定についてのコメントを設定します。

PDF情報

文書情報(タイトル/サブタイトル/作成者/キーワード)の項目のそれぞれについて設定可能な文字数の上限は、半角英数字で255文字(2バイト文字の場合は127文字)までです。これを超える場合、上限となる文字数以降を切り落とし保存します。

設定ファイル名をPDFに埋め込む

このチェックボックスにチェックマークがついているの場合、文書情報のカスタム領域内に「AHPD_SettingFileName」という独自のキーで設定ファイル名が埋め込まれます。

設定のコメント

保存される印刷設定ファイルには、その設定内容などの説明を自由に設定することができます。設定するコメントの内容は、出力するPDFファイルには影響を与えません。

